



イスラエルの情報



イスラエル外務省

編集: Quality translation (QT)
グラフィック デザイン: Tsofit Tsachi
統計: 中央統計局 (特に指定のない限り)
印刷: 2010年
イスラエル、エルサレム

コピーは、イスラエルの在外公館またはインターネット
(www.mfa.gov.il) で入手できます。

目次

歴史	5
国家	69
国土	95
国民	127
保健と社会福祉	149
教育	167
科学技術	185
経済	203
文化	241
国際関係	323

歴史

聖書時代	8
第二神殿時代シオンへの帰還	14
外国の占領下	21
イスラエル国	37
和平プロセス	50
年表	58



6

G I O.
Danahe 17

Terra Hom 22

S P E R E A

M O R I B I V S

R E G I O

R V B E N.

V M.
Danahe 17

G I O.
Danahe 17

V A L L I

R E G I A

Taphar
R I B V A S

T R I B U S

P H R A I M.

Toparchia . 4

B E N

I A M A N A S S E

歴史

ユダヤ民族は、イスラエルの地(エレツ・イスラエル)に誕生しました。この地で民族の長い歴史の重要な部分が刻まれ、そのうちの2000年間は聖書に記録されています。この地でユダヤの文化的、宗教的、民族的な特性が形成されました。ユダヤ人社会は、多くの民が離散の憂き目にあいながらも何世紀にもわたってその存在を維持してきました。長きにわたる離散の時代にも、ユダヤの民がイスラエルの地との絆を絶つこと、この地を忘れることはありませんでした。そして遂に1948年のイスラエル建国によって、ユダヤ民族は2000年ぶりに独立を取り戻しました。

זכר ימות עולם בינו שנות דור ודור... (דברים ל"ב:ז)

昔の日を憶へ過にし世代の年を念へよ・・・(申命記32:7)

中世後期のイスラエル部族を示す地図の一部
提供:R. ベン・ハイム

聖書時代



ミケランジェロの
モーセ

(ローマ、サンピ
エトロイン・ピン
コリ教会)

族長の時代

ユダヤの歴史は、約4,000年前(紀元前17世紀)に族長アブラハムとその息子イサク、孫のヤコブによって始まりました。メソポタミアで発掘された紀元前2000~1500年頃の文献は、当時彼らが聖書に描かれたとおりの遊牧生活を送っていたことを裏付けています。「創世紀」には、アブラハムがカルデアのウルからカナンへと導かれ、唯一神を信じる民の祖となったことが描かれています。その後、カナン全土に飢饉が広がったときに、ヤコブ(イスラエル)と12人の息子はその家族とともにエジプトに移住しましたが、その子孫は奴隷にされたり強制労働を強いられたりするなどの憂き目にあいました。

出エジプトと入植

400年の隷属の後に、イスラエルの民はモーセによって解放されました(紀元前12~13世紀頃)。聖書によると、モーセはその民をエジプトから脱出させ、先祖に約束されていたイスラエルの地に連れ戻すために神によって選ばれた人でした。モーセらはシナイ砂漠を40年にわたって流浪

し、その間に「十戒」を含む「モーセ五書」を授かり、一神教の教えを形成していきました。出エジプト（紀元前1300年）は、ユダヤの民の記憶に深く刻まれ、束縛からの解放と自由を表す象徴となりました。毎年ユダヤ人は当時の出来事を記念して、ペサハ（過越祭）、シャブオット（七週祭）、スコット（仮庵祭）を行っています。

次の200年の間に、イスラエルの民はイスラエルの地の大半を獲得して農民や職人となり、経済社会的な統合がある程度進みました。比較的平和な時期と戦争の時代が交差するなか、人々は「士師」と呼ばれる指導者（その政治的軍事的手腕やリーダーシップの資質によって選ばれた人々）のもとに集まりましたが、ペリシテ人（地中海沿岸に入植した小アジアの海洋民族）の攻撃の脅威にさらされたことによって、このような部族組織の生来の弱さが露呈し、部族をまとめる統治者、世襲による永久的な統治者の存在が必要となりました。

「願わくは主があなたを祝福し、あなたを守られるように。願わくは主がみ顔をもってあなたを照らし、あなたを恵まれるように。願わくは主があなたにみ顔を向け、あなたに平和を賜るように」

（民数記 6:24-26）



エルサレムで発掘された、司祭の祝福を記した紀元前7世紀頃の小さな銀の巻物

イスラエル考古学庁

古ヘブライ文字を刻んだ親指サイズの象牙製のザクロ
 (紀元前8世紀、エルサレムの第一神殿のものと思われる)
 ・
 イスラエル博物館(エルサレム)



預言者たち：聖人、カリスマ的存在であり、神の啓示を受けているとされていました。王政の時代から紀元前586年のエルサレム陥落後1世紀もの間、教を説いていたとされています。宗教、倫理、政治に関して国王の指南役を務め、あるいは個人と神との関係に基づいて国王を批判するなど、預言者たちは正義の必要に導かれ、ユダヤ民族の道徳について力強い説法を展開しました。その啓示的経験は散文や詩の書物に

王政

最初の王であるサウルの時代(紀元前1020年)は、緩やかな部族社会の時代からサウルの継承者であるダビデ王の時代への移行期に当たります。

ダビデ王(紀元前1004年～965年)は、ペリシテ人を打ち破るなどの軍事遠征を成功させ、また近隣の王国と友好同盟を結ぶことによって、地域の列強王国を築きました。その結果、ダビデの権力はエジプト国境から紅海、さらにはユーフラテス川の岸边にまで拡がりました。国内では古代イスラエルの12の部族を1つの王国に統一してエルサレムに遷都し、王政を国の基盤としました。聖書ではダビデは詩人や音楽家として描かれており、その作品とされる詩が「詩篇」に載っています。

ダビデ王を承継した息子のソロモン(紀元前965～930年)は、王国をさらに強化しました。政略結婚などによる近隣諸王との盟約によってソロモンは王国の平和を確保し、当時の世界列強国と並ぶ国にまで押し上げました。また外国との交易を拡大する一

方で銅山や金属の溶練などの大規模産業を興し、新しい町を築き、戦略的、経済的重要性を有する旧市街を要塞化することで国の繁栄を促しました。その最たる功績は、後にユダヤの民の日々の生活や宗教生活の中心となる神殿をエルサレムに建立したことです。聖書の「箴言集」と「雅歌」は、ソロモン王の作とされています。

王国の分裂

ソロモン治世の晩年には、その野心的な計画のために重税を支払わされていた人民の不満がつのり、また王自身の部族が優遇されたことで他部族が敵意を抱くようになっていました。その結果、王政と部族分離主義者の間の対立は拡大し、ソロモンの死後（紀元前930年）、内乱によって王国から北の10部族が離反し、北のイスラエル王国と、ユダ族・ベンヤミン族の領土を国土とするユダ王国に分裂しました。

サマリアを首都とするイスラエル王国は、19代の王のもと200年以上にわたって続き、エルサレムを首都とするユダ王国は、ダビデの血筋を引く19人の国王によって400年にわたって統治されました。その後、

記録され、その多くは聖書にも描かれています。

預言者たちの不朽普遍の求心力は、人間の価値観の基本的考察を促す姿勢から生まれています。例えばイザヤ書(1:17)の「善を行うことをならい、公平を求め、しえたげる者を戒め、みなしごを正しく守り、寡婦の訴えを弁護せよ」との教えは、人類の社会正義の追求を支える力となっています。



ヤロブアムの召使
であるシエマへの
文字の刻まれた印
(メギド出土)

・
イスラエル考古
学庁

アッシリア帝国によってイスラエル王国が、バビロニア帝国によってユダ王国が外国の占領下に置かれることになりました。イスラエル王国はアッシリア人に征服され(紀元前722年)、王国の民は国を追われました。その100年後にはバビロニアによってユダ王国が征服され、住民の多くは捕囚されて、エルサレムと神殿は破壊されました(紀元前586年)。

第一回捕囚(紀元前586~538年)

バビロニアの征服によって第一神殿時代は終わりましたが、それでもユダヤの民のイスラエルの地とのつながりが絶えることはありませんでした。バビロンの河岸に座って、ユダヤ人はその父祖の地を決して忘れまいと誓ったのです。「エルサレムよ、もしわたしがあなたを忘れるならば、わが右の手を衰えさせてください。もしわたしがあなたを思い出さないならば、もしわたしがエルサレムをわが最高の喜びとしないならば、わが舌をあごにつかせてください」(詩篇137:5-6)

バビロン捕囚と第一神殿の崩壊(紀元前586年)が、ユダヤ人の離散の始まりでした。この頃にユダヤ教は宗教色を強め、ユダヤ人の国外での生活基盤を形成するようになりました。そして、ユダヤの民の存続と精神的な特徴を

支え、民族国家としての未来を守る生命力の源となっていたのです。



バビロンの川辺で
(E.M. リリアン)

第二神殿時代シオンへの帰還

ペルシア・ギリシア時代(紀元前538~142年)



ベルセポリス神殿の壁のレリーフに描かれた、ペルシアの偉大な王の1人、**クセルクセス王**

バビロニア帝国を征服したペルシア王キュロスの勅令(紀元前538年)に従い、約5万人のユダヤ人が、ダビデ家の子孫であるゼルバベルに率いられ第一団としてイスラエルへの帰還を始めました。それから1世紀と経たないうちに、律法学者のエズラに率いられた第二団の帰還が始まりました。次の4世紀にわたりユダヤ人は、ペルシアの支配下(紀元前538~333年)、ヘレニズム王朝の支配下(プトレマイオス朝とセレウコス朝、紀元前322~142年)のもとで、ある程度の自治を享受することができました。

エズラの優れた指導力のもと、ユダヤ人はイスラエルに帰還し、第一神殿の跡地に第二神殿を建設、エルサレムの城壁を要塞化しました。またユダヤ人の宗教上、司法上の最高機関であるクネセツ・ハゲドラ(大議会)が設立され、第二神殿時代が始まりました。ペルシア帝国の支配下、ユダヤはエルサレムの大司祭と長老会議を指導者とする国家として存続しました。

その後イスラエルの地は他の地域とともにギリシアのアレクサンダー大王に征服されました(紀元前332年)が、シリア・セレウコス王朝のもとでユダヤの神権政治は続きまし。しかし、やがてギリシアの文化と慣習を全人民に押し付けようとしてユダヤ教が禁止されて神殿が破壊されたため、ユダヤ人は蜂起しました(紀元前166年)。

ハスモン王朝(紀元前142～63年)

まずハスモン家の祭司マタティアスに導かれ、次にその息子であるユダ(マカビー)の指揮のもと、ユダヤ人はエルサレムに入り神殿を清めました(紀元前164年)。これを記念して毎年、ハヌカ祭が行われています。

ハスモン家の勝利(紀元前147年)により、セレコウス家はユダヤ(イスラエルの地の当時の呼称)に自治を復活させ、さらに紀元前129年のセレコウス朝の崩壊によって、ユダヤ人は独立を手に入れました。その後、約80年間続いたハスモン王朝のもと、ソロモン王の治世時とさほど変わらぬ広さの領土が回復され、ユダヤ律法に基づく政治的統一が達成されて、ユダヤ民族は繁栄しました。

マサダ：エルサレム陥落を生き延びた約1000人のユダヤ人の男女と子どもが、死海近くのヘロデ王の山の宮殿マサダを占拠・要塞化して、ローマ人の攻撃に3年にわたって抵抗しました。ついにローマ人はマサダを攻略し、その壁を突き破って侵入しましたが、中にいたユダヤ人たちはローマの奴隷となるよりも死を選び、既に集団自決していました。



タイタスのアーチの燭台、ローマ

メノラーの歴史

黄金のメノラー(7枝の燭台)は、古代エルサレムのソロモン王の神殿で儀式の主な道具として使われていました。この燭台は長きにわたり、様々な場所において様々な形態で、ユダヤの遺産と伝統のシンボルとされています。



紀元前1世紀のハスモン朝の硬貨に描かれたメノラー
(イスラエル考古学庁)



エルサレムのユダヤ人街から出土した2つの漆喰片に描かれたメノラー
(紀元前1世紀のもの)
(イスラエル調査協会)



エリコにある5~6世紀の礼拝堂のモザイクの床に描かれたメノラー
(イスラエル考古学庁)



クネセット(国会)近くのメノラー(ベンコ・エルカン)
(政府プレスオフィス(G.P.O.)/F. コーヘン)



第二神殿時代のエルサレムのヘロデの神殿

提供：イスラエル博物館(エルサレム)

ハラハーとは、聖書後の時代以降、世界中のユダヤ人の生活を導いてきた法典を意味します。ユダヤ人の宗教的義務を人間関係と儀式の両面から示し、人の行為のほぼあらゆる側面(誕生と結婚、喜びと悲しみ、農業や商業、倫理、神学理論など)を取り上げています。聖書を起源とするハラハーの権威は、タルムードと呼ばれるユダヤの法と教え(紀元後400年に完成)に基づいており、タルムードには口伝

ローマ支配(紀元前63年～紀元後313年)

セレウコス王朝に代わってローマ帝国が地域の列強国となると、ハスモン王ヒルカノス二世はローマのダマスコ州知事の支配下に入り、限られた権限しか持つことはできませんでした。ユダヤ人はローマ帝国の支配に反発し、その後は反乱が頻発しました。ハスモン王朝の過去の栄光を取り戻そうとする最後の試みがマタティアス・アンティゴヌスによって行われましたが、その敗北と死によってハスモン王朝は途絶え(紀元前40年)、イスラエルの地はローマ帝国の属州となりました。

紀元前37年にヒルカノス二世の娘婿であったヘロデが、ローマによってユダヤの王に任命されました。ユダヤの内政問題についてほぼ無限の権力を認められたヘロデ王は、ローマ帝国東部の最強の君主の1人となりました。ギリシア・ローマの文化の絶賛者としてヘロデは、カイザリアやセバステの都市造営やヘロディオン、マサダの要塞化など、多くの建築事業に着手しました。また神殿を、当時の最も荘厳な建築物の1つへと改修しました。しかし、その

多くの功績にもかかわらず、ヘロデはユダヤの民の信頼や支持を勝ち取ることはできませんでした。

ヘロデの死(紀元前4年)から10年後に、ユダヤはローマに直接支配されることになりました。ローマによるユダヤ人の生活に対する圧迫が強まるにつれて、ユダヤ人の怒りは膨れ上がって時々暴動が起きるようになり、遂に紀元後66年に大規模な反乱が生まれました。最終的にティトゥス率いる優勢なローマ軍が勝利を収め、エルサレムを占領し(紀元後70年)、ユダヤ人の最後の砦だったマサダも陥落しました(紀元後73年)。

エルサレムの陥落と第二神殿の崩壊は、ユダヤ民族に壊滅的な打撃を与えました。歴史家のヨセフス・フラビウスによると、無数のユダヤ人がエルサレム包囲攻撃などで命を落とし、またさらに多くのユダヤ人が奴隷として売られました。

その後、シモン・バル・コフバの反乱(紀元後132年)によって短期間ながらユダヤ人の自治独立が実現し、エルサレムとユダヤは奪還されました。ですがローマには圧倒的な力があったため、その3年後に不可避の結末が訪れました。すなわ

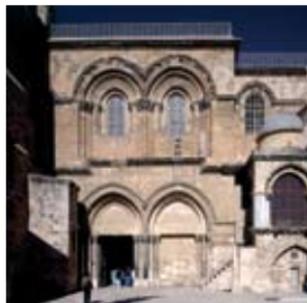
律法が初めて書物として編纂された「ミシュナー」(紀元後210年に成文化)や「ミシュナー」の注解書である「ゲマラ」が含まれています。ハラハーの簡略かつ体系的な指針書が1～2世紀頃から宗教学者によって著されるようになりました。これらの中で最も権威ある書物の1つが、16世紀にサフェド(ツファット)のヨセフ・カロの書いた「シュルハン・アルーフ」です。

外国の占領下

ビザンチン時代(313~636年)

4世紀末、コンスタンティヌス帝がキリスト教を公認(313年)し、ビザンツ帝国を創設した後、イスラエルの地はキリスト教徒を主体とする国となっていました。エルサレム、ベツレヘム、ガリラヤのキリスト教の聖地には教会が建てられ、国中には修道院が建設されました。ユダヤ人は以前までの自治権や公職に就く権利を奪われ、年に1度の「神殿崩壊を記念する断食日」(ティシヤ・ベアブ)以外はエルサレムに立ち入ることを禁じられました。

614年のペルシア軍の侵攻を、救世主による解放を求めるユダヤ人たちは支援しました。こうしが支援に対する見返りとして、ユダヤ人はエルサレムでの自治を認められましたが、これは3年しか続きませんでした。その後、ビザンツ軍がエルサレムを奪還し(629年)、再びユダヤ人居住者を追放したのです。



聖墳墓教会
・
I. スツルマン



パンと魚の奇跡の
教会の床の5世紀
のモザイク

・
イスラエル考古
学庁

アラブ征服時代(636~1099年)



ウマイヤ朝カリフ
のアブドゥルマリク
が建造した「**岩
のドーム**」(エルサ
レム)

1. スツルマン

ムハンマドの死(632年)の4年後にアラブ人がイスラエルの地を征服し、その支配は4世紀以上にわたって続きました。その間、当初はダマスコのカリフが、その後はバグダッドとエジプトのカリフがこの地を統治しました。当初、エルサレムのユダヤ人居住区は再興され、ユダヤ人社会は「ズィンミー」(異教徒の「庇護民」)の地位を与えられて、特別な賦課金や地税を支払う代わりに生命、財産、信仰の自由を保証されていました。

しかし、717年に異教徒に対する制限が課されるように

なり、ユダヤ人の公的立場や宗教生活、法的身分に影響が及ぼされました。また農地には重税が課されたので多くの農民が農村から町へと移住しましたが、町に移ってもその生活は一向に改善しませんでした。また社会経済的な差別の拡大によって、多くの者が国を離れざるを得ない状況に陥りました。その結果、11世紀末までにイスラエルの地のユダヤ人社会は大幅に縮小され、その組織的宗教的結束が損なわれました。

十字軍時代(1099~1291年)

続く200年の間、イスラエルの地は、教皇ウルバヌス二世の呼びかけによって異教徒から聖地を奪回するために欧州から派遣されてきた十字軍によって支配されました。1099年7月、5週間の包囲攻防戦の後、第一回十字軍の騎士とその暴徒と化した軍隊がエルサレムを占領し、非キリスト教徒の大半は殺害されました。ユダヤ人もシナゴグに立てこもって自らの居住区を守ろうとしましたが、攻防の末に焼き殺されたり奴隷として売られたりしました。十字軍は次の数十年の間に、一部は条約や協定によって、大半は血塗られた軍事征服によって、エルサレム以外の地域にもその権力を拡大していきました。ただし、十字軍によるラテン王国は、少数の征服者が要塞都市や城に閉じこもって支配している王国に過ぎませんでした。



十字軍国家「エルサレム王国」の王印

イスラエル考古学庁

十字軍が欧州から聖地までの交通路を開いたことによって聖地巡礼が盛んとなり、祖国へ帰ろうとするユダヤ人が増えました。当時の書物には、フランスとイングランドからは300人もものラビの一団が帰還し、一部の者はアッコに、その他の者はエルサレムに定住したと記されています。

1187年にサラディン率いるムスリム軍が十字軍を撃破したことによって、ユダヤ人は再びエルサレムに住む権利などを含めて一定の自由を与えられました。サラディンの死(1193年)によって十字軍は失地を回復しましたが、その範囲は要塞化された城内に限られていました。

イスラエルの地における十字軍の支配は、エジプトで勢力を拡大したムスリムの軍人層であるマムルーク人に敗北した(1291年)のを最後に、終焉を迎えました。

マムルーク朝時代(1291~1516年)

マムルークの支配下、イスラエルの地はダマスコから統治される属州となりました。アッコ、ヤッファ、その他の港は新たな十字軍による侵略を恐れて破壊され、海だけでなく陸地の交易も阻害されました。中世の終わり頃には町々は事実上の廃墟となり、エルサレムの大半は見捨てられ、小さなユダヤ人社会は貧困に喘いでいました。マムルーク朝の末期は、政治、経済の動乱、疫病、イナゴによる被害、大地震などに見舞われた暗黒の時代でした。

オスマン帝国時代(1517~1917年)

1517年のオスマン・トルコによる征服の後、イスラエルの地は4地域に分割され、行政的にはダマスコ州の一部としてイスタンブールから統治されることになりました。オスマン帝国時代の初期には、約1,000のユダヤ人家族がイスラエルの地、主にエルサレム、ナブルス(シケム)、ヘブロン、ガザ、サフェド(ツファット)、ガリラヤの村々に住んでいました。ユダヤ人社会は、この地に代々住み続けてきたユダヤ人の子孫や、北アフリカやヨーロッパからの移民で構成されていました。

1566年のスルタン・スレイマン大帝の死までは、秩序ある統治によって改善が進み、ユダヤ人の移民が促されました。一部の移民はエルサレムに定住しましたが、大半はツファットに住み着いたため、この町のユダヤ人口は16世紀中期までに約1万人にまで増加し、繊維の町として、また学問の中心地として栄えるようになりました。

この期間に、カバラ(ユダヤ教神秘主義)の研究が盛んに行われ、「シュルハン・アラーフ」に成文化されたユダヤ法の研究成果が、ツファットの研究施設からディアスポラ(離散ユダヤ人)へと伝えられました。

オスマン朝による統治の質が徐々に低下するにつれて、国土の荒廃が拡大し始めました。18世紀の終わりには国

土の大半が不在の領主によって所有され、貧しい小作人に貸し出されるようになり、小作人には領主の気まぐれで重税が課せられました。ガリラヤの大森林やカーメルの山からは木が根こそぎ抜かれ、農地は沼地や砂漠と化しました。

近代

19世紀になると、中世時代の後進性に代わって徐々に進歩の兆候が見られるようになり、様々な西欧の列強国が、主に伝道活動を通してこの地の主導権を得ようと試みるよ

うになりました。英仏米の学者は聖書考古学の研究を始め、英国、フランス、ロシア、オーストリア、米国がエルサレムに領事館を開きました。また欧州と蒸気船の定期便で結ばれるようになり、郵便や電信のサービスも開始されました。さらに、エルサレムとヤッファを結ぶ初の道路の建設とスエズ運河の開通によって、三大陸を結ぶ交易の十字路としてイスラエルの地の復興が加速されました。

シオニズム :ユダヤの民族解放運動で、その名は「シオン」(エルサレムとイスラエルの地を意味する古来の同義語)から取られています。シオニズムの思想(ユダヤ民族の祖国を取り戻すこと)は、イスラエルの地に対する連綿とした思いと深い愛着に根付いており、何世紀にもわたってディアスポラ(離散ユダヤ人)が保ち続けてきたものです。

その結果、ユダヤ人社会の状況は少しずつ改善され、その人数も大幅に増加しました。19世紀の中頃までにエルサレムの城壁都市は人口過密となったため、ユダ

ヤ人は城壁の外側に初の居住区を作り（1860年）、次の四半世紀の間にさらに7つの地区を追加して、新たな都市を形成しました。1870年には、ユダヤ人がエルサレムの人口の大半を占めるようになりました。農地があちこちで買われて新たに農村地区が設けられ、長らく礼拝と文学に限って使われてきたヘブライ語が復活しました。こうしてシオニズム運動の下地が形成されていったのです。

シオニスト思想に触発されて、19世紀の終わりりと20世紀の初頭に、東欧からこの国にユダヤ人の大規模な流入が二度行われました。土地を耕すことにより祖国を復活させようと決意したこれらの開拓者たちは、不毛の原野を開墾し、新しい入植地を建設し、後に繁栄する農業経済となるための基礎を築きました。

新しい到着者たちは極めて過酷な状況に直面しました。オスマン政府の態度は敵対的かつ非道なものであり、通信や交通は未発達で不確かであり、沼地は命取りとなるマラリヤの温床であり、土地は



テオドール・ヘルツル
・
セントラル・シオニスト・アーカイブス
(CZA)

政治的シオニズムは、東欧におけるユダヤ人の継続的な抑圧と迫害と西欧で増え続けた解放に対する幻滅（ユダヤ人に対する差別も地域社会への統合も実現ませんでした）から生じました。公式には、1897年のシオニスト組織の設立と、テオドール・ヘルツルが召集し、スイスのバーゼルで行われた第一回シオニスト会議によって始まったとされています。

す。シオニズム運動には、イデオロギー的な要素と実用的な要素の両方が含まれていました。ユダヤ人のイスラエルの地への帰還を促進し、ユダヤ民族の社会的、文化的、経済的、政治的復活を推進して、国際的に承認され法的に守られたユダヤ民族の祖国をその歴史的な誕生地に再建し、それによってユダヤ人が迫害から解放され、自身の生活とアイデンティティを確立できるようにすることを目指すものでした。



初代の英国パレスチナ高等弁務官、ハーバート・サミュエル卿

何世紀にも渡る放置のために被害を受けていました。土地の購入は制限されており、建設はイスタンブールでのみ取得できる特別許可なしには禁じられていました。このような困難な問題が国の開発を阻んだものの、彼らは開発の手を止めようとはしませんでした。第一次世界大戦(1914年)が勃発すると、この土地のユダヤ人口は、1500年代初頭の5,000人と比べて、85,000人にもなりました。

1917年12月、アレンビー大將指揮下の英国部隊がエルサレムに進軍し、400年に渡るオスマン帝国の統治が終わります。数千のユダヤ人志願兵により構成された三大隊を伴うユダヤ人部隊は、英陸軍の統合部隊となりました。

その同年(1917年)、英国政府は、ユダヤ人の民族的郷土をイスラエルに設立することを支持する宣言(バルフォア宣言として知られる)を発行しました。

英国の統治(1918-1948年)

1922年7月、国際連盟は英国にパレスチ

ナ委任統治を委託しました(この名前により、後にこの国が知られるようになりました)。ユダヤ人とパレスチナとの歴史的なつながりを認識して、英国は、パレスチナ-エレット イスラエル(イスラエルの地)にユダヤ人の民族的郷土の設立を促進するよう求められました。二ヵ月後の1922年9月、国際連盟の理事会と英国は、ユダヤ人の民族的郷土を設立する条項をヨルダン川の東地域に適用しないことに決定しました。この地域は委任統治に含まれる領土の3/4に相当するもので、最終的にヨルダン・ハシミテ王国になりました。

移民

シオニズム思想に啓発されて、またユダヤのシオニズムに対して英国が示した共感(1917年の外務大臣バルフォア卿による支持声明)に鼓舞されて、1919年から1939年の間に、次々とユダヤ人がイスラエルの地に移民し、様々な面でユダヤ人社会の発展に貢献しました。1919年から1923年の間に主にロシアから約3万5,000人が移民し、後のユダヤ人社会の性格や組織に大きな影響を与えました。彼らは開拓者として社会経済の包括的な基盤を築いて農業を発展させ、農村に独自の新たな協同組合式の入植村(キブツやモシャブ)を作り、家屋や道路建設の労働力を提供しました。

次の移民の波は、1924年から1932年の間に起こり、約6

万人が主にポーランドから移民して都市の暮らしの発展と改善に貢献しました。こうした移民は主にテルアビブ、ハイファ、エルサレムに定住し、小ビジネス、建設事業、軽工業を始めました。第二次世界大戦前の最後の大量移民の波は、ヒットラーがドイツで権力を手にした後の1930年代に起こり、約16万5,000人が移住しました。その多くは専門家や学者で、西欧や中欧からの初の大規模移民となりました。その教育、技術、経験によってビジネスの水準は高められ、都市や農村地域の環境が改善されて、ユダヤ人社会の文化生活は豊かになりました。

自治

英国委任統治政府は、ユダヤとアラブ双方の社会に自治権を認めました。イシュブと呼ばれるユダヤ人社会は、この権利を使って1920年に政党制に基づく自治組織を選出し、この組織は年次会議を開いてその活動を見直すとともに、政策と計画を実施する民族評議会（ヴァド・レウミ）を選びました。地元の資源と世界中のユダヤ人の調達した資金を使って、教育、宗教、健康、社会サービスの全国ネットワークが樹立され、維持されました。1922年には委任統治規約に従い、英国の当局、外国政府、国際機関に対してユダヤ民族を代表する機関として、「ユダヤ機関」が設立されました。

経済発展

英国委任統治下の30年の間に農業が発展しました。また工場が建設され、新しい道路が全国に敷設されました。ヨルダン川の水を使って発電が行われたほか、死海の鉱物の利用も図られました。1920年には労働者の福祉を促進し、雇用を生み出すことを目的としてヒスタドルート（労働総同盟）が創設され、工業部門における協同組合式企業の設立や農村への諸サービスの提供が図られました。



スドム・ボタッシュ
工場の蒸発プール
・
G.P.O./Z. クリュ
ーガー

文化

文化生活が日増しに活発化し、イスラエルの地のユダヤ人社会独自の文化が形成されていきました。芸術、音楽、舞踊の水準は、専門学校やスタジオの設立とともに徐々に高まっていきました。また画廊やホールで展示会や公演が行われ、目の肥えた観客で賑わいました。新しい演劇の催しや書物の出版、地元の画家の個展などはすぐにマスコミに取り上げられ、喫茶店や社交の場で大いに話題にされました。

ヘブライ語も英語やアラビア語と並んで国の公用語として認められ、書物、硬貨、切手やラジオ放送で使われる

ようになりました。ヘブライ語の出版が盛んに行われ、イスラエルは世界のヘブライ文学の活動の中心地となりました。様々なジャンルの演劇に熱狂的な観客が集まり、ヘブライの創作演劇が初めて書かれたのもこの頃です。

英国委任統治下の3つのユダヤ地下活動組織

最大の地下活動組織である「ハガナー」は、ユダヤ人の安全を守るための自衛軍として1920年にユダヤ人社会によって創設されました。1930年代の中期からは、アラブ人の攻撃に対抗し、大規模なデモや妨害行為によって英国によるユダヤ人移住の制限に抗議するようになりました。1931年に結成された「エツェル」は、ハガナーの自己規制を否定して、アラブと英国に対する独立運動を開始しま

アラブ人の反対と英国の制限

ユダヤ国家の復活と国を再建するコミュニティの取り組みは、アラブ民族主義者の強い反対に合いました。彼らの怒りは、激しい暴力が横行した期間（1920、1921、1929、1936-39年）に爆発しました。ユダヤ人の輸送機関はいやがらせを受け、耕作地や森は放火され、ユダヤ人住民に対していわれのない攻撃が行われました。アラブ人との話し合いの試みは、シオニストの初期の取り組みとして着手されましたが、最終的に失敗して、シオニズムとアラブ民族主義の対立を一触即発の状態にしました。2つの民族運動の相反する目的を認識した英国は、この国をユダヤ人国家とアラブ人国家の2つに分割することを提言しました（1937年）。ユダヤ人指導者は分割のアイデアを受け入れ、この提言のさまざまな局面を策定し直す取り組みにおいて、ユダヤ人機構に英国政府と交

渉する権限を与えました。一方、アラブ人はどのような分割計画にも断固反対しました。

その後もアラブ人による反ユダヤ暴動が続いたため、1939年5月に英国は白書を発行し、ユダヤ人の移住を大幅に制限しました。そのため欧州のユダヤ人は、ナチスの迫害からの避難場所を失ってしまいました。

第二次世界大戦の開戦直後に、後にイスラエルの初代首相となったダビッド・ベン・グリオンは、「我々は、白書などないものとして戦い、戦争などないものとして白書と戦う」との宣言を出しました。

ホロコースト

第二次世界大戦時(1939~45年)、ナチスは欧州のユダヤ人社会をなきものにするという計画を組織的に実行し、それによって150万人の子供を含める約600万人のユダヤ人が虐殺されました。ナチス軍が欧州全土を手中に収めるにつれて、ユダヤ人はますます厳しい迫害を受けるようになり、拷問や屈辱に晒されてゲットー(ユダヤ人隔離地区)に追いやられました。さらにゲッ

ライフルを隠そう
としている地下自
衛組織のメンバー
(1947年)
・
G.P.O./H. ピン



した。最も小規模でありながら最も戦闘色の強い「レヒ」は1940年に組織されました。以上3つの組織は、1948年のイスラエル国防軍の編成に伴って解体されています。

ナチスがユダヤ人に身につけることを強要した黄色のワッペン



第二次世界大戦中のユダヤ人志願兵：イスラエルの地の2万6,000人を超えるユダヤ人の男女が、ナチスドイツとその同盟軍と戦うために英国軍に加わり、陸軍、空軍、海軍に自ら従軍しました。国内におけるユダヤ機関の取り組みと海外におけるシオニズム運動の成果によってパレスチナのユダヤ人の戦功が認められ、1944年9月、ユダヤ旅団が英国陸軍の独立軍事部門として独

トーで軍事抵抗を試みたために、ユダヤ人はより厳しい状況に置かれ、ゲットーから収容所へと送られたのです。収容所ではわずかの幸運な者は厳しい労働を強いられる一方、大半の者は銃殺によって大量処刑されたり、ガス室に送られたりしました。この難を逃れることができた者は僅かでした。その一部は他国に逃亡し、パルチザンとなり、その他の者は自らの命を危険に晒してもユダヤ人をかくまおうとする非ユダヤ人のもとに身を寄せました。結果的に、大戦前に欧州を逃れた者を含めて、かつては世界で最大かつ最高に活力のあるユダヤ人社会を形成していた約900万人のユダヤ人のうち、わずか3分の1しか大虐殺を生き延びることはできませんでした。

戦後、アラブに感化された英国は、イスラエルの地に入植するユダヤ人数の制限を強めましたが、ユダヤ人社会はホロコースト生存者を救済するための「非合法移民」の広範なネットワークを構築

してこれに対抗しました。1945年から1948年の間に、難民のイスラエル到着を阻止しようとする英国海軍による封鎖や国境警備にもかかわらず、約8万5,000人のユダ

ヤ人が、多くは危険なルートを通して秘密裏にイスラエルの地へとたどり着きました。軍に捕らわれた者はキプロス島の仮収容所に送られるか、または欧州に送還されました。

独立への道

ユダヤ人社会とアラブ人社会の相反する要求の調停に失敗した英国は、パレスチナ問題を国連総会の議題とするように要請しました(1947年4月)。これを受けて、パレスチナの将来について提案する特別委員会が結成されました。1947年11月29日に国連総会は投票を行い、イスラエルの地を2つの国(ユダヤ国家とアラブ国家)に分割するという委員会勧告を採択しました。この勧告をユダヤ人社会は受け入れましたが、アラブ側は拒否しました。

国連決議の後、アラブ諸国の不穏分子の支援を得た地元のアラブ軍人が、ユダヤ人社会に対する激しい攻撃を開始しました。分割決議の履行を阻止し、ユダヤの建国を阻害するための攻撃でした。何度も苦戦を強いられた後に、ユダヤの防衛組織は大半の攻撃軍を撃退し、ユダヤ国家に割り当てられた地域を死守しました。

英国陸軍キャンプのユダヤ人兵士のP.O./Z. クリューガー



自の旗と紋章のもとに設立されました。約5,000人の兵士で構成されたユダヤ旅団は、エジプト、北イタリア、北西ヨーロッパで活躍しました。欧州における連合軍の勝利(1945年)の後、旅団のメンバーの多くは「非合法移民」の活動に加わり、ホロコースト生存者をイスラエルの地に送り込みました。

喜びにわく人々
(1947年11月29
日、テルアビブ)・

G.P.O./H. ピン



1948年5月14日に英国による委任統治は終わりました。その当時、イスラエルの地には約65万人のユダヤ人がいました。ユダヤ人社会では政治、社会、経済の制度が整い、まだ正式の「国」として認められてはいないものの、事実上はどこから見ても国家が形成されていました。

イスラエル国

1948年5月14日、イスラエルは独立を宣言しました。それから24時間も経たないうちに、エジプト、ヨルダン、シリア、レバノン、イラクの正規軍がイスラエルに侵攻してきたため、イスラエルは祖国において回復した主権を守る戦いを余儀なくされました。

イスラエル独立戦争はこうして始まり、装備もままならぬイスラエル国防軍（IDF）は、約15ヶ月にわたって激しい戦闘と停戦を繰り返した後に、侵攻軍を撃退しました。この戦いによって6,000人を超えるイスラエル人（当時のイスラエルのユダヤ人口の約1パーセントに相当）の命が失われました。

1949年の初めの数ヶ月、イスラエルと各侵攻国（イスラエルとの交渉を拒否したイラクを除く）の間で国連仲介のもと直接交渉が行われ、戦闘の最終局面の状況を反映する内容で休戦協定が締結されました。すなわち、沿岸平野部、ガリラヤとネゲブ

1947年当時の分割計画(国連決議第181号)



1949～1967年の軍事境界線



長ハイム・ヴァイツマンが大統領に選出されたのです。さらに1949年5月11日に、イスラエルは国連の第59番目の加盟国となりました。

大志の人、**ダビッド・ベン・グリオ**

G.P.O./K. ソルタン

イスラエルの存在理由の根幹をなす「離散者の集合」の概念に従って、イスラエル国の門戸は広く開放され、全てのユダヤ人にイスラエルへの入国の権利と市民権の取得権が保証されました。独立から最初の4ヶ月間に、約5万人（その多くはホロコースト生存者）がイスラエルにたどり着きました。1951年の終わりまでに、総計68万7,000人の男女と子供がイスラエルに入国しましたが、そのうちの30万以上の人々がアラブの領土からの難民でした。その結果、イスラエルのユダヤ人口は倍増しました。



イエフドの大広場に置いた荷物の上に子供達と一緒に座る移民の女性

G.P.O./K. ソルタン

イスラエル独立戦争によって引き起こされた経済的なひずみと、急速に拡大する人口を支える必要性から、国内では質素倹約が求められ、また外国には財政支援が要請されました。

米国政府からの支援、米国銀行からの融資、離散ユダヤ人

からの寄付、そして戦後のドイツからの賠償金により住宅の建設、農業の機械化、商船隊の編成、国営航空会社の設立、鉱物資源のが開発、産業開発と道路の建設、電気通信や電力のネットワーク構築が行われました。

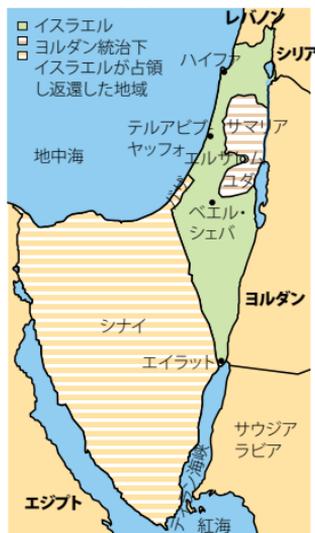
独立後最初の10年が終わる頃には工業生産は倍増し、雇用者数も2倍に増えていました。さらに工業製品の輸出は4倍になりました。耕作地の拡大によって肉類と穀類を除くあらゆる基本的食料の自給が可能となり、5万エーカーの荒地は植林されて、道路沿いには約800 kmにわたって木が植えられました。

教育制度は建国以前からユダヤ人社会によって整備されていましたが、アラブ人社会も教育の対象に含めたことによって、さらにその範囲は大きく拡大しました。5歳から14歳の子どもの学費は無料となり、義務教育化されました。(1978年以降は16歳までが義務教育化され、また18歳まで学費無料とされています。)文化や芸術の活動が活発化し、世界中から移民してきたユダヤ人が各自の帰属社会の独自の伝統をイスラエルにもたらし、また何世代にもわたって住んできた諸国の文化を持ち込んだことによって、中東、北アフリカ、西欧の要素が交じり合いました。イスラエルが建国10年を迎える頃には、その人口は200万人を超えていました。

1956年のシナイ作戦

建国の年月には、深刻な安全保障問題が影を落としていました。1949年の停戦協定は恒久的な平和につながらなかっただけでなく、常に違反行為が行われていたのです。1951年9月1日の国連安全保障理事会決議にもかかわらず、イスラエル人とイスラエルからの物資の輸送はスエズ運河の航行を阻害され、ティラン海峡の封鎖は強化され、テロリスト集団が近隣のアラブ諸国から殺人と妨害行為を目的に益々頻繁にイスラエルに侵入するようになっていました。またシナイ半島は、徐々にエジプトの巨大な軍事拠点と化していたのです。

1956年のシナイ作戦



エジプト、シリア、ヨルダンによる三国軍事同盟の締結（1956年10月）により、イスラエルの国家としての存続に対する危急の脅威が高まりました。8日間の作戦でイスラエル国防軍はスエズ運河の東16 kmのところまで進軍し、ガザ地区とシナイ半島全域を占領しました。しかし、国連が国連緊急軍（UNEF）をエジプトとイスラエルの国境に配備することを決め、またエジプトがエラット湾の航行の自由を保証したことから、イスラエルは数週間前に占領した地域からの段階的な撤退（1956年11月～1957年3月）に同意しま

した。その結果ティラン海峡は開放され、イスラエルはアジアや東アフリカ諸国との交易やペルシア湾からの原油の輸入を行えるようになりました。

国家強化の年月



「全国水道網」のコンクリートパイプの断面
(直径108インチ)

提供: セントラル・シオニスト・アーカイブス

イスラエル建国から2度目の10年の間(1958年~1968年)に輸出が倍増し、GNPは年平均約10%の成長率を示しました。紙、タイヤ、ラジオ、冷蔵庫などの以前は輸入されていた製品が国内で生産できるようになり、新規の金属、機械、化学品、エレクトロニクスの分野において最も急速な成長が見られました。農業製品の国内市場が飽和状態に近づくにつれて、農業部門は食品加工業界向けにより多くの品種を育てるようになり、また輸出向けの農産物の生産も始まりました。さらに貿易量の増加に対応するために、既存のハイファ港に続く2つ目の深海港が地中海沿岸のアシュドッドに作られました。

エルサレムでは国会議事堂が建設され、独立戦争により放棄を余儀なくされたスコープス山のヘブライ大学とハダッサ医療センター施設が新たに別の敷地に建てられました。同時に、ユダヤ民族の文化的芸術的な遺産を収集、保存、研究、展示する目的で、イスラエル博物館も設立されました。

イスラエルの対外関係も着実に拡大し、特に米国、英連邦諸国、大半の西欧諸国、ラテンアメリカとアフリカのほぼ全ての諸国、及びアジアの複数の諸国との間に、緊密な絆が結ばれました。さらに国際協力の様々な計画が開始され、イスラエルの医師、エンジニア、教師、農業技術者、灌漑の専門家、青少年の指導者らがその他の開発途上国に送られ、現地の人々にそのノウハウや経験を伝えました。さらに1965年にはドイツ連邦共和国との間で大使が交換されました。ドイツとの国交正常化については、ナチス政権時代(1933年~45年)にユダヤ人に対して犯された様々な罪に関する苦い思い出があるためにユダヤ人の間に激しい反対があり論争が続きましたが、ようやく実現される運びとなったのでした。

1967年の六日戦争

次の10年は以前よりも平穏に暮らしたいと願う人々の思いは、アラブのテロリストによるエジプト、ヨルダンの国境を超えた襲撃、北ガリラヤの農村地区に対するシリアの砲撃、さらに近隣アラブ諸国による軍事力の増強によって夢に終わりました。1967

アイヒマン裁判：1960年5月に、アドルフ・アイヒマンは第二次世界大戦中にナチスによる大量虐殺を指揮したとしてイスラエルに連行され、イス



ラエルのナチス及びナチス協力者処罰法(1950年)に基づく裁判を受けました。1961年4月開廷の裁判において、アイヒマンは人道とユダヤ人に対する罪で死刑を宣告されました。アイヒマンは最高裁判所に上訴しましたがこの訴えは棄却され、1962年5月30日に絞首刑に処せられました。これは、イスラエルの法のもとで執行された唯一の死刑となりました。



1967年の六日戦争後の休戦協定ライン

西壁の空挺部隊員

G.P.O/D. リュビンガ



年5月にエジプトが再び大軍をシナイ砂漠に進駐させ、1957年以降シナイ半島に駐留してきた国連監視軍の撤退を要求、ティラン海峡の封鎖を宣言してヨルダンと軍事同盟を結んだことから、イスラエルはアラブ諸国軍に包囲されて四面楚歌の状態に陥りました。イスラエルはユダヤ国家崩壊に向けた準備を整えている近隣諸国に対してその自衛権を行使し、1967年6月5日に南部でエジプトに先制攻撃をしかけ、続いて東部でヨルダンに反撃し、北部のゴラン高原でシリア軍と戦いました。

6日間の戦闘の末に、先の休戦協定ラインは新たな休戦協定ラインに代わり、ユダ、サマリア、ガザ、シナイ半島、ゴラン高原がイスラエルの支配下に入りました。その結果、北部の農村は19年におよびシリア軍の砲撃から解放され、ティラン海峡の開放によってイスラエル船とイスラエル向け船舶が自由に航行できるようになりました。さらに1949年からイスラエルとヨルダンの間で分割されていたエルサレムは、イスラエルによって再び統一されました。

戦争から戦争へ

六日戦争の後イスラエルは、その軍事的勝利を国連安保理決議第242号に基づく恒久的な平和に変換するための外交努力を行いました。決議第242号は、当該地域のあらゆる諸国の国家主権、領土保全、政治的独立を承認し、安全かつ合意された境界内において軍事行為による脅威を受けずに平和に生存する権利を認めるよう求めていました。しかしアラブ側は、1967年8月のハルツーム首脳会議で決議された通りに、「イスラエルと和平を結ばず、イスラエルと交渉せず、イスラエルを承認しない」とする態度を貫きました。1968年9月にエジプトはスエズ運河の岸沿いに散発的な砲撃を開始し(「消耗戦争」、これが本格的な戦闘へと発展したために両国ともに多くの戦死者が出ました。この戦争は1970年に終結し、エジプトとイスラエルはスエズ運河沿いの新たな休戦協定ラインを受け入れました。

1973年のヨム・キプール戦争

国境を挟んで比較的平穏な時期が3年間続いたものの、1973年10月6日、ユダヤ教の最も聖なる祭日であるヨム・キプール(大贖罪日)に、エジプトとシリアはイスラエルに対して奇襲攻撃を加え、エジプト軍がスエズ運河を渡って侵入、シリア軍はゴラン高原に侵攻しました。次の3週間でイスラエル国防軍は形勢を逆転して反撃に転じ、スエズ運河を越えてエジプトに入り、シリアの首都であるダマス

カスから32 km地点にまで迫りました。その後、イスラエルとエジプト、シリアの間で2年にわたる困難な交渉が行われた末に休戦協定が結ばれ、イスラエルはこの戦争で占領した一部の地域から撤退しました。

テロリズム：イスラエルに対するアラブ人とパレスチナ人のテロ攻撃は、イスラエル建国の何十年前から続いています。1967年の六日戦争（イスラエルが敵方の領土を占領しました）までの20年間に、無数のテロリスト攻撃によって多数のイスラエル市民が死傷しています。そして1964年に設立されたPLOが、こうした対イスラエル攻撃の急先鋒となったのです。

1970年代と1980年代には、PLOのもとで多数のテロリスト組織がイスラエル内外で多数の攻撃を開始しました。

1982年のガリラヤの平和作戦

イスラエルは、北の隣国であるレバノンとの争いを望んだことは一度もありませんでした。しかしパレスチナ解放機構（PLO）が1970年のヨルダン追放後に南レバノンで再び活動を展開し、北イスラエル（ガリラヤ）の町や村に繰り返しテロ活動を行ったことで多数の犠牲者と被害が出たことから、イスラエル国防軍は国境を越えてレバノンに進軍しました（1982年）。この「ガリラヤの平和作戦」によってイスラエルは、PLOの組織的、軍事的勢力の多くをこの地域から退去させ、次の18年にわたって北の国境に隣接する南レバノンに小さな安全保障地帯を確保し、敵対分子による攻撃からガリラヤ市民を守りました。

戦争から平和へ

1977年の総選挙の結果、リクード党（右派、中道の連合）が政権を取り、30年近く

続いた労働党政権は終わりました。新たに首相となったメナハム・ベギンは、歴代首相が公約としてきた中東の恒久的和平に向けた努力の決意を改めて表明し、アラブ指導者らに交渉の席に着くよう呼びかけました。

アラブ側はその後もイスラエルの和平の訴えを拒否し続けましたが、ようやく1977年11月にエジプトのアンワル・サダト大統領がエルサレムを訪問し、米国の仲介によるエジプトとイスラエルの交渉が始まりました。その結果、1978年9月にキャンプ・デービッド合意が調印されました。この合意にはパレスチナ人の自治に関する詳細案を含めて、中東における包括的な和平に向けた枠組みが示されていました。

1979年3月26日に、イスラエルとエジプトはワシントンDCで和平条約に調印し、30年に及ぶ両国の戦争状態は終結しました。この条約の規定に従ってイスラエルはシナイ半島から撤退し、それまでの休戦協定を両国の間で合意した国際境界線と取り替えました。

エジプト大統領**サダト**、米大統領**カーター**、イスラエル首相**ベギン**

・ G.P.O./Y. サール



エジプト、ヨルダンとの和平

特に酷かった攻撃の1つは、1972年ミュンヘンオリンピックでの11人のイスラエル選手の殺害でした。

1993年にパレスチナ人はテロを停止することを約束し、それがパレスチナとイスラエルの和平プロセスの基盤となりました。それにもかかわらずテロ攻撃は続き、2000年の9月以降はさらに悪化して、1000人を超えるイスラエル人が殺害され、数千人以上が負傷しました。

さらに、1991年のマドリード中東和平会議後の3年に及ぶヨルダンとイスラエルの協議の末、ヨルダンのフセイン国王とイツハク・ラビン首相は、両国の46年にわたる戦争状態の終結宣言を出しました(1994年7月)。そしてヨルダン・イスラエル平和条約が1994年10月26日にアラバ国境(イスラエルのエイラットとヨルダンのアカバの近く)において、クリントン米国大統領の立会いのもと、調印されました。

国内問題

1980年代と1990年代にイスラエルは、主に旧ソビエト連邦、東欧、エチオピアから100万人を超える新移民を受け入れました。こ

イツハク・ラビン首相とヨルダンのフセイン国王

G.P.O./Y. サール



れだけ多くの消費者や熟練、非熟練の労働者が流入したことによって、経済は加速的成長期に入りました。

1984年の総選挙後、イスラエルの政府は二大政党の労働党(左派/中道)とリクード党(右派/中道)で構成されていましたが、1988年にリクード党率いる連合政権が誕生し、1992年には労働党と左派中道の小党の連合政権がこれに取って代わりました。1995年のイツハク・ラビン首相の暗殺後、1996年に新たに選挙が行われました。首相の直接選挙でベンヤミン・ネタニヤフが首相となり、リクード党率いる連合政権を樹立しました。しかし3年も経たないうちにこの政権は敗北を喫しました。1999年に1つのイスラエル党

(左派/中道) 党首のエフード・バラクが首相に選ばれ、連合政権を樹立したのです。2000年12月にバラク首相は退陣し、2001年初頭からはリクード党首のアリエル・シャロンが首相に就任、その政権は2006年初めにシャロンが脳卒中で倒れるまで続きました。その後は、カディーマ党(シャロンが2005年11月に結成)のエフード・オルメルト党首が後継の首相となりました。

毎年、イスラエルでは暗殺されたイツハク・ラビン首相の追悼記念行事が行われます。1995年11月4日にラビン首相はユダヤ人過激派によって殺害されました。人々は、この軍事出身の政治家、国家を戦場から平和へと導いた政治家の死を強く悼みました。

どの政権も、その政治的信条に基づいて和平の達成、経済発展、移民の受け入れに努めました。

和平プロセス

1979年のエジプト・イスラエル平和条約の調印以降、中東和平に向けてイスラエルその他の諸国は様々な取り組みを行いました。その結果、1991年10月には米国とソ連の仲介により、イスラエル、シリア、レバノン、ヨルダン、パレスチナ人の代表が出席してマドリード中東和平会議が開催され、公式会議後に当事者間で二カ国間交渉や中東問題に関する多国間協議が行われました。

二カ国間協議

イスラエルとパレスチナ人：イスラエルとパレスチナ解放機構（PLO）の交渉担当者が数ヶ月にわたってオスロで水面下の交渉を行った結果、西岸とガザ地区におけるパレスチナ人自治の取決めを記した「暫定自治政府原則に関する宣言」（DOP）が出されました。この宣言の調印（1993年9月13日）に先立ち、ヤーセル・アラファトPLO議長とイツハク・ラビン首相は書簡を交わし、その中でPLOはテロリズムを停止することを宣言し、イスラエルの存在権を否定するPLO条項を無効として、長年にわたる争いを平和的に解決することを誓いました。これを受け、イスラエル側はPLOをパレスチナ人の代表として認めました。

DOPには、当事者双方が認めたパレスチナ人による5年間の暫定自治原則が記され、イスラエルとパレスチナの

様々な交渉段階の枠組みが定められていました。ガザ地区とエリコ地域におけるパレスチナ人自治の取決めは、1994年5月に実施されました。さらにその3ヵ月後には、教育、文化、保健、社会福祉、直接課税、観光に関し、西岸における権限と責任が移譲されました。イスラエルとパレスチナ人によるDOPなどの協定の調印に続き、1995年9月には「イスラエル・パレスチナ暫定自治拡大協定」が調印されました。

この拡大協定には、1996年1月に選出された自治組織であるパレスチナ評議会によるパレスチナ自治政府の拡大と、西岸におけるイスラエル国防軍の継続的撤退について定められていました。また、最終地位協定の調印に向けてイスラエル・パレスチナの関係を管理するための方法についても規定されていました。この暫定自治拡大協定に基づき、ヨルダン川西岸は以下の3地域に分割されました。

A地域－西岸地区の主要都市で構成され、パレスチナ評議会が治安と民政に関する責任を負う地域。(ヘブロン市には暫定自治拡大協定に定める特別な取決めが適用され、イスラエル軍のヘブロン撤退に関するヘブロン・プロトコルが1997年1月に調印されました。)

B地域－西岸地区の小さな町と村で構成され、パレスチ

ナ評議会が(A地域と同様に)民政と公的秩序維持の責任を負う一方、イスラエルがその市民を保護し、テロと戦うために治安を管轄する地域。

C地域—西岸地区のユダヤ人居住区。イスラエルにとって戦略的に重要な地域、及びほぼ無人の地域で構成され、イスラエルが治安と公的秩序、領土に関する民政の責任(計画や区分、考古学関係など)を全て負う地域。一方パレスチナ評議会は、パレスチナ人についてその他の民政の責任を負います。

暫定自治拡大協定に規定された撤退段階をさらに進めるための日程は、イスラエルとパレスチナ双方によって何度も(1998年10月のワイ・リバー覚書などによって)改訂されました。こうした双方の合意に基づく改訂に従い、イスラエルは追加撤退(FRD)プロセスの第一段階と第二段階を2000年3月に完了しました。こうした撤退の結果、西岸地区の18%以上がA地域に、21%以上がB地域に指定され、西岸のパレスチナ人口の98%がパレスチナ自治政府の支配下に入りました。

イスラエル、パレスチナ間の最終合意に向けて、当事者間の最終地位交渉が予定通り1996年5月に始まりましたが、ハマスのテロリストが1996年にエルサレムやテルアビブで自爆テロを起こしたことから、イスラエルの

和平プロセスの見通しに暗雲が立ち込めました。交渉は3年間中断し、1999年9月にシャルム・エル・シェイク覚書が調印された後ようやく再開されました。交渉の議題には、難民、定住地、安全保障、国境、エルサレムに関する事項など多くの問題が含まれていました。2000年7月には、イスラエルのバラク首相とパレスチナのアラファト議長がクリントン米国大統領の招きでキャンプ・デービッドを訪れて交渉再開に向けた首脳会議を行いました。アラファト議長が寛大な申し出の受け入れを拒否したために何ら合意には至りませんでした。ただし、この会議では三カ国による声明が出され、更なる交渉に向けた方針が示されました。

2000年9月にパレスチナ人は、「インティファダー」と呼ばれる無差別テロと暴力作戦を開始し、それによって双方に多くの死傷者が出ました。このようなパレスチナ側のテロの継続によって、激しい対立を終わらせ和平プロセスを再開しようとする多くの取り組みは失敗に終わりました。

イスラエルは、2002年6月24日にブッシュ米国大統領がその演説の中で示したパレスチナのテロを終わらせるための構想(あらゆる問題の最終決着と和平に向けた構想)を受諾しました。

さらに2003年5月25日にイスラエルは中東和平計画（「ロードマップ」）を受け入れ、その実行に不可欠と見なす内容を発表し、米国もそうした内容を支持することを表明しました。一方で、パレスチナ側は、ロードマップの第一段階の義務、特にテロを無条件に停止し扇動を止めるという義務さえまだ果たしていません。そこでイスラエルは、テロに対する措置の一環として対テロ防護フェンスの設置しました。

2005年8月に、イスラエルはガザ地区と北部サマリア(西岸)の4つの居住区から撤退しましたが、パレスチナによる5年に及ぶテロを終わらせ、和平プロセスの停滞を脱するためのものでした。が、パレスチナによるテロは続きました。ハマスが選挙で勝利した後、ガザ地区から北ネゲブに向けてカッサムミサイルによる攻撃が行われたりイスラエル兵士の拉致事件などが起きたため、イスラエルは軍事行動を取らざるを得ませんでした。

イスラエルとシリア:マドリード和平会議の枠内で、イスラエルとシリアの代表者による会議がワシントンで始まり、その後も米国の高官を交えて随時大使レベルで協議が行われました。

2度にわたるシリア・イスラエル間の和平会議(1995年12月と1996年1月)では、安全保障その他の問題が重点的に

話し合われました。広い範囲にわたって詳細な協議が展開され、将来に向けて協議・検討を続けるべき重要な領域が確認されました。イスラエルとシリアの交渉は、3年以上の中断を経て2000年1月に米国のシェパーズタウンで再開されましたが何ら大きな成果はなく、またクリントン大統領とアサド大統領のジュネーブでの会議(2000年3月)においても進展は見られませんでした。

シリアはイランとともに、ヒズボラやその他様々なパレスチナのテロリストグループなどの最も暴力的で危険なテロリスト組織を支援しています。

イスラエルとレバノン:2000年5月23日にイスラエルは、国連安保理決議第425号を実行しようとするイスラエル政府の決定に従い、南レバノンの安全保障地帯からの全軍の撤退を完了しました。しかし、レバノン側は残念ながら、決議第425号にも決議第1559号(ヒズボラの解体と南レバノンへのレバノン軍の配備を求める決議)にもまだ完全には従っていません。2006年7月12日に起きたヒズボラによる2人のイスラエル人兵士の拉致とイスラエル北部都市の爆撃の後、暴力活動は再び活発化しました。そのためイスラエルは南レバノンからヒズボラのテロリストを一掃する必要に迫られました。イランとシリアが提供した無数のロケット弾を使った砲撃が、多数のイスラエル市民を標的に行われていたのです。後に「第二次レバ

「ノン戦争」と呼ばれるようになったこの戦いでは、イスラエル国内の市民を狙って4,000発を超えるロケット弾が打ち込まれて44名の市民が死傷し、公共設備や一般家屋に大きな損害が出ました。また軍事作戦では119人のイスラエル兵士が命を落しました。この戦いは、2006年8月11日の国連安保理決議第1701号の採択によって終結しました。この決議は、拉致された兵士の無条件の解放、レバノン及び新規国連レバノン暫定駐留軍 (UNIFIL) の南レバノン全域への合同展開を求め、レバノン政府以外のレバノン組織に対し武器を禁止するというものでした。

多国間協議

重要な地域問題に対する解決策を模索する多国間協議は、和平プロセスの重要な一部を形成し、中東諸国間の国交正常化を促進するための信用醸成手段として役立ってきました。1992年1月にモスクワで開催された中東に関する多国間会議には36の国と国際組織が参加し、共通の地域問題(環境、武器管理と地域安全保障、難民、水資源、経済発展)について5つの作業部会に分かれて協議が行われました。このような協議はその後も中東地域の様々な場所で随時行われています。

主要国の代表者で構成され、米国とロシアが議長を務める運営委員会が多国間協議の調整役を務めています

が、2000年9月に起きたパレスチナ暴動以降、多国間協議の活動の大半は凍結されています。



アリエル・シャロン首相が、撤退計画を発表(2003年12月)

G.P.O./モシュ・ミルナー

年表

BCE—紀元前

紀元前17～6世紀—聖書時代



- | | |
|----------|---|
| 17世紀 | アブラハム、イサク、ヤコブ(ユダヤ民族の族長)がイスラエルの地に定住。飢饉により、イスラエルの民はエジプトへの移住を余儀なくされる。 |
| 13世紀 | イスラエルの民はモーセに率いられてエジプトを脱出、シナイ砂漠を40年間流浪し、その間にシナイ山で十戒などのトーラー(モーセ五書)を授かる。 |
| 13～12世紀 | イスラエル民族がイスラエルの地に定住 |
| 1020年 | ユダヤの王政が始まる(初代王:サウル) |
| 1000年 | エルサレムがダビデ王国の首都となる |
| 960年 | ユダヤの民族的精神的中心をなす第一神殿をソロモン王がエルサレムに建設 |
| 930年 | 王国がユダとイスラエルに分裂 |
| 722～720年 | イスラエル王国がアッシリアに敗北し、10部族が追放される(「失われた10部族」) |
| 586年 | ユダ王国がバビロニアに制服される。エルサレムと第一神殿が破壊され、大半のユダヤ人が捕囚される。 |

第二神殿時代**538~142年****ペルシア・ギリシア時代**

538~515年

多数のユダヤ人がバビロンから帰還、神殿を再建

332年

アレクサンダー大王がイスラエルの地を征服、ギリシアによる支配が始まる

166~160年

ユダヤ教の制圧と神殿の冒涇に対するマカビ(ハスモン)の反乱

142~129年

ハスモン朝下でのユダヤ人による自治

129~63年

ハスモン朝下でユダヤ人が独立

63年

ローマ軍司令官ポンペイがエルサレムを占領

**紀元前63年~紀元後313年—ローマ支配**

63年~紀元4年

ローマのヘロデ王がイスラエルの地を支配
エルサレムの神殿を改築

CE—紀元後

20年~33年

ナザレのイエス伝道活動

66年

ユダヤによる反ローマ蜂起

70年

エルサレムと第二神殿の崩壊

73年

マサダのユダヤ人玉砕

132~135年

バル・コフバによる反ローマ蜂起

210年

ユダヤの口伝律法(ミシュナー)の作成

313~636年**ビザンチン時代**

挿絵:ノアム・ナダブ

390年 ミシュナー解釈書(エルサレム・タルムード)の完成

614年 ペルシア侵攻

636年~1099年 アラブ征服時代

691年 エルサレムの第一神殿及び第二神殿の敷地に、カリフのアブドゥルマリクが「岩のドーム」を建造

1099年~1291年 十字軍時代(エルサレムのラテン王国)

1291~1516年 マルムーク朝時代

1517年~1917年 オスマン帝国時代

1564年 ユダヤの法典「シュルハーン・アルーフ」出版

1860年 エルサレム旧市街の城壁外に初の居住区が建設される

1882年~1903年 主にロシアから、第一次アリヤー(大規模移民)

1897年 スイスのバーゼルでテオドール・ヘルツェルが第1回シオニスト会議を召集、世界シオニスト機構が創設される

1904年~14年 第二次アリヤー(主にロシアとポーランドから)

1909年 最初のキブツとデガニアが誕生し、最初の近代的ユダヤ都市テルアビブが作られる

1917年 英国の征服により、400年の及ぶオスマン帝国支配が終焉



英国のバルフォア外相が、パレスチナにおけるユダヤの祖国建設支持を宣言

1918~1948年 英国委任統治時代

- 1919~23年 第三次アリヤー(主にロシアから)
- 1920年 ヒスタドルート(ユダヤ労働総同盟)とハガナー(ユダヤ防衛組織)創設
ユダヤ人社会(イシュブ)運営のため、
ヴァド・レウミ(民族評議会)を設立
- 1921年 最初のモシャブ(共同村)、ナハラルが誕生
- 1922年 英国が国際連盟からパレスチナ(イスラエルの地)の委任統治権を承認される。トランスヨルダンがその4分の3の地域に設立され、残りの4分の1がユダヤの地となる。
委任政府に対してユダヤ人コミュニティー
を代表するユダヤ機関が設立される
- 1924年 テクニオン工科大学が初の工科大学としてハイファに創設される
- 1924~32年 第4次アリヤー(主にポーランドから)
- 1925年 ヘブライ大学がエルサレムのスコープス山に創設される



- 1929年 ヘブロンユダヤ人がアラブのテロリストに虐殺される
- 1931年 ユダヤ地下組織エツェル創設
- 1933年~39年 第5次アリアー(主にドイツから)
- 1936~39年 アラブのテロリストによる反ユダヤ暴動
- 1939年 英国が白書を発行し、ユダヤ人移民を厳しく制限
- 1939~45年 第二次世界大戦: 欧州でホロコースト
- 1940~41年 地下活動組織レヒ創設、ハガナーの突撃部隊/パルマツハ創設
- 1944年 英国軍内にユダヤ旅団が編成される
- 1947年 国連がイスラエルの地にアラブ国家とユダヤ国家を創設することを提案
- 1948年** **イスラエル建国**
- 1948年 英国委任統治の終了(5月14日)
イスラエルの独立宣言(5月14日)
アラブ5カ国によるイスラエル侵攻(5月15日)
イスラエル国防軍(IDF)創設
独立戦争(1948年5月~1949年7月)
- 1949年 エジプト、ヨルダン、シリア、レバノンと休戦協定締結
エルサレム、イスラエルとヨルダンの支配下に分割される



- 第一回クネセツ(国会)選挙
イスラエルが国連の59番目の加盟国
として承認される
- 1948~52年 欧州及びアラブ諸国から大量移民
- 1956年 シナイ作戦
- 1961~62年 アドルフ・アイヒマンがホロコースト
の罪により裁判を受け、死刑になる
- 1964年 全国水道網が完成、北部のキネレット
湖から南部の半乾燥地帯への配水が
始まる
- 1967年 六日戦争、エルサレム再統一
- 1968~70年 エジプトによる対イスラエル消耗戦争
- 1973年 ヨム・キプール戦争
- 1975年 イスラエル、欧州共同市場の准加盟国
となる
- 1977年 総選挙によってリクード政権が誕
生、30年に及ぶ労働党支配が終わる
エジプトのサダト大統領がエルサレム
を訪問
- 1978年 キャンプ・デービッドの合意により、中
東の包括的和平とパレスチナ自治の
枠組みが決定
- 1979年 イスラエル・エジプト平和条約調印
ベギン首相とサダト大統領がノーベル
平和賞を受賞



- 1981年 イスラエル空軍がイラクの原子炉を攻撃し、稼働を阻止
- 1982年 イスラエルの三段階によるシナイ半島からの撤退が完了
ガリラヤ平和作戦により、パレスチナ解放機構(PLO)のテロリストをレバノンから駆逐
- 1984年 選挙後、挙国一致内閣(リクードと労働党)が成立
モーセ作戦により、エチオピアからユダヤ人が移民
- 1985年 米国と自由貿易協定を調印
- 1987年 イスラエルの支配地域でインティファダ(広範な暴力活動)が開始される
- 1988年 リクード政権が選挙に勝利
- 1989年 イスラエルが4項目和平を提案
旧ソ連からのユダヤ人の大量移民が始まる
- 1991年 湾岸戦争でイスラエルがイラクのスカルッドミサイル攻撃を受ける
マドリードで中東和平会議が召集される
ソロモン作戦により、エチオピアからユダヤ人が空路で移民
- 1992年 中国及びインドと国交を樹立
労働党のラビン政権が成立



- 1993年 イスラエルとPLOが(パレスチナ人の代表として)、パレスチナ暫定自治の原則宣言に調印(オスロ合意)
- 1994年 ガザ地区、エリコ地区におけるパレスチナ自治の実施
モロッコ、チュニジアとの国交樹立により、利益代表部が設立される
イスラエル・ヨルダン平和条約調印
ラビン、ペレス、アラファトがノーベル平和賞を受賞
- 1995年 西岸とガザ地区でパレスチナ人の自治が拡大
パレスチナ評議会選挙
ラビン首相が平和集会で暗殺される
シモン・ペレスが首相になる
- 1996年 アラブ原理主義者による対イスラエルテロがエスカレート
「怒りの葡萄作戦」により、ヒズボラによる北イスラエルへのテロ攻撃に対処
オマーンとカタールに通商代表事務所を設立
ビンヤミン・ネタニヤフが首相に選出され、リクード率いる連合政権を樹立
オマーンの貿易事務所がテルアビブに開設される





- 1997年 イスラエルとパレスチナ自治政府がヘブロン・プロトコルを調印
- 1998年 イスラエルが建国50周年を迎える
暫定合意の実施促進に向け、イスラエルとPLOがワイリバー覚書を調印
- 1999年 エフード・バラク(左派の「1つのイスラエル党」)が首相に選出され、連合政権を樹立
イスラエルとPLOが「シャルム・エル・シェイク覚書」に調印
- 2000年 教皇ジョン・ポール2世が訪問
イスラエル、南レバノンの安全保障地帯から撤退
イスラエルが国連の西欧グループその他のグループへの加入を認められる
暴力行為の再発(第二次インティファダ)
バラク首相が退任
- 2001年 アリエル・シャロン(リクード党)が首相に選出され、挙国一致内閣を結成
シャルム・エル・シェイク事実調査委員会報告(ミッチェル報告)発行
パレスチナ・イスラエル安全保障実施作業計画(テネット作業計画)が提案される
観光相のレハバム・ゼエビがパレスチナ人テロリストに暗殺される

- 2002年 イスラエル、パレスチナ人テロリストによる大量攻撃に対して、「守りの盾作戦」を開始
 イスラエルが、西岸テロリストによるイスラエル市民の殺戮を防止するために反テロ防御フェンスの建設を始める
- 2003年 1月28日の総選挙に向け、シャロン首相が国会を解散
- 2003年 シャロン首相、右派中道連合政権を樹立
 イスラエルが「ロードマップ」を受諾
- 2005年 イスラエルが撤退計画を実施し、ガザ地区から全面撤退
- 2006年 シャロン首相が脳卒中に倒れた後、エフード・オルメルトが首相代行に就任
 3月28日の選挙を経て、オルメルトがカディーマ党の新政権を樹立
 イスラエル兵士の拉致事件を受けて、イスラエルがパレスチナ人テロリストに対する軍事作戦を実行
 第二次レバノン戦争において、イスラエルが南レバノンのヒズボラのテロリストに対する軍事作戦を実行

2007年 シモン・ペレスが国会で大統領に選出される
イスラエル、ハマスによるガザ地区の暴力的占領を受けて、ガザを「敵地」と宣言

国家

国家	73
政治のしくみ	76
大統領	77
立法:クネセツト	79
選挙	83
司法	85
地方自治体	89
イスラエル国防軍 (IDF)	91



イスラエル建国を
宣言するダビッド・
ベングリオン

政府出版局
(G.P.O.)



国家

1948年5月14日、国内のユダヤ人社会と外国におけるシオニスト運動の代表からなる民族評議会のメンバーがイスラエル国独立宣言に署名しました。この宣言には、イスラエル国再建の歴史的必然性、聖書の預言者たちが予見したような自由、正義、平和に基づく民主的ユダヤ人国家の枠組み、そして中東地域全体の利益に貢献するために近隣のアラブ諸国との平和的関係を求めることなどが、民族の信条として謳われています。

...ותשועה ברב יועץ. (משלי י"א י"ד)

「議士多ければ平安なり」 (箴言集11:14)

קוראים להם מוכנה לשתף
 המאוזנות בהצגת החלטת העצרת
 להקמת האחדות הכלכלית של ארץ ישראל
 אים לאומות המאוזנות לתת יד לעם היהודי
 לקבל את מדינת ישראל לתוך משפחת העמים
 וראים - גם בתוך התקופת הדמים הנערכת עתה
 לבני העם הערבי תושבי מדינת ישראל לשמור על
 חלקם בבנין המדינה על יסוד אחדות מלאה ושווה
 מתאמה בכל מוסדותיה, הזמנים והקבועים.
 מושטים יד שלום ושכנות טובה לכל המדינות
 הן וקוראים להם לשתוף פעולה ועזרה הדדית עם העם
 במאי בארצו. מדינת ישראל חלקה במאמץ
 אדמת המזרח התיכון כובו.
 קוראים אל העם היהודי בכל התפוצות להתלכד סביב
 טוב בעליה ובבנין ולעמוד למונו במערכה הגדולה על הגנת
 ארצות החירות לצאולה ישראל.
 מתוך בטחון בעור ישראל הננו חותמים בהתייכות ו
 לעדות על הכרזה זו במושבו מועצת המדינה הזמנית
 על אדמת המולדת, בעור תל-אביב, היום הזה, ערב ש
 ה' אייר תש"ח. 14 במאי 1948.



- מדינת ישראל
 מועצה המדינית
 תל-אביב
 10.10.48
 חתום:

15/10/48
 חתום:

国家

エレツ・イスラエル(イスラエルの地)はユダヤ民族誕生の地であった。この地において、その精神と宗教の独自性と政治的主体性が形成された。彼らはこの地に国を造り、普遍性を有する民族の文化的価値を創造し、永遠普及の聖書を世に送り出した

…ユダヤ人は、いつの時代にあっても、父祖の地に国家を再建すべく努力してきた。彼らは砂漠を緑に変え、ヘブライ語を復活させ、町や村を建設し、繁栄する社会を築きあげた。彼らは、独自の経済と文化を発展させ、平和を愛し、国を守るすべを知っていた…。

イスラエル国は、ユダヤ人移民を受け入れ…全住民の福祉と利益のために国土開発に努力する。イスラエルの預言者らによって語られた自由と正義と平和を基盤におき宗教、人種、性別に関わりなくすべての住民に、社会上及び政治上の完全にして平等の権利を確保し、信仰、良心、言語、教育及び文化の自由を保証、すべての宗教の聖所を保護し、国連憲章の諸原則を忠実に守る。

我々は、すべての近隣諸国とその国民に、平和と善隣友好の手を差し伸のべ、彼らが民族の地に定住したユダ

ヤの主権国家と協力し、助け合いの固いきずなを結ぶよう呼びかける。

(イスラエル国家独立宣言より)

イスラエル



イスラエル国旗は、祈祷用の肩掛け(タリート)と、青のダビデの星(マゲン・ダビッド)を基にデザインされています。



イスラエルの国章は七枝の燭台(メノラー)で、そのデザインはモリアという古代の七枝の野草に由来すると言われています。両側のオリーブの枝は、イスラエルの平和への願いを象徴しています。

ハティクバー国歌

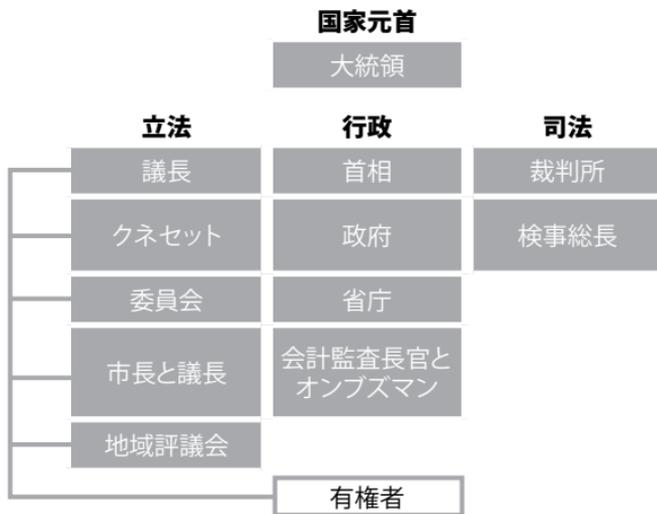
Kol od ba - le - vav pe - ni - mah
 na - fesh ye - hu - di ho - mi - yah, U - le
 la - a - toy miz - rah ka - di - mah
 a - yin le - Tzi - yon tzo - fi - yah,
 Od lo av - dah tik - va - te - nu,
 Ha - tik - vah bat sh'not al - pa - yim.
 Li - hyot am hof - shi be - ar - tze - nu,
 E - retz Tzi - yon vi - ru - eha - la - yim.
 Li - hyot am hof - shi ba - ar - tze - nu,
 E - retz Tzi - yon vi - ru - sha - la - yim.

כל עוד בלבב פנימה
 נפש יהודי הומיה
 וקסאמי מנחה קרימה
 עין לעיון צופיה
 עוד לא אבדה תקותנו
 התקווה פת שנות אלפים
 להיות עם חפשי בארצנו
 ארץ ציון וירושלים.

われらの心の奥に
 ユダヤの魂が脈打つ限り
 我々の眼が東の彼方
 シオンに注がれる限り
 二千年我々が育みつづけた
 希望を失うことはない
 その希望とは、我々の地シオンとエルサレムで
 自由の民となることである

政治のしくみ

イスラエルは、立法、行政、司法で構成される議会制民主主義国家です。その構成は、大統領府のほか、クネセット(国会)、政府(内閣)、司法組織による三権分立の原則を基盤としています。行政(政府)は、立法府(クネセット)の信任を必要とし、司法の独立は法によって保証されています。



大統領

ナスィ(大統領)は、古代イスラエルでユダヤ人社会の最高裁と立法府を兼ねていたサンヘドリンの議長に与えられていた称号です。大統領は国家元首であり、党派を超えた国家統合の象徴でもあります。大統領は、被選出者本人の個人的信望と国家に対する終生の貢献を基準に候補者が国会で選ばれ、議員の多数決投票により決定されます。1998年の改法案により、大統領は7年ごとに行われます。

大統領の任務は、法によって儀式的性格が強いものとされています。具体的には、新国会の開会宣言、議員のうちの1名に対する組閣指示、外国特使からの親善の受理、国家で承認された条約や法律への署名、担当機関からの推薦に基づく諸外国大使、裁判官、イスラエル銀行総裁の任命、法相の助言に基づく恩赦の実施などです。他に、公共の場の様々な任務や、市民の請願の聞き取りを行ったり、組織やキャンペーン活動



シモン・ペレス
イスラエル国大統領
・
G.P.O./A. オハイオン

イスラエルの大統領

ハイム・ヴァイツマン

(1949~52年)

シオニズム指導者、著名な
科学者

イツハク・ベンツヴィ

(1952年~63年)

ユダヤ機関代表、歴史家

ザルマン・シャザール

(1963~73年)

政治家、学者、歴史家、作家、詩人

エフライム・カツィール

(1973~78年)

著名な生物化学者

イツハク・ナヴォ

(1978~83年)

政治家、教育家、作家

ハイム・ヘルツォーグ

(1983~93年)

弁護士、将軍、外交官、作家

エゼル・ヴァイツマン

(1993~2000年)

空軍司令官、政治家、実業家

モシェ・カツァヴ

(2000~2007年)

社会的指導者、政治家

シモン・ペレス (2007年~)

政界長老、元首相、ノーベル平和賞受賞者

にネームバリューを加えることで強化し、社会全体の生活の質向上に貢献するといった非公式な任務もあります。

立法:クネセツト

クネセツト(一院制の議会)がイスラエル国の立法機関です。クネセツトという名称と議員定数(120名)は、紀元前5世紀にエズラとネヘミヤによってエルサレムで召集されたユダヤ人の代表機関、クネセツト・ハグドラ(大議会)に由来しています。

新国会は、総選挙で選ばれた議員の宣誓で始まります。それから正副議長が選ばれます。国会の任期は4年ですが、任期途中の解散や首相による解散もあり得ます。総選挙後、新国会が正式に発足するまでは、前国会が立法府としての権限を保有します。

国会は、本会議と15の常任委員会で討議を通して活動します。本会議では、政府の政策と活動、及び政府や議員個人の提出した法案について、一般討議が行われます。討議はヘブライ語で行われますが、イスラエルのもう1つの公



エルサレム:クネセツト(イスラエルの国会)の南側からの眺め
・
観光省

イスラエルの首相

ダビッド・ベングリオン

(1948～54年)

モシェ・シャレット

(1954年～55年)

ダビッド・ベングリオン

(1955～63年)

レビ・エシュコル

(1963～69年)

ゴルダ・メイール

(1969～74年)

イツハク・ラビン

(1974～77年)

メナハム・ベギン

(1977～83年)

イツハク・シャミール

(1983～84年)

用語であるアラビア語を使うこともでき、その場合同時通訳が用意されます。

通常の法案が立法化されるためには、クネセットで3回の審議(個人法案の場合は4回)を経なければなりません。法案はまず本会議に提出され、その内容について簡単に審議された後、該当委員会で詳しく議論され、必要に応じて修正されます。委員会での作業が終わると本会議で第2回目の審議が行われ、委員会委員が法案の留保を申し立てた場合は、その旨が本会議に伝えられます。そして一般討議の後、法案の各条項が投票にかけられます。委員会に差し戻す必要がなければ直ちに第3回審議が行われ、法案全体の最終投票となります。可決された場合は議長が署名し、その後、大統領、首相、国会議長、担当閣僚の署名入りで官報に出され、法務大臣によって国璽が押されて、初めて正式に法律となります。

行政:政府

国の行政は政府(内閣)が担っています。内閣は、安全保障問題を含めて内務と外務の両方を管轄しています。その政策決定の権限は広範囲に及び、法的に他の当局の管轄外とされているあらゆる事項について措置を取る権限を有しています。

内閣は、その作業手順と意思決定手順を自ら決定しています。通常は週に1度会議を行います。必要に応じて追加の会議を行うこともあります。また閣僚委員会による活動も行っています。

政府の構成:一党で政権を取るのに十分な議席を獲得した政党はこれまでなく、今日に至るまで全て、複数政党による連立政権となっています。

協議の後、大統領が1人の国会議員を選んで組閣を支持します。選ばれた議員は、組閣の指示を受けてから28日以内に、政府指針案とともに閣僚候補のリストを提出し、国会の承認を受けなければなりません。閣僚は全てイスラエル

シモン・ペレス

(1984~86年)

イツハク・シャミール

(1986~92年)

イツハク・ラビン

(1992~95年)

シモン・ペレス

(1995~96年)

ベンヤミン・ネタニヤフ

(1996~99年)

エフード・バラク

(1999~2001年)

アリエル・シャロン

(2001~2006年)

エフード・オルメルト

(2006年~2009年)

ベンヤミン・ネタニヤフ

(2009年 ~)



イスラエル外務省

T. グリフィス

に居住するイスラエル市民で、しかも国会議員であることが必要です。

承認後、閣僚は首相に対して各自の責務を果たす責任と国会に対する説明責任を負います。大半の閣僚はいずれかの省の大臣に任命されますが、省の大臣とはならず、特任の閣僚となる場合もあります。首相が大臣を兼任することも可能です。

閣僚は首相と政府の承認を得て、各省の副大臣(全て国会議員)を任命することができます。

国会と同様に政府の任期も4年ですが首相の退任、能力の喪失や死亡、国会による不信任決議によって短縮される場合もあります。

死亡、能力の喪失、退任、弾劾によって首相がその任期をまっとうできない場合、政府はいずれかの閣僚(国会議員)を首相代行に任命します。不信任決議の場合には、新政権が誕生するまで現政権と首相がその任務を継続します。

選挙

広く、直接、平等に、また秘密が守られる形で民意が反映されるのが選挙です。

イスラエルでは、全国のあらゆる18歳以上の国民一人ひとりが平等に選挙の投票権を持ち、国政選挙ではそれぞれ選んだ政党に投票することで国会に代表者を送ります。

選挙当日は休日となり、その日に何らかの都合で投票地域を離れている人は、投票に行くための公共交通機関が無料で利用できます。また、従軍中や入院中の人、受刑者、商船の乗組員や業務で国外に滞在している公務員にも投票の機会が与えられます。

中央選挙管理委員会は最高裁判所の判事を長とし、国会に議席を持つ各政党からの代表も選挙の管理責任メンバーとして加わります。地方選挙の場合も、適切な人選の選挙管理委員会を地域で組織することとされており、メンバーには少なくとも国会に議席がある3党から代表がいなければなりません。

検事総長

政府の法の行使は、検事総長に統率されます。総長は、主要刑事事件、民事事件及び行政上の問題について、国家を代表する権限をもっています。政府は、検事総長の見解で違法とみられる行為については、裁判所が別の判決を下さない限り、その行為を慎むよう義務付けられています。

検事総長は政府によって任命されますが、政治とは独立して任務を行います。

いずれの選挙でも、投票率は有権者総数の77%~90%を記録するのが通常で、多くのイスラエル人の国政及び地方政治に対する関心の高さを示しています。

国会の選挙は、個人ではなく政党に投票するシステムに基づいており、数多くの政党が国会に議員を送るために活動していることは、政策や信条の幅広さを反映しています。

司法

司法の独立は法によって保証されています。判事は、最高裁判所判事、法曹界メンバー、公人で構成される任命委員会の勧告に基づいて大統領が任命します。任命は恒久的なものですが、定年(70歳)があります。

イスラエル国の法

独立(1948年)にあたって、イスラエルは「法と行政」令を可決しました。この条例は、イスラエル建国前に存在していたあらゆる法律は、イスラエル独立宣言の主旨及び国会で可決された法律と矛盾しない限り有効と定めるものです。そのため、法体系は1917年までのオスマン・トルコ時代の法律、英国統治領時代の法律(概ね英国本国の法律と共通するもの)、ユダヤ宗教法、またその他いくつかを組み込んだものとなっています。



最高裁判所の空からの眺め
・
G.P.O./A.オハイオン

しかし、現在の法制度は、1948年以降に独自に発展した制定法と判例法の集大成であり、建国後クネセットは、社会生活のすべてにかかわる一連の基本法を制定してきました。いずれはこれがひとつにまとめられて憲法になると考えられています。立法、司法及び行政の各分野の任務を明確にした基本法のほか、大統領、国会、政

裁判所	
特別裁判所 (判事1名)	交通、労働、少年、軍事及び市政について、それぞれ裁判所があります。行政裁判所です。
宗教裁判所 (判事1または3名)	個人の家庭の問題（結婚、離婚、扶養、後见人、養子）について扱います。ユダヤ人はラビ法廷、イスラム教徒のシャリア法廷、ドルーズ族の法廷、そしてキリスト教徒は10宗派が各自キリスト教宗教裁判所を持っています。
簡易裁判所 (判事1名)	民事及び軽犯罪を扱います。
地方裁判所 (判事1または3名)	簡易裁判所からの控訴、重要な民事事件及び刑事事件を扱います。
最高裁判所 (判事1、3、5名またはそれ以上の奇数名)	国の最終的な上告裁判所であり、公正さを守るために必要があればあらゆる機関に介入する権限があり、不当な拘留または投獄の際には釈放を命じることもできます。また、民事高等法院として、政府機関や官庁に対する国民からの嘆願も受け付けています。

府、裁判官、イスラエル国防軍、会計監査長官の権限、また職業選択の自由、人間の自由と尊厳（個人の生命、身体、尊厳を冒す行為からの保護）などの基本法も導入されています。

1995年、最高裁は、基本法に違反するクネセットの立法についての再審を命じ、基本法は通常の立法に優越することが確認されました。

多年にわたり、最高裁の判決を受けて判例法が発達した結果、言論の自由、集会の自由、宗教の自由などの市民の自由がイスラエルの法制度の基本的価値観として保護されています。また最高裁は民事高等法院として、政府の機関や官庁に対する個人からの訴えも受け付けています。

イスラエルの警察

世界の警察と同様に、イスラエルの警察は、犯罪と戦い、法の施行において該当当局を支援し、交通規則を順守させ、国民の安全を守るための指導を行うなど、生活の質を維持する任務を遂行しています。

会計監査長官

会計監査長官は、行政の説明責任を確保するために1949年に法律によって設けられた職務であり、行政が法律に違反していないか、きちんと仕事をしているか、無駄使いをしていないか、非効率なことをやっていないかといった問題の御目付役をしています。1971年以降、会計監査長官はオンブズマンとして、国や国の機関に対する国民の苦情を受けつけ、これを監査しています。会計監査長官は、国会の無記名投票で選ばれ、任期は7年です。国会に対してのみ責任を負います。監査の対象機関には、政府省庁、国立機関、国防軍各機関、地方自

治体、国営企業などが含まれています。さらに会計監査長官は、法により国会議員を持つ政党の収支、選挙費についても監査する権限を認められており、不正があった場合は罰金を課します。

機動隊に相当する組織が国境警備隊で、治安問題を主として担当します。国境警備隊には、対テロ特別隊が含まれます。度重なるテロ事件とテロの脅威を受けて、地域社会の安全を自分たちの手で守ろうという市民の声が高まり、ボランティア組織である民間防衛隊も1974年に作られました。指揮系統、武装/パトロール、訓練計画などが整備され、地域社会の安全に貢献しています。

地方自治体

地方自治体は、教育、文化、保健、社会福祉、道路整備、公園、水道、衛生などの公共サービスを提供しています。また国法のほか、内務省の認めた地方自治体条例に従って運営されています。なかには、条例違反を裁く市政裁判所を持つ自治体もあります。地方自治体は、地方税に加えて国家予算の配分をその財源としており、各自治体には年次報告書を作成する会計監査官が置かれています。

法律上、地方自治体、市の評議会（人口2万人以上の都市）、地方評議会（人口2000人から2万人の町）、そして地区評議会（一定の範囲内にある村落群）の3種類に分類されています。

各自治体は、市長または評議会の議長によって運営されており、その評議会の議員数は地元人口を基準に内務省によって定められています。現在イスラエルには73の市評議会、124の地方評議会、54の地区評議会があります。市評議会と地方評議会は全て、地方自治体連合に任意で加盟しています。この連合は地方自治体を代表する中央機関として、政府との折衝、国会での関係法案の審議の監視、労働協定や法律問題などの懸案事項に関する指導を行っています。連合は、地方自治体の世界規模の連合組織に加盟

しており、各国の同種組織との提携を通して、姉妹都市プログラムや国際交流を行っています。

地方選挙

自治体選挙は5年ごとに無記名投票で行われます。全ての永住居住者は、イスラエル国民であるかどうかに関わらず、17歳から選挙権を、21歳から被選挙権を与えられています。市評議会と地方評議会の選挙では、議員は政党に対する投票により比例代表制で選ばれます。市長と地方評議会の議長は、直接選挙で選ばれます。

地区評議会の選挙では、各村から1名の代議員が選出され、評議会の議員となります。そして議員の中から議長が選ばれます。

地方選挙は、各派の得た議員数に基づき政府交付金で賄われています。

イスラエル国防軍 (IDF)

1948年に創設されたIDFは世界で最も実戦に鍛えられてきた軍隊であり、6度も祖国防衛のために戦ってきました。IDFは、イスラエル国の主権と領土を保全し、あらゆる敵を抑止し、日常生活に脅威を及ぼすあらゆる形態のテロを排除することを、その安全保障上の目的としています。平和に向けた取決めに強化し、パレスチナ当局と協調しつつ西岸の安全保障に務め、イスラエル国内外でテロとの戦いの第一線に立ち、戦闘行為の発生を防ぐ抑止力を維持することなどが、その主な任務とされています。

IDFは、戦略レベルでは防勢、戦術レベルでは攻勢をその勝利への原則としています。領土が狭いためIDFは必要に応じて直ちに攻勢に出て、敵の領土内で戦闘しなければなりません。これまで常に数の上では敵方に比べて劣勢でしたが、IDFは高度な武器システムを配備することによって質的優位を保っています。こうした武器の多くは、必要に応じて国内で開発、生産されています。ただしIDFの主な強みは、何といたっても兵士の質の高さにあります。

有事に備えてIDFは、正規の空軍と海軍のほかに、早期警戒能力を持つ小規模の常備陸軍部隊(兵役中の兵士と職業軍人で構成)を配備しています。IDFの主な戦力は予備役が構成しています。予備役は、定期的に召集されて訓練

と任務につき、有事の際は国中から直ちに動員されて所属部隊に配属されます。

IDFの兵役期間

兵役義務:兵役義務のある者は男女共に18歳で徴兵されます。兵役期間は、男性が3年、女性が2年です。高等教育機関に所属する優秀な学生には兵役猶予が認められる場合があります。また新移民については、年齢や移住時の個人的な事情により、兵役を免除されたり、期間短縮が認められたりすることがあります。

予備役の義務:兵役義務を終えた兵士は予備役に編入され、最高で51歳まで予備兵としての任務に就きます。

職業軍人:兵役義務を終えた兵士は、IDFの必要に応じて将校または下士官として職業軍

IDFは陸、海、空軍で構成され、中將の位を持つ参謀総長の統合指揮下に置かれています。国防大臣の統制に服する参謀総長は、首相と国防大臣の推薦に基づき、政府によって任命されます。その任期は3年ですが、4年に延長される場合がよくあります。

兵士は男女ともに、技術者、通信員、諜報部員、戦闘指導員、地図製作者、管理や法務の担当者、コンピュータオペレータ、医者、弁護士などとして働いており、戦闘部隊で任務に就く女性兵士の数も増えています。

IDFは、兵士の文化的、社会的必要に対応するため、リクリエーションや教育のための活動を行い、個人を支援するサービスも提供しています。例えば十分な教育を受けていない兵士には学業の機会を与え、また職業軍人には在隊中に軍の経費負担で就学することを奨励しています。



航空士官候補生
卒業を祝って
・
G.P.O./A. ベン・ゲ
ルシヨム

さらに、特別なヘブライ語教育その他の制度を通して、新移民の兵士の統合化を推進しています。

さらにIDFはその創設以来、建国に関わる事業に積極的に関わり、市民に補足教育を提供してその救済に努め、新移民の社会的統合に貢献しています。国家の危機や緊急事態に際しては、IDFは直ちに適切な措置を取り、訓練された兵員を派遣して基幹業務に就かせたり、特別な任務を遂行させたりしています。

人になることができます。IDFでは、このような職業軍人が指揮及び管理の根幹をなしています。また士官学校や飛行学校あるいは各種の特別な軍事技術学校の卒業生には、職業軍人としての勤務が義務付けられています。

国土

地理	98
自然	105
環境保護	111
インフラ	114
都市の生活	118
地方の生活	124



宇宙船ジェミニ11
号から見た中東

NASA写真
SS66 54893

国土

イスラエルは、地中海の南東沿岸域に位置する帯状の半乾燥気候の小国です。歴史に登場したのは3500年ほど前、ユダヤ民族が遊牧生活を捨ててこの地に定住を始めた時期です。やがてこの地は、例えばエレッツ・イスラエル（イスラエルの地）など、さまざまな呼び名で知られるようになりました。シオンという呼び名は、エルサレムにある丘のひとつに由来しますが、エルサレム、イスラエル全体を示す名前でもあります。パレスチナという呼称は、聖書に登場するペリシテ人（フィリスティア）に由来し、ローマ人が最初に使いました。約束の地または聖地という呼び名もありますが、イスラエル人の間では今は単に「ハアレツ」（「かの地」と呼ばれています。イスラエルには現在700万を超える人々が住んでいます。そのうちの約540万人がユダヤ人で、140万人がアラブ人です。イスラエル国民は様々な生活を送っています。宗教的／世俗的な生活、近代的／伝統的な暮らし、都市／地方の生活、集団／個人生活など、この国には様々なライフスタイルがあります。

ארץ זבת חלב ודבש... (שמות ג': ח')

・・・乳と蜜との流るる地・・・（出エジプト記 3:8）

地理

狭く細長い国土

イスラエル国の総面積は22,072 km²、そのうちの21,643 km²を陸地が占めています。国土の長さは470 kmほどありますが、幅は一番広いところでも135 kmしかありません。北はレバノン、北東はシリア、東はヨルダン、南西はエジプトと隣接し、西側に地中海があります。

山脈、高原、畑や砂漠などが、多くの場合、移動に数分しかかからない距離で隣接しています。国の広さは、西の地中海から東の死海まで車で90分ほどの距離です。北のメトゥーラから最南端の町エイラットへは、約6時間で移動できます。

地理的特徴

イスラエルは地理学的に4つの地帯に分けられます。そのうち3つは同じように北から南に長く伸びる地帯で、残る1つは国の南半分に当たる広大な乾燥した地帯です。



地中海に沿って**湾岸平野**が伸びています。海岸沿いは砂浜ですが、内陸40 kmの地点まで肥沃な農地が広がっています。

北部では、尖った石灰岩や砂岩の崖によって砂浜が所々でさえぎられています。この海岸平野にイスラエル人口（7,427,000人）の半分を超える人々が居住しており、大都市、深海港、大半の工業施設、農業と観光の施設の多くが集中しています。

イスラエルの国内には**山脈**がいくつか伸びています。東北部には、大昔に噴火でできた玄武岩の**ゴラン高原**がフーラ渓谷を見下ろすようにそそり立っています。**ガリラヤ丘陵**は主として石灰岩と白雲石からなり、海拔500~1200mの高さに位置しています。水の涸れることのない小川や比較的豊富な雨量のため、この地方は年中緑が保たれています。**ガリラヤ**と**ゴラン**地方の住民は、主に農業、観光関連産業、軽工業に従事しています。



サマリア丘陵とガリラヤ丘陵の間に位置する**エズレル平原**はイスラエルで最も豊かな農業地帯であり、キブツ、モシャブなど多くの共同村によって開墾されています。起伏に富んだ**サマリア・ユダ**（西岸）の丘陵には緑のオリーブの老木が点在し、肥沃な盆地と褐色の岩山とがモザイク模様をなしています。段状の丘陵は古代の農民によって開墾されたものですが、今ではすっかり自然の風景にとけ込んでいます。この地域の人口は主に小都市や大きな村に集中しています。



ネゲブ地方はイスラエル国土の約半分を占めています。その人口は少なく、主に農業や工業経済に支えられています。ネゲブ南部は低い砂岩丘や平地からなる乾燥地帯であり、峡谷やワジ(雨期しか水の無い川)が多く、冬の雨で時々急な洪水が起きています。さらに南下すると、裸

の岩山や岩の台地、クレーターの地帯が現れます。ここでは気候はより乾燥し、山はより高くなっています。浸食性のクレーターが3つ(その最大のものは幅8 km、長さ35 km)あり、地表深く切り込んで色と岩の変化に富んだ雄大な景色を見せています。紅海の町エイラットに近いネゲブ先端には灰色や赤の花崗岩でできた尖った峰々がそびえ、断崖と乾いた峡谷が大地を切り込み、灼熱の太陽の下で色彩豊かな砂岩層が輝いています。

キネレット湖(ガリラヤ湖)は、ガリラヤ丘陵とゴラン高原の間、海拔下212mのところに位置しています。その長さは21 km、幅は8 kmあります。この湖はイスラエル最大の湖であり、国の主な給水源となっています。湖畔には重要な歴史的・宗教的名所がいくつかあり、また農業共同体や漁業施設、観光施設もあります。



キネレット村から見た湖とゴラン高原

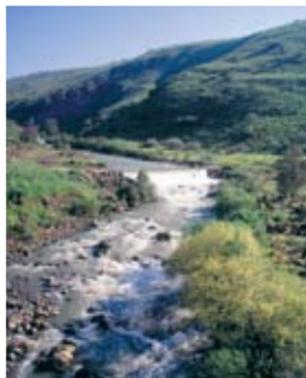
ヨルダン溪谷とアラバの谷がイスラエル東部を南北に走っています。ここは何百万年も前に地殻を断裂させたシリア・アフリカ地溝の一部を形成しています。北部には肥沃な地域が広がっていますが、南部は半乾燥地帯です。この地域では、農業、漁業、軽工業、観光業が主な収入源です。



ヨルダン川

アルバトロス社

ヨルダン川は、地溝を北から南に300 km、落差700mで流れています。ヘルモン山から肥沃なフーラ溪谷を通してキネレット湖に入り、そこからヨルダン溪谷を蛇行して死海に注いでいます。雨期には増水するものの、普段は狭くて浅い川です。



死海の南がサバンナ地帯の**アラバ**で、紅海に面するエイラット湾まで続いています。地域の気候（年間降水量は25 mm以下、気温は夏には40度に達します）に適した高度な農業技術を導入することによって、シーズンオフの果物や野菜を主に輸出向けに生産しています。深く青い海で有名な亜熱帯のエイラット湾はアラバ南端に広がり、美しい珊瑚礁とエキゾチックな海洋生物で知られています。



気候

イスラエルの気候は、温暖から亜熱帯までの幅があり、日照に恵まれています。2つの季節があり、11月から5月までは冬の雨季、残り6ヶ月は夏の乾季です。雨量はイスラエル

北部や中部では比較的多いのにに対し、ネゲブの北部ではずっと少なく、南部では雨はほとんど降りません。地域によって気候条件は大きく異なっています。湾岸平野では夏は湿度が高く、冬は温暖ですが、丘陵地帯（エルサレムなど）では夏は乾燥して、冬は適度に寒くなります。ヨルダン溪谷では夏は暑くて乾燥しますが、冬は快適に過ごせます。またネゲブ地方では1年中、半砂漠状態が続きます。丘陵地帯では冬に雪が降ることもある一方で、乾いた熱風が吹いて特に春や秋には高温になることもあるなど、気象は極端に変化します。

死海は、ヨルダン溪谷の南端、地球の最も低い地点（海

アルトロス社



抜下400m)に位置していません。世界最高レベルの塩分濃度を誇る死海は、炭酸カリウム、マグネシウム、臭素

水

イスラエルは砂漠地帯の端に位置するため、常に水不足に悩まされています。ネゲブなどで見つかった古代の遺跡を見ると、数千年前からこの地方の人々は水の保存に頭を悩ませていたことがわかります。

雨水を溜めて貯え、別な場所に送水するための古代の給水施設が各地で見られています。

イスラエルが年間に利用できる水資源は17億m³、そのうちの56%が灌漑用で、残りが飲料水や工業用水です。イスラエルの水源は、ヨルダン川、キネレット湖、その他の小さな河川です。泉や地下水も利用されていますが、水の涸渇や塩水化を防ぐために、給水量は制限されています。

排水の再利用、人工降雨、塩水の脱塩化など、限られた水資源を最大限に利用する方法が開発されています。

水の可用性に関する地域の不均衡を是正するために、国内の水資源の大半は1つの配水網に統合されています。その中心が「ナショナル・ウォーター・キャリアー」と呼ばれる全国水道網(1964年完成)です。この水道

に富み、食塩や工業塩が多く生産されています。ただし高速で蒸発化が進み(年間1.6m)、またイスラエルやヨルダンが水の供給源として大規模な分水事業を行ってきたために入水量が75%も減少したことから、湖面は1960年以降10.6mも低下しています。死海を元の大きさと湖面の高さに回復させるために、運河とパイプシステムによって死海と地中海を結ぶ計画が検討されています。



ゴラン高原の滝
アルバトロス社

網を介し、巨大な配水管、水道、運河、貯水池、ダム、ポンプ給水所を使って、北部や中部の地域から南部の半乾燥地域へと水が送られています。

自然

動植物

イスラエルは三大陸の接点に位置し、地形や気候が変化に富んでいるため、多種多様な動植物が生息しています。植物については、北部山脈の高山植物から南のアラバに育つ砂漠植物に至るまで約2,600種が確認されています。イスラエルはパピルスなどの植物の最北限であり、また赤珊瑚色のしゃくなげなどの植物の最南限です。

ガリラヤ地方やカルメル山、その他の丘陵は、自然の森(主にカリプリノス樫)に覆われています。春には、ゴジアオイやトゲエニシダのピンク、白、黄色の花が一面に咲き乱れます。

灌木に絡みつくスイカズラや大きなプラタナスがガリラヤの川沿いに木陰を作っています。

ネゲブの高地では、水の涸れた谷に沿って大量のアトランティック・ピスタチオが大規模に根を生やし、地下水が豊富な至るところにナツメヤシが育っています。

シクラメン

・
G.P.O.
/A. オハイオン



ベリカン

・
アルバトロス社

アイリス、白百合、チューリップ、ヒヤシンスなどの園芸用の花の多くは、イスラエルの野生の花にそのルーツがあるとされています。10～11月に雨が降り始めると一面が緑となり、次の夏の乾季が来るまでその状態が続きます。ピンクや白のシクラメン、赤、白、紫のアネモネが12月から3月にかけて開花し、少し遅れて青いルピナス、黄色のマリゴールドが咲き始めます。クロッカスやカイソウなど多くの植物は土中植物で、球根や塊茎に養分を蓄え、夏の終わりに花を咲かせます。そして野原には約135種類もの美しい蝶、様々な色や模様を持つ蝶が舞っています。

またイスラエルには500種類以上の鳥類が見られます。ヒヨドリのように年中イスラエルにいる鳥もいれば、クログモやムクドリのように冬にイスラエルにやってきて、養魚池や畑で餌を探す鳥もいます。多数の鳥が年に2回渡ってきて、バードウォッチングの絶好の機会を提供しています。ハチクマ、ペリカン、その他大小の渡り鳥が3月と10月には空を飛びまわります。またタカやハヤブサ、ワシなどの猛禽類やキクイタダキなどの鳴禽は、イスラエルで巣作りをします。

山にはデリケートなマウンテンガゼルが徘徊しています。狐や豹などの哺乳類が森林地域に生息し、立派な角を持つヌビア山羊が砂漠の岩山を飛び跳ねます。またイスラエルには、カメレオン、蛇、アガマトガゲなど100種類の爬虫類がいます。



自然保護

イスラエルでは自然環境の保護のため、自然や野生生物の保護に関する厳しい法律が制定されています。たとえ道端の花であっても摘み取ると法律違反です。自然保護促進のために、イスラエル自然保護局 (INPA) は風景や自然環

境の保護に努めています。INPAの監督のもと、150以上の自然保護区と65の国立公園が設立され、その総面積は約1,000 km²に及んでいます。そのうちの20ヶ所は一般に公開され、敷地内に見学者センター、道路、ハイキングコースが整備され、毎年200万人以上が訪れています。イスラエルの重要地域の1つであるカルメル山は、ユネスコの「人と生物圏プログラム」の生物圏に指定されています。

樅、椰子の木、カモシカ、アイベックス、豹、ハゲワシなど、数百種の動植物が保護されています。また絶滅に瀕する種を守るために、特別な救助活動も開始されました。その一環として、狼やハイエナ、狐のための餌場が作られ、鳥の安全な巣作り場所が設けられました。地中海の浜辺からはウミガメの卵が定期的に採集され、孵化器で孵化されています。孵化した

ケレン・カイエメット(ユダヤ民族基金:JNF) は、ユダヤの農民のための土地を購入するため、またイスラエルの地の開拓、干拓、植林を推進するために、1901年に創設されました。イスラエル独立(1948)までに、世界中のユダヤ人からの献金を使って約24万エーカーの土地(その多くは数世紀にわたって放置されていた土地)を購入して耕すとともに、岩だらけの丘陵に約450万本の木を植えました。

今や30万エーカーに及ぶ森林や緑地に2億本を超える木が植えられ、戸外のリクリエー

カメは海に戻されます。また毎年5億羽の渡り鳥がイスラエルを訪れるため、イスラエルはバードウォッチングのメッカとして国際的に知られるようになり、この分野での国際的な研究や協力の中心地となりました。

渡り鳥のルートを注意深く監視することによって、鳥と飛行機の衝突事故が防がれています。

「鳥に国境はない」をスローガンに設けられたイスラエルのインターネットサイト (<http://www.birds.org.il>) では、教育・研究プロジェクトで世界中の子供達が結ばれています。

これまで受け継いできた遺産を守ろうと、聖書時代には生息していたが今は絶滅または絶滅の危機に瀕している動植物を保護し、復活させるための取り組みがなされています。聖書に記述され、今も現存する植物を収集・保護するために、イスラエルの中央部にあるネオット・ケドム自然保護地区には古代イスラエルの各地に原生していた植物を集めた高大な庭が造られています。またかつてイスラエルの丘や砂漠を徘徊していた動物を昔の生息地に戻すために、アラバ

アイベックス
M.F.A.



シオンや自然観察の様々な機会をイスラエルの人々に提供しています。JNFは、植林や森の維持活動を続けつつ、公園やリクリエーション施設の開発、新たな入植地のインフラ整備、様々な水の涵養プロジェクトを行っており、国中で環境保護活動に積極的に取り組んでいます。

とカルメル山では「ハイバール聖書野生動物プロジェクト」が開始されました。このプロジェクトの下、ダチョウ、ペルシャフォロー鹿、大カモシカ、野生ロバ、ソマリアロバなどが生育されています。



カルメル山自然
保護区

・アルパトロス社

学校教育やガイド付きの自然体験ツアー、自然保護に関する出版物やキャンペーンなどを通して、国民の自然保護に対する認識が高められています。イスラエル最大の環境保護団体である自然保護協会は、不適切な開発による生態系や自然の破壊に警鐘を鳴らす様々なキャンペーンを率先して行い、10の現地学習施設、4つのバードウォッチングセンター、5つの都市自然センター、10の地方支部で教育プログラムを展開しています。

環境保護

急速な人口の増加や農工業の着実な拡大によって、特に人口の過半数が住み、多くの産業が集中している沿岸地域において環境の悪化が進みました。地中海や紅海沿岸の公害と取り組むために、イスラエルは主に「地中海行動計画」の枠組みにおいて、監視、法制化、法律の施行、海岸の清掃、国際協力などを含む多面的なプログラムを採択しています。

水不足にもかかわらず開発が集中的に進んだことによって、水質汚染も重大な問題となりました。地下水汚染の主な原因は化学肥料、農薬、海水の浸出、家庭排水、工業排水ですが、環境や公衆衛生への影響を抑えるとともに農業用水の水源を追加するために、特に排水処理が重視されています。最近承認された水管理計画では、海水や半塩水の脱塩化、水の再利用に向けた排水処理の改善、効率的な水の生産と保護目標に掲げています。汚染された小川の再生計画も開始され、生態系の改善やリクリエーション目的に役立つ浄化が図られています。また飲料水の水質は厳しく管理されています。

大気の品質を左右する要因には、エネルギー生産、輸送、工業などがあります。特にこの3つは、最近いずれも劇的に

拡大しています。低硫黄燃料をエネルギー生産に用いることによって二酸化硫黄の大気濃度は大幅に下がりましたが、車両の通行量の増加により、排気ガスは著しく増加しています。大気汚染を緩和するため、無煙ガソリン、触媒式排出ガス浄化装置、低硫黄のディーゼル燃料が導入されたほか、全国規模の大気監視システムを使って、全国で大気の水質が監視されています。またイスラエルは、オゾン層の破壊や気候変動に関する国際決議に従うための取り組みも進めています。

人口の増加、生活水準の向上、消費の拡大が急速に進むことにより、年間4~5%の割合で固形廃棄物が増えていきます。イスラエルでは最近、不法なゴミの投棄はほとんどなくなり、それに代わって環境に安全な埋立てが行われています。さらに、固形廃棄物の統合的管理(ゴミの削減、リサイクリング、収集、焼却)に向けた取り組みが行われています。最近のリサイクリング関連規則により、さらに低廃棄物・ゼロ廃棄物技術への移行が進められています。

危険物質を「ゆりかごから墓場まで」管理するために、その生産、使用、廃棄、処理のあらゆる側面について、ライセンス制、規制化、監視が行われています。法律の施行、事故に対する全国規模の緊急時対応策の実施、全国の危険廃棄物処分場の浄化・改善対策などが図られ、国民の健康や環境に対する危険性が最小化されています。

環境法の施行は、幼稚園から大学に至る環境教育とともに最重点課題とされています。環境法の施行には市民も参加し、ゴミの不法投棄や動物福祉の「信託人」となった市民には、関連法規の違反に関する報告権限が与えられます。また環境保護の改善に向けて、公害防止に投資する企業への助成金の交付や汚染者に対する課税や賦課金の徴収などの経済措置も強化されました。「持続可能な開発」の原則に従い、あらゆる経済部門において、資源保護や公害防止に向けた努力が図られています。

インフラ

通信

イスラエルは、世界の主な商業、金融、学術データのネットワークと結ばれており、海底光ファイバーケーブルや衛星で国際通信網に完全に統合されています。国民1人当たりの電話回線数やコンピュータ数、インターネット利用者数において、イスラエルは世界のトップレベルに位置づけられています。



衛星中継局
(エメク・ハエラ)
アルパトロス社

また電話網の100%のデジタル化が世界に先駆けて行われ、加入者には様々な最先端のサービスが提供されています。更に、携帯電話の普及率でもイスラエルは世界最高ランクに属しています。

イスラエルでは郵便事業が全国完備され、海外への郵送もほとんどの国に対応しています。郵趣サービス局はこれまでに1,500種類以上の切手を発行しており、その制作には多くの有名なイスラエルのアーティストが協力しています。既に古典の域に達した切手もあり、こうした切手は収集家の羨望の的となっています。

道路

イスラエルは国土が狭いため、車やバス、トラックが主な交通手段です。近年、車の急速な増加に対応し、遠隔地への交通の便を図るために道路網が拡充されました。イスラエル初の有料道路である多車線のトランスイスラエル・ハイウェイ(ルート6)は、南部のベエル・シェバから南部のナハリヤまでの300 kmのほぼ大半が完成しています。この道路の完成によって人口過密地域を迂回できるため交通渋滞が緩和され、国内のどの地域にも早くアクセスできるようになります。



アヤロンの
インターチェンジ
・
アルバトロス社

鉄道

イスラエル鉄道は、エルサレム、テルアビブ、ハイファ、ナハリヤ、ベエル・シェバ、ディモナ間で旅客列車を運行しています。貨物車両は、より南側のアシュドッド港、アシュケロン市、ディモナ南部の鉱山採掘場などまでつながっています。近年は貨物と旅客の両方の利用が増えています。テルアビブとハイファでは道路の交通渋滞を緩和するために、既存路線の改善による高速鉄道サービスの導入が図られています。これはローカルのバス路線と連動して行われ、現行の旧式客車からエアコン付きの近代的客車への取替えが進むとともに、最新の機械式保線設備が使用されています。またエルサレムでは、軽量軌道の都市システムを建設中です。

海港

ヤッフォ、カイザリヤ、アッコの古い港は、国際貿易港である近代的なハイファ、エイラット、アシュドッド港にその役目を譲っています。ハイファ港は現在、コンテナ港としては地中海最大の港の1つであり、また客船のターミナルとしても賑いを見せています。アシュドッド港は主に貨物船用であり、紅海にあるエイラット港はイスラエルと極東、南半球を結んでいます。更にアシュケロンにはタンカー用の港があり、またハデラの港では、発電所用の石炭を運送する貨物船が直接陸揚げできる近代的施設が運用されています。

イスラエルはその地理的立地から旅客や貨物の中継国となる可能性を秘めており、港湾鉄道局は将来の輸送ニーズを見据えた長期的なマスタープランを立てています。この計画では、近代的な鉄道システムの開発、陸上輸送と海上輸送の全段階での最新設備の使用、輸送サービスの管理と監視のためのコンピュータネットワークの設立などが重視されています。

空港

テルアビブから車で25分、エルサレムから50分のところに、イスラエル最大の主要空港であるベングリオン国際空港があります。到着客や出発客の増加が予想して、この空港は大幅に拡張され、新たな最新式のターミナルが整

備されました。また主として欧州から飛来するチャーター便及び国内便向けに、南部のエイラット空港、中部のテルアビブ近郊の数箇所の小規模空港、北部のロシュピナの地方空港が使用されています。



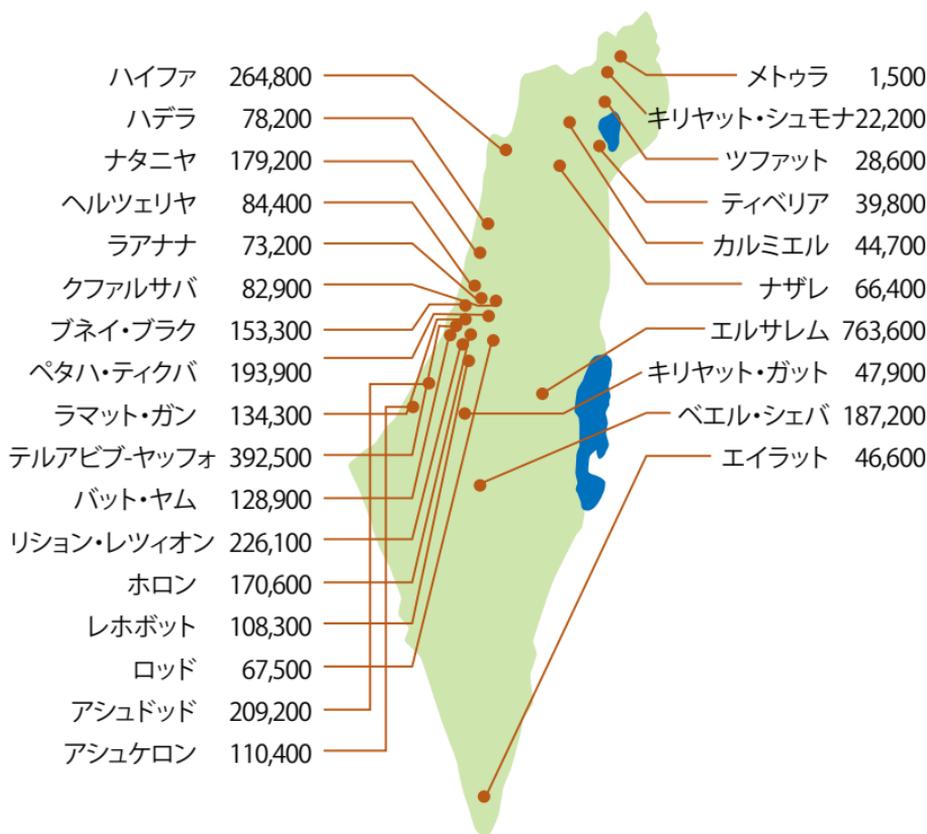
テルアビブ:スザンヌ・デラル舞踏・演劇センター(ネベ・ツェデク地区)
・
観光省

各時代の建築物

イスラエルの都市部にある建物の様式は多種多様です。数世紀前の石造り、第二次大戦前の欧州の著名建築家達の影響を受けた重厚な建築物があるかと思えば、独立間もない頃に新移民を受け入れるために急造されたアパート群もあります。念入りに計画された住宅地、高層のコンクリートの建築物、ガラスのオフィスビルや近代的な豪華ホテルまで、実に様々です。

都市の生活

イスラエルでは人口の約92%が都市地域に居住しています。多数の近代的な町や都市が、新旧を合わせ持った形で、エルサレム、ツファット、ベエル・シェバ、ティベリア、アッコなどの古代から続く地域に作られています。



レホボット、ハデラ、ペタフ・ティクバ、リシオン・レツィオンは建国前に農村として生まれ、次第に都市へと発展していきました。また大量移民で生じた急激な人口増大に対応するために建国当時に建設された街もあります(カルミエルやキリヤット・ガットなど)。こうした街づくりは人口の全国への分散化にも役立ち、かつては過疎地だった地域に産業や事業が誘致され、農村と都市の経済の緊密な結びつきが促進されました。

ユダ渓谷に位置する**エルサレム**はイスラエルの首都であり、政府機関が置かれています。この都市は約3,000年前にダビデ王が王国の首都にして以来、ユダヤの人々の歴史的、精神的、民族的中心地であり続けています。宗教と伝統の神聖なる都市、聖地と礼拝所の都市として、世界中のユダヤ人、キリスト教徒、イスラム教徒に崇められています。

1860年まで、エルサレムは4つの地区(ユダヤ地区、ムスリム地区、アルメニア地区、キリスト地区)で構成される城塞都市でした。当時人口の大半を占めていたユダヤ人は、城壁の外側に新たな居住区を作り始め、それが発展して近代エルサレムの中心となりました。30年に及ぶ英国委



オリーブ山からの眺め
・
I. スツルマン



任統治時代の間(1918~1948年)、エルサレムは徐々にオスマン・トルコ帝国時代(1517~1917年)の一地方都市から、栄華を誇るメトロポリスへとその姿を変え、居住者層の個性を反映する様々な居住区が新たに作られていきました。エルサレムはイスラエル建国直後のアラブ人による攻撃により1949年に2分割され、それぞれがイスラエルとヨルダンにより統治されました。その後19年にわたって東西エルサレムはコンクリートの壁と有刺鉄線によって分断され続けましたが、1967年の六日戦争の後に再統一されました。

今やイスラエル最大の都市となったエルサレムには73万人を超える人々が暮らしています。古代都市、近代都市の両面を持つエルサレムは多様性に優れ、様々な文化や国籍を持つ住民が暮らしています。その生活様式も宗教的なものから世俗的なものまで様々です。過去の遺産を未来に引き継ぐために名所旧跡が慎重に復元され、見事な緑地が整備される一方、近代的な商業地域や工業団地もある活気溢れる都市として郊外に拡大しています。



テルアビブ-ヤッフォは地中海沿岸の近代都市であり、イスラエルの商業と金融、文化生活の中心となっています。大半の産業組織、例えば株式市場、主要な新聞社、商業センター、出版社はこの都市に本

拠を置いています。テルアビブ-ヤッフォは、近代初のオールユダヤ人の都市として、世界最古の都市居住地であるヤッフォ郊外に1909年に創設されました。1934年にテルアビブは地方自治体として認められ、1950年に旧ヤッフォを吸収合併してテルアビブ-ヤッフォとなりました。ヤッフォ旧港の周辺地域は芸術村や観光センターとして開発が進み、ギャラリーやレストラン、ナイトクラブなどがあります。またテルアビブの「白い都市」(1930年代から1950年代のモダニスト・ムーブメントスタイルの大建物業)は、ユネスコの世界遺産に登録されています。

地中海に面する**ハイファ**は、海岸線からカルメル山の斜面へと広がっています。この都市は地理的に3つの海拔レベルに分かれています。一部埋立地を含む低海拔地域には港湾施設があり、商業の中心地となっています。中海拔地域は旧市街地です。そして高海拔地域には街路樹や公園のある近代的な居住区が広がり、下側の工業地区やさらにその下に広がる湾岸の砂浜を見下ろしています。主要な深海港としてハイファは、国際貿易や商業の中心であり、また北イスラエルの行政の中心地ともなっています。





ガリラヤ山脈の高地に位置する**ツファット**は、避暑地や観光地として人気があり、芸術家の居住地区や数世紀前のシナゴークがあります。16世紀にはユダヤ教の重要な学術センター、クリエイティブセンターとして栄え、宗教法や教えを説いたラビ、学者、神秘主義者がこの都市に集まりました。こうした法律や教えは、今も忠実なユダヤ教徒によって守られています。



キネレット湖(ガリラヤ湖)の岸辺の都市**ティベリア**は、温泉治療地として有名です。湖畔の観光地として賑うティベリアには、過去の遺跡とモダンな家屋やホテルが混在しています。1世紀に創設され、ローマ皇帝ティベリウスにちなんで名づけられたこの都市はユダヤ教育の中心地となり、著名なラビの協会が置かれています。



北ネゲブの**ベエル・シェバ**は、死海及びエイラットに至る経路の交差するところです。約3500年前の族長の時代に遡る古代の地に新たに建設された都市であるベエル・シェバは「ネゲブの首都」と呼ばれ、行政と経済の中心地として政府の地方機関のほか、南イスラエル全域を管轄する保健、教育、文化機関が置かれています。



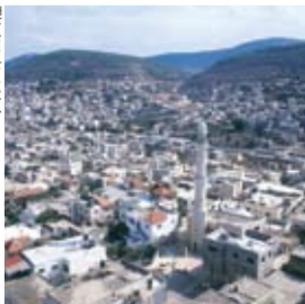
イスラエル最南端の都市**エイラット**は、イスラエルを紅海やインド洋と結ぶ都市です。ソロモン王の時代の港の跡地とされるエイラットの近代港は、イスラエルとアフリカ、極東を結ぶ貿易港です。冬の温暖な気候、海の素晴らしい眺め、設備の整ったビーチ、ウォータースポーツ、豪華なホテルや交通の便の良さ（欧州から直接チャーター便でアクセス可能）から、エイラットは1年を通して観光リゾート地として賑わっています。イスラエルとヨルダンの平和条約締結（1994年）以降は、主に観光振興のために隣接都市であるアカバとの間で共同開発プロジェクトが進められています。



地方の生活

イスラエルの人口の約8%が農村地帯や村に居住しており、キブツ、モシャブという20世紀初めに作られたイスラエル独自の2つの共同村の枠組みが発達しています。

アレト・ロス社



様々な大きさの**村**には、主にアラブ人とルーズ族（イスラエル人口の1.7%）が暮らしています。土地や家屋を私有し、農家ごとに個別に作物を育て、販売しています。アラブ人社会のなかで少数派に属するベドウィン族（約17万人）は、かつての遊牧生活から近代的な定住の生活様式へと移行しており、都市化が進んでいます。

アレト・ロス社



キブツは、自己充足型の社会経済単位です。キブツではその構成員が意思決定を行い、財産や生産手段は共同で所有します。現在、人口の1.7%が267のキブツに住んでいます。構成員にはキブツ経済の様々な部門の仕事が割り当てられています。イスラエルの農業を支えてきたキブツは、今や工業、観光、サービス業へとその事業を拡大しており、伝統的な共同アプローチを見直して私有化を進めています。

モシャブは、各家族が各自で農場を所有し世帯を形成するという形式の農村です。かつては購買や販売を共同で行っていましたが、現在モシャブ農家は経済的な自立を進めています。441のモシャブ組織には人口の3.5%が所属し、イスラエルの農産品の多くを供給しています。

イシュブ・ケヒラティは新形態の共同村であり、現在は107の村に多数の家族が暮らしています。各家族は経済的に完全に自立していて大半の構成員は共同村の外で働いていますが、村のボランティア活動への参加率が極めて高いのが特徴です。

この共同村の中央管理組織（総会）は、各世帯の家長で構成されています。総会は共同村の予算を年次会合で可決します。管理・監視委員会のほかに多数の作業部会があり、教育、文化、青少年問題、財務その他の分野に取り組んでいます。また事務局が、各選出組織の決定に従って、共同村の日々の業務を有料で運営しています。新たに村民になるには、共同村の承認が必要です。

国民

ユダヤ人社会	130
少数派の人々	140
宗教の自由	145



写真提供：
イスラエル博物館
(エルサレム)

国民

イスラエルには、民族的、宗教的、文化的、社会的背景の異なる様々な人々が暮らしています。古いルーツを持つ新しい社会として、イスラエルは今も融合と発展を続けています。イスラエルの743万人の人口のうちの75.5%はユダヤ人、20.2%はアラブ人（大半はイスラム教徒）が占めています。そして残りの4.3%を、ドルーズ族、チェルケス人、その他の少数派が占めています。イスラエルの社会は比較的若く、社会的宗教的関心、政治思想、経済的豊かさ、文化的創造性などを特徴としており、これら全てが国の継続的発展の原動力となっています。

הנה מה טוב ומה נעים שבת אחים גם יחד. (תהלים קל"ג: א')

見よ兄弟（はらから）相い睦みて共に居るは、いかに善く、
いかに楽しきかな（詩篇133:1）

ユダヤ人社会

遙かなる帰路

約2000年前、多くのユダヤ人はイスラエルの地を追放されて世界各国、主に欧州、北アフリカ、中東へと離散しました。離散ユダヤ人は何世紀にもわたって世界各地で大規模なユダヤ人社会を多数築き上げて成長と繁栄の年月を過ごしましたが、その間に厳しい差別や虐殺、全面的あるいは部分的な追放などの憂き目にも会いました。迫害や暴力に見舞われるたびに、ユダヤ人の中には自らは「離散者の集合」であるとの思いが強まり、古代からの故郷に帰りたと思う個人や集団が増えていきました。19世紀末に創設されたシオニズム運動はこのような思いを信条へと高め、更にイスラエル国はこれを法制化し、同国に定住することを望む全てのユダヤ人に市民権を認めています。



新しい社会の形成

イスラエルの今のユダヤ人社会の政治的、経済的、文化的基盤は、主に英国委任統治時代(1917~1948年)に形成されました。イデオロギー的にはシオニズムに影響され、イスラエルの地のユダヤ人社会は、委任統治下において自らの社会的政治的機関を結成し、そのあらゆる権限を結束と成長に向けて行使しました。当時のユダヤ人はボランティア精神をその政治信条とし、平等主義を基盤に社会的結束を図っていました。

その後イスラエルは政治的独立を達成し大量の移民を受け入れたため、独立から最初の4年間で(1948~1952年)人口が65万人から約130万人にまで増加し、イスラエル人社会の構造や構成は変わりました。その結果、ユダヤ人社会は主に2つのグループで形成されることになりました。すなわち、セファルディ系ユダヤ人、アシケナージ系ユダヤ人、及びホロコースト生存者で構成されるグループと、北アフリカや中東のイスラム諸国から新たに移民してきたユダヤ人から成るグループです。建国前からイスラエルの地に住んでいた人々はイデオロギー面で強い信念があり、開拓精神に溢れ、民主的な生活をしていますが、アラブ諸国に何世紀にもわたって暮らしてきたユダヤ人の社会は族長の



テルアビブ:海辺
のイベント
・
観光省

社会組織を守っていたため、新移民にとってイスラエルの社会や急速に発展する経済に溶け込むことは容易ではありませんでした。

1950年代後半には、これら2つのグループは社会的にも文化的にもほとんど交流することはありませんでした。やがて北アフリカや中東から移民したユダヤ人は、その苛立ちや疎外感を反政府抗議行動という形で表明するようになり、1960年代と1970年代には政治参加の拡大、資源の補償の割当て、差別是正措置によって少数派と主流のイスラエル人との間の格差を縮小するよう求める声が上がりました。こうした人口の多様性に起因する緊張の高まりに加えて、イスラエルの社会は経済的独立に向けた取り組みもしなければならず、更に国境を超えたアラブ人による攻撃に対して防衛する必要もありました。それでもユダヤ人社会は、共通の宗教、歴史的な記憶、民族の結束を基盤に、様々な困難を克服していったのです。

アジスアベバから「ソロモン作戦」でイスラエルに到着したエチオピアからの移民

G.P.O./Ts.イスラエル



移民の継続的な受け入れ

長年にわたってイスラエルは、困窮地域だけでなく西欧の自由諸国からも新移民を受け入れ続けています。最近の移民の波は、イスラエルへの移民権を長年にわたって訴え続けてきた旧ソ連からの移民によるものでした。1970年代に約10万人

が移民に成功したのに対し、1989年以降は100万人以上がイスラエルに定住しています。その中には高学歴の専門家、著名な科学者、優れた芸術家や音楽家などが多数含まれ、その才能や経験はイスラエルの経済的、科学的、学術的、文化的生活に大きく貢献しています。

1980年代と1990年代には、ソロモン王の時代からエチオピアに住んでいたとされるユダヤ人が2回にわたって空路でイスラエルに大量移民しました。このようにアフリカの農業社会からの移民（5万人）が工業化・西欧化の進むイスラエルの社会に慣れるには時間がかかりますが、移民の中には新しい社会への適応に熱心な青年層が含まれているため、長く孤立してきたアフリカのユダヤ人社会のイスラエルへ統合化は促進されています。

宗教的多様性

ユダヤ人は聖書時代から一神教を信じ、ユダヤ教をその宗教的民族的信条としてきました。18世紀には世界のユダヤ人の大半は東欧に住み、周囲の社会とはほとんど交流することなく隔離地区（ゲットー）で暮らしていました。その閉じられた社会の中で何世紀にもわたって宗教学者が作成・文書化してきたユダヤ法典（ハラハー）を守り、自治を行っていました。

エルサレム：超正統派ユダヤ人居住区で暮らすハシディズムのユダヤ人
観光省





19世紀に欧州を席卷した解放と民族自決主義の精神により、教育、文化、哲学、神学の自由化が進むと同時に、複数のユダヤ運動が起こりました。その中には、リベラルな宗派の考えに沿う運動や、民族的政治的イデオロギーを支持する運動もありました。こうした運動の結果、多数のユダヤ人、そして最終的には過半数の者が、正統派の考え方やその生活様式と決別しました。なかには一般社会に完全に溶け込もうとする者もいました。

今日のイスラエルのユダヤ人社会には正統ユダヤ教を順守しようとするユダヤ人と、そうでないユダヤ人の両方がいて、超正統派のユダヤ人から自らを世俗的と見なす者まで、多様な人々で構成されています。その宗教観の違いは、さほど明確ではありません。正統派かどうかはユダヤの宗教法や慣行にどの程度従っているかによって決まるとすれば、イスラエルのユダヤ人の20%は全戒律を守ろうとしているのに対し、60%は個人の選択や民族の伝統に従って、幾つかの戒律を組み合わせて守っています。そして残りの20%は、基本的に戒律には従っていません。イスラエルはユダヤ人国家とされていたため、シャバット(土曜日)と全てのユダヤの祭りと聖日は国民の休日とされ、全てのユダヤ人によって祝われ、多少なりとも全員によって守られています。

そのほかにも宗教的な忠実度を測る目安として、わが

子に宗教色の強い教育を受けさせようとする親の割合や、総選挙で宗教政党に投票する有権者の比率などを挙げることができます。こうした目安の統計は、あまり当てになりません。というのも、宗教の戒律を順守していない親がわが子を宗教色の強い学校に行かせることもあり、また多数の正統派の市民が非宗教的な政党にも投票しているからです。

基本的に大半のユダヤ人は、近代的な生活を送る非宗教的なユダヤ人と言ってよいでしょう。宗教の戒律に対する敬意や実践の度合いという点で個人差はありますが、多数派は伝統的な生活様式を近代的に取り入れて、リベラルな宗派を支持しています。

一方で宗教を忠実に守る少数派（セファルディとアシュケナジー）は、宗教的な生活を送り、ユダヤの宗教法を守る一方で、イスラエルの国民としてその社会に参加しています。彼らは近代的なユダヤ国家をメシアの出現やイスラエルの地でのユダヤ民族の帰還の第一歩であると考えています。

それとは対照的に、一部の超正統派のユダヤ人は、イスラエルの地におけるユダヤの主権はメシアが現れない限り実現できないと考えています。こうしたユダヤ人は、ユダヤの宗教法を厳格に守って他の人々とは一線を

画す地区に住み、自ら学校を運営し、伝統的な装いに身を包み、男女の明確な役割を維持し、厳格な生活様式で暮らしています。

ユダヤ人との問題

宗教と国家の間に明確な区別がないために、イスラエルはどの程度ユダヤの宗教的特徴を示すべきかが常にユダヤ人社会における重要問題とされてきました。正統派の組織は宗教法を個人のレベル以上に拡大してその管轄権を得ることを求めています。非宗教的なグループはこれを宗教の強制であり、国家の民主主義的性質を侵害するものと考えています。またユダヤ人の定義についても議論が続いています。正統派は「ユダヤ人とはユダヤ人の母親から生まれた人、またはユダヤの宗教法に厳密に従ってユダヤ教に改宗した人」としていますが、非宗教的なユダヤ人は個人が自らをユダヤ教と認めればユダヤ人であるとする市民権の基準を支持しています。このような利害の対立は、宗教と国家の分離について定義する法的措置を求める動きにつながっていますが、全面的な解決策が見つかるまでは、イスラエルの国家独立前夜の不文律の合意、すなわち「建国後も宗教に関する状況に変化はない」とする現状維持の合意が有効とされます。



キブツ：ナツメヤシ
園の若い労働者

キブツ：牛舎と若い
搾乳者たち
観光省

キブツの社会

平等と共同体の原則に基づく独自の社会的経済的枠組みであるキブツは、20世紀初頭のイスラエルの開拓社会の中で生まれ、恒久的な農村の生活様式へと発展しました。長年にわたって経済的繁栄をもたらしてきたキブツは、最初は主に農業を行っていましたが後には工業やサービス業にも拡大され、イスラエル建国にも多大な貢献をしました。

イスラエル建国の前後の数年間にわたって、キブツは入植、移住、国防の面で中心的な役割を果たしましたが、こうした機能は政府に移行されたため、キブツとイスラエルの主流社会との交流は減り

ました。社会的制度的発展の先導者としてのキブツの中心的役割は低下し、1970年代以降は当初強すぎたほどだったその政治力も弱まりました。とはいえ、キブツが国家の生産量に占める割合は、人口比率からすると相当に高くなっています。

この数十年、キブツは内省的な側面を強めており、個人の業績や経済的成長を重視しています。多くのキブツでは「自分達で行う」という仕事の倫理の厳格さが低下し、

キブツの作業のために労働者を雇うことをタブー視する傾向が弱まり、より多くの非構成員労働者が雇用されています。それと同時に、キブツ構成員の中からキブツ外部で働く者が増えていますが、その給料はキブツに帰属するものとされています。

今日のキブツは、三世代の努力によって築かれました。キブツの創設者たちは、強い信念と明確なイデオロギーを持って、独自の生活様式の社会を結成しました。その社会構造の中で生まれた二世の子供たちは、共同村の経済的、社会的、行政的基盤を強固すべく熱心に働きました。そこで確立された共同体社会の中で育った現世代は、現代生活の課題と取り組んでいます。今日、個人とキブツ共同体の間の今後の関係性や相互責任について、また技術や通信の発展する昨今の社会との関わりについて、多くの議論が展開されています。

一部の人は、変化する環境に適応することによってキブツはその本来の原則や価値観から遠ざかっているのではないかと恐れています。一方で、このような妥協と適応の能力こそがキブツ存続の鍵であると考える人もいます。

少数派の人々

エルサレムの旧市街：イスラム教地区のピア・ドロローサ（十字架の道）と市場
観光省



アラバの
ベドウィン族
観光省

イスラエル人口の約24%（約170万人）は、非ユダヤ人です。彼らはイスラエルのアラブ系市民と呼ばれており、主にアラビア語を話す様々なグループで構成され、それぞれに明確な特徴があります。

イスラム教徒のアラブ人（約100万人）は主にスンニ族で、その半数は主にイスラエル北部の小さな町や村に住んでいます。

アラブ系のベドウィン人（約17万人）もイスラム教徒で、約30の部族に属し、その多くは南部の広大な地域に分散して暮らしています。かつて遊牧民だったベドウィンは、今は部族生活の枠組みから定住生活へと移行しており、徐々にイスラエルの労働力になりつつあります。

キリスト教徒のアラブ人（約11万7,000人）は、主にナザレ、シュファアラム、ハイファなどの都市部に住んでいます。様々な宗派がありますが、大半はギリシャカトリック教会、ギリシャ正教会、ローマカトリック教会に属しています。

アラバの
ベドゥイン族
・
観光省

ドルーズ族はアラビア語を母国語とし、約11万7,000人が北イスラエルの22の村に居住し、独自の文化、社会、宗教社会を築いています。ドルーズ族の宗教は外部の者には閉ざされていますが、「タキーヤ」と呼ばれる理念のあることが知られています。居住国の政府に対する完全な忠誠を求める教えです。



北の2村で暮らしている**チェルケス人**（約3,000人）はアラブ系ではなくイスラム社会の文化的背景ありませんが、イスラム教スンニ派です。民族の特徴を確保しつつもイスラエルの経済や国事に参加していますが、ユダヤ人社会ともイスラム社会とも一線を画しています。



観光省

アラブのコミュニティセンター

・
写真提供:エルサレム財団/M.ラウバー

アラブ人社会の生活

アラブ人のイスラエルへの入出国の状況は、その時々を経済状況によって異なります。19世紀後半はユダヤ人の移民によって経済成長が促されたことから、多くのアラブ人が雇用の機会、賃金の上昇、生活水準の向上を求めてこの地域に押し寄せました。



多元主義と分離社会

多民族、多文化、多宗教、多言語の社会として、イスラエルの社会は非公式にはかなり分離されています。公式の分離政策は存在しないものの、社会は様々な集団に分離されており、そのそれぞれが独自の文化的、宗教的、イデオロギー的、民族的特徴を維持しています。

なりの社会的分離、経済格差、しばしば過熱する政治情勢にもかかわらず、イスラエルの社会は比較的バランスが取れ安定しています。様々な集団間の社会的対立が

イスラエルのアラブ人口の大半は、ガリラヤ地方の自給自足の町や村、ナザレ市、ハデラとペタ・ティクバの中央地域、ネゲブ地方、及びエルサレム、アッコ、ハイファ、ロッド、ラムレ、ヤッフォなどの都市部に暮らしています。

イスラエルのアラブ人社会は主に労働者階級と中流階級で構成され、政治的には中央集権国家の中で少数派です。またヘブライ語社会においてアラビア語を話す少数派でもあります。彼らは同化することなく、イスラエルの第二の公用語であるアラビア語を用い、アラブ／ドルーズの個別の学校制度を運営し、アラブのマスコミ、文学、劇場を持ち、個人的状況に関する事項を取り扱う個別のイスラム、ドルーズ、キリスト教の宗教裁判所を維持しています。

アラブの伝統的な慣習を今も生活の一部としていますが、部族や族長の権威は徐々に弱まっており、義務教育やイスラエルの民主主義プロセスへの参加を通して、伝統的な考え方や生活様式が急速に影響を受けています。

イスラエルのアラブ人女性の地位は、男女平等の権利を規定し、一夫多妻制や児童の結婚を禁止する法律によって大幅に改善されました。

アラブ人は総選挙や地方選挙によって政治にも参加しています。アラブ人市民は自身の属する市町村の政治や行政を運営し、国会に自らの代表を送り込んで、少数派の地位向上や国益の分配を求めています。

イスラエル建国(1948年)以降アラブ人市民は、イスラエル国防軍(IDF)の徴兵義務を免除されています。これは、アラブ世界(イスラエルを度々攻撃してた)との家族的、宗教的、文化的つながりや、二重の忠誠心の恐れを懸念しているからです。その一方で任意の従軍は奨励されるため、毎年特例で従軍するアラブ人もいます。1957年以降、ドルーズ族とチェルケス人についてはその共同体の長からの要請に基づいて徴兵が義務付けられており、またベドウィン族についても進んで従軍する者が増えています。

社会的不安につながる恐れはあるものの、こうした対立は、市民に法的平等を厳密に保証する司法と政治の制度によって、低レベルに抑制されています。

つまり、イスラエルは「人種のあるつぼ」といよりもむしろ、民主的國家の枠組みの中で様々な民族集団が共生。



するモザイク社会です。エルサレムYMCAの**アラブ・ユダヤ幼稚園**

・写真提供:エルサレム財団/5.サベラ

アラブ人とユダヤ人の問題

イスラエル人口の6分の1以上を占めるアラブ人市民は、ユダヤ人とパレスチナ人の衝突の狭間で暮らしています。文化や特徴ではアラブ社会に属し、イスラエル国をユダヤ人国家とすることに異議を唱えてはいるものの、こうしたアラブ人市民は自らの将来はイスラエルとともにあると考えています。ヘブライ語を第二の言語として受け入れ、イスラエルの文化をその生活に取り入れています。その一方で国民生活への参加の度合いを強め、経済への統合を進め、自らの町村への利益を増やすために努力しています。

イスラエルのアラブ人とユダヤ人の密接な関係は、宗教、価値観、政治的信条の違いによって阻害されてきました。が、2つの別の社会として共存することを通して彼らは互いを認めるようになり、それぞれの社会の独自性や思想を認め合っています。

宗教の自由

イスラエル国家の独立宣言(1948年)は、全国民に宗教の自由を保証しています。どの宗教社会も自らの信条を实践し、その休日や祝日を守り、内政を管理することを名実共に認められています。各宗教には法律によって認められた宗教評議会と裁判所があり、全ての宗教事項や個人の状況(結婚や離婚)を統制しています。それぞれの宗教に数世紀にわたり築き上げられた独自の礼拝所、伝統儀式、特別な建築物があります。



写真提供:イスラエル郵便局

シナゴーク :伝統的なユダヤ正統派の礼拝には「ミニヤン」(成人男性10名で構成)が必要です。祈りは毎日3回行われます。男女は通常は離れて座り、頭には帽子をかぶります。礼拝は、ラビ、カントール、または会衆が行います。ラビは祭司や神の仲介者ではなく、指導者です。シナゴークの中心は聖櫃で、これはエルサレムのテンブルマウント山の方角を向いていて、トーラーの巻物が納められています。週ごとに決まった部分が年間を通して順番に読まれます。特にシャバット(ユダヤ教の安息日にあたる土曜日)や休日には特別な礼拝が行われます。

モスク：イスラム教の祈りは、毎日5回行われます。男女は別々に祈りをささげます。靴を脱いで清めの儀式が行われることもあります。イスラム教徒はサウジアラビアのメッカの方角（モスクの壁のくぼみ「ミフラーブ」が示す方角）を向いて祈ります。礼拝は、イスラム教の祈りのリーダーであるイマムがとり行います。イスラム教の伝統的な安息日である金曜日には、説教が行われます。

教会：キリスト教の礼拝の形態や頻度は宗派によって異なりますが、どの宗派も日曜日を安息日として守り、特別な儀式を行います。礼拝は神父や牧師が行い、男女一緒に祈ります。礼拝には音楽や聖歌隊の歌を伴うことが多く、伝統的に協会は十字型をしています。

聖地

各宗教の聖地や神殿はその宗教的権威によって管理されており、聖地に行って祈りをささげることは法律によって保証されています。以下の聖地があります。

ユダヤ教：エルサレムのコテル（嘆きの壁）は第二神殿時代の壁の最後の名残です。その他、ベツレヘム付近のラヘル（ラハエル）の墓、ヘブロンにあるマクペラ洞窟の族長の墓、ティベリアアのマイモン（ラムバム）の墓、メ



ロン山にあるラビ・シモン・バル・ヨハイの墓が聖地とされています。

イスラム教：神殿の丘のアルハラム・アッシャリーフ建物群(エルサレムの「岩のドーム」やアルアクサー・モスクなど)、ヘブロンにある族長の墓、アッコのエルジャザール・モスク。

キリスト教：ビア・ドロローサ、最後の晩餐の部屋、聖墳墓教会、及びその他のイエスの受難の場所(エルサレム)、ベツレヘムの生誕教会、ナザレの受胎告知教会、及びガリラヤ湖(キネレット湖)付近の祝福の山、タブハ、及びカペルノーム。

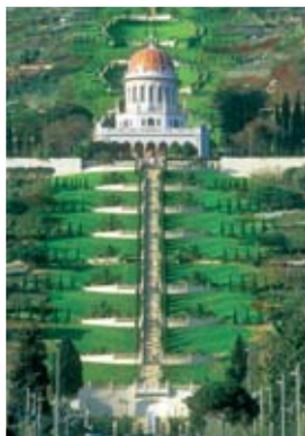
ドルーズ：ガリラヤのヒッティンの丘近くにあるネビ・シュエイブ(モーセの義父であるエテロの墓)。

バハイ教徒：(19世紀中期にペルシアで創設された独自の一神教)バハイワールドセンター、ハイファアのバーブ廟、アッコ付近のバハイ教の預言者・創設者のバハオーラーの廟。

祝福の山：説教が行われていた教会の外観
・
観光省

エルサレムの岩のドーム

・
観光省



ハイファ：バハイ教のバーブ廟と庭園
・
観光省

保健と社会福祉

保健医療サービス	152
医療研究	157
国境を超えた協力	159
社会福祉	160
社会保険	163
ボランティア活動	164



保健と社会福祉

イスラエルの高水準の保健サービス、質の高い医療資源と研究、近代的な病院施設、人口当たりの医師数、医療専門家数の高さは、乳幼児死亡率の低さ（1,000人当たり4.7人）や平均寿命の長さ（女性82.5歳、男性78.8歳）に反映されています。乳幼児期から老年期に至るまで、法律によって全国民に医療が保証されており、国の医療支出で他の先進国と肩を並べています。

כל ישראל ערביין זה בזה (שבועות ל"ט:א')

全イスラエルが互いに責任を負う。(バビロニア・タルムード、シャブオット39a)

保健医療サービス

予防、診断、治療の医療ネットワークなどの医療制度の基礎は、イスラエル建国前に、ユダヤ人社会と当時この地を納めていた英国委任統治政府(1918~1948年)によって築られました。

長く続く伝統 : 19世紀には、赤痢、マラリア、チフス、トラコーマなどの病気が、当時はオスマン・トルコ帝国の一属州に過ぎなかったイスラエルの地に蔓延していました。エルサレム旧市街のユダヤ人に保健サービスを提供するために、欧州のユダヤ人社会が多数のクリニックを開設し、医療費を支払えない人々に無料で医療サービスを提供、困難な状況下で献身的な治療を行いました。こうした診療所がやがて病院へと拡大しました。たとえばビクール・ホリーム病院(1843年創設)、ミスガブ・ラダッハ病院(1888年創設)、シャア

そのため建国時には既に医療体制が十分に整備され、予防措置が当たり前のように行われて、環境整備の枠組みも機能していました。しかし、建国から数年の間に、戦後の欧州やアラブ諸国から大量の難民が流入したため、国の医療事業はこれら難民の医療需要に対処するために、既に克服したはずの問題に新たに直面することとなりました。イスラエルは国を挙げてこの問題に取り組み、特別な医療サービスの提供、広範な保健教育や予防医学の普及に努めました。

国内には病院、外来クリニック、予防医学センターやリハビリセンターからなるネットワークが整備されています。病院では体外受精、MRIスキャンから複雑な脳外科手術、骨髄移植、内臓移植まで、高度



写真提供:シャーロット・ゼネラル病院

レイ・ツエデク病院(1902年創設)は全て今も運営されており、近代的な医療技術を駆使して最新の医療サービスを提供しています。エルサレムのハダッサ医療センター(医学校、看護学校、薬理学校及び2つの近代的病院を完備)の歴史は、アメリカのハダッサ女性シオニスト組織が1913年にエルサレムに派遣した2人の看護師にまで遡ります。

な医療行為が行われています。

妊婦と乳幼児のための母子保健センターは、出生前の諸検査、心身の障害の早期発見、予防ワクチンの接種、小児科の定期健診、保健教育などを行っています。

行政当局

保健衛生は全て、保健省が管轄しています。保健省は、法制上の整備とその施行、医療水準の全国的管理、食品及び薬品の品質基準の維持、医療従事者の認可、医学研究の推進、保健サービスの評価、病院建設の計画と施工の監督などを主に行って

います。また環境医学や予防医学の公衆衛生機関としての役割も果たしています。

医療従事者

イスラエルでは約3万2,000人の医師、9,000人の歯科医師、6,000人の薬剤師が病院や地域の診療所、または開業医として医療に従事しています。国内の5万4,000人の看護師の約72%は正看護師で、残りは准看護師です。

医療従事者の養成は、大学の医学部(4学部)、歯学部(2学部)、薬学部(2学部)、及び15の看護学校(内7校が

学位を授与)で行われています。理学療法士、作業療法士、栄養士、レントゲン技師、医学技能士も複数の教育機関で養成されています。

健康保険

国民保険法は、イスラエル全居住者に対して入院を含む一定水準の医療サービスの提供を規定しています。医療サービスは、4つの総合的な健康保険機構により提供され、いずれの機構も年齢や健康状態にかかわらず申請者は誰でも加入できます。

その主な財源は、国民健康保険機構が徴収する毎月の健康保険税(収入の4.8%が上限)と、事業主が負担する従業員の保険料で構成されています。各保険機構は、保健省が設定した判断基準(被保険者の年齢、医療機関から自宅までの距離など)に照らして算出された加重平均被保険者数に応じて、その支出額の返済を受けています。

健康問題

イスラエルの健康問題は、西側先進諸国の傾向と共通しています。心臓病と癌が死因の3分の2を占めるため、これらの病気の対策研究が国の優先課題とされています。老

マゲン・ダビッド・アドム

(イスラエルの救急医療サービス)は、救急ステーションのネットワークを展開し、献血事業、血液銀行の運営、救急処置講座のほか、集中治療設備を備えた救急車サービスなどを行っています。この救急医療活動は、全国109箇所の救急ステーションで働く多数の高校生を含む約1万人のボランティアによって支えられています。

ヘルス・ツーリズム：イスラエルは、世界各国のリューマチ、乾癬、喘息などの慢性疾患患者に人気の治療地で。ティベリアの温泉、ミネラル成分の豊富な死海、ネゲブ砂漠に位



アルパトロ社

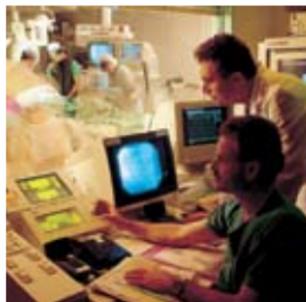
置する近代都市アラドの乾燥気候などが治療に大きな効果をもたらしています。

人医療や環境の変化から生じる諸問題、生活習慣病、交通事故や労働災害も懸念されています。健康管理に関する教育も広く推進されており、喫煙や過食、運動不足など健康に有害であることが立証されている習慣を止める必要性が訴えられています。また労働者やドライバーを対象に、潜在的な危険に対する注意を喚起するキャンペーンが頻繁に行われています。

医療研究

イスラエルは、医学とその周辺分野、及び生物工学の分野で先進の研究開発基盤を持ち、広範囲な研究に取り組んでいます。

研究は、大学の医学部、各種国立研究機関や研究所や、医薬、生物工学、食品加工、医療設備の各メーカーの研究開発部門において活発に行われています。イスラエルの研究水準の高さは世界的に知られており、海外の医学・科学分野の研究機関との相互交流も盛んです。イスラエルではまた、様々な医療問題に関する国際会議が頻繁に開催されています。



写真提供：シャール・セテウ病院

医療技術

先端技術は、近代的な診断や治療に不可欠です。イスラエルでは医療研究機関とメーカー側の緊密な協力によって、特殊な医療機器の開発が目覚しく進んでいます。例えばCATスキャナーや先進のマイクロコンピュータ内蔵装置は、正確な診断や危機的な状況下での効果的な治療に欠かせないものとなっていますが、イスラエルはこれらの装置を世界各地に輸出しています。

イスラエルは、レーザーを使った手術器具やその他様々な電子医療設備（コンピュータ利用のモニターシステム、生命維持装置、苦痛緩和装置など）の開発や利用も他国に先駆けて行っています。

国境を超えた協力

医療はイデオロギーや政治の壁を超えた万人の権利であるとの信念から、イスラエルの病院は治療を求める全ての人を受け入れています。長年にわたり世界各地から専門治療を求める患者がイスラエルを訪れていますが、その中にはイスラエルと国交のない諸国の人々も含まれています。またアジアやフリカの多くの地域において、イスラエルの医師や看護師らが先進国では事実上撲滅された病気の治療を支援したり、医学交流計画で現地の医療従事者を指導・教育したりしており、その一部は世界保健機関(WHO)の後援するプログラムの一環として実施されています。更にイスラエルの医療チームは、災害地での救護活動も行っています。



活動中の**イスラエル国防軍探索救護チーム** (トルコ大地震後)

G.P.O./Y. サール

社会福祉

イスラエルでは総合的な社会福祉制度が法律に基づいて整備されており、国と地域のレベルで幅広いサービスが提供されています。老人介護、母子・父子家庭の支援、青少年の育成、薬物乱用の防止と治療、新移民への援助などを社会福祉サービスとして行っています。更正対策としては、保護観察制度、中途退学者の救済プログラム、問題を抱える青少年の在宅観察サービスなどがあります。また視覚障害者や身体障害者向けに、保護作業所や就職相談などの社会復帰プログラムが用意されています。更に知的障害者のために、在宅や地域での様々なケアプログラムが実施されています。

行政

社会福祉法(1958年)に基づき、各地方自治体は社会福祉の担当部署を設けることが義務付けられており、その予算の75%は労働・社会福祉省からの助成金で賄われています。なお養子縁組、保護観察制度、発達障害者のための住宅施設などの全国規模の事業は、同省が資金を出して実施しています。同省は政策決定機関であるとともに、社会福祉関連の立法化を進め、社会福祉事業運営の規則を定め、公共・民間の両機関が提供する社会福祉活動を監督しています。

社会福祉スタッフ

社会福祉学科が大半の大学や大学院に設けられており、理論と実習を組み合わせた研修が行われています。政府が運営する講座では、保育スタッフやソーシャルワーカーの助手向けの研修やソーシャルワーカーの現職者研修などが行われ、社会福祉事務所、コミュニティーセンター、移民受入れセンター、母子医療センター、学校、工場、病院などの様々な場所に、コミュニティーワーカーやケースワーカーが配属されています。

高齢者問題

高齢者の介護と福祉が、今やイスラエルの医療・社会福祉の大きな部分を占めています。建国以来、国の総人口が5倍に増えたのに対し、高齢者人口(65歳以上)は10倍に膨れ上がり、今や総人口700万人の約9.8%が高齢者で占められています。これは主に大量移民によるものです。移民は1950年代と1990年代にそのピークを迎えましたが、1989年以降に主に旧ソ連諸国から移民してきた100万人を超える移民の12%以上が65歳以上の高齢者でした。その多くはヘブライ語を学ぶ時間も機会もなく、イスラエルの労働力となることもなかったため、老後の確かな経済基盤を築くことができませんでした。そのためイスラエルの高齢者の多く(その約13%は障害者)は、家族や地域社会に依存せざるをえない状況にあります。

様々な福祉サービスは、労働・社会福祉省の計画と監督の下、地方自治体の社会福祉部門を介して提供されています。例えば高齢者が各家庭で自立して暮らせることを目的に、地域に根ざした高齢者サービスが行われています。こうしたサービスではソーシャルワーカーが高齢者のニーズを評価し、介護老人を抱えた世帯に対する支援が行われたり、高齢者のための社交クラブが開かれたり、食事の宅配、保護収容施設、デイケア、医療器具や輸送手段などに関するサービスがニーズに応じて提供されています。なお単身世帯や低所得者などのハイリスクグループへのサービスに特に力が入れられています。

社会保険

国民保険法(1954年)は、国民保険機構(NII)の提供する広範囲の便益を全国民に保証しています。NIIは労働・社会福祉省の監督下で運営されている自治組織で、その資金は政府予算のほか、事業主と被雇用者及び自営業者の強制拠出金を財源としています。収入が最低所得水準を下回る世帯や個人に対しては政府の所得維持政策が適用され、NIIの補助金が支給されています。また一般家庭には児童手当が支給されており、特に4人以上子供がいる家庭では家計の大きな助けとなっています。更に国民保険法の改正により、在宅か施設暮らしにかかわらず、要介護老人は全て長期介護サービスを受けられるようになりました。NIIはまた、国民健康保険制度を統括しています。



ボランティア活動

イスラエルの成人人口の約20%がボランティアとして278の公共の保健・社会福祉ボランティア団体で活動しています。こうした団体は多岐にわたり、病院や救急ケアの補助団体から市民警護団、ボランティア救助隊や、薬物、家庭内暴力、児童虐待、道路の安全、環境保護などの大きな社会問題と取り組む団体、あるいは女性の地位の向上、移民や消費者の権利、兵士の福祉に取り組む団体もあります。

様々なプログラムにおいて、海外からのボランティアにもイスラエルでの活動機会が通常は短期ベースで提供されています。多くのボランティアは夏にイスラエルを訪れて遺跡の発掘に参加したり、キブツで働いたり、社会事業を手伝ったりしています。ドイツ人の若者の中には、ユダヤ民族に対するナチス政権の戦争犯罪の償いとして、イスラエルの高齢者や病人の世話をしたいと考えるボランティアもいます。

現在のボランティアの構成は、以前とは異なっています。今では多くのイスラエル人女性が職に就いているのでボランティアに費やす時間があまりない状況ですが、その一方で寿命が延びたことから多くの退職者の男女が救急医療援助（マゲン・ダビッド・アドム）や環境団体などでボラ

ンティアとして働くようになりました。大学生も、恵まれない子ども達や10代の若者の家庭教師をボランティアで行っています(それによって奨学金を受け取る場合もあります)。イスラエルのボランティア活動は、首相府が資金提供する公共の非営利団体であるイスラエル・ボランティア活動国民評議会が管理しています。この団体は国際的なボランティア機関とも連携しています。ボランティア団体によるキャンペーンは、募金のためのテレソン(24時間テレビ)など、イスラエルの暮らしの一部として受け入れられています。

教育

課題	170
幼児教育	172
学校制度	173
管理と機構	175
高校教育	176
高等教育	178
大学	180
単科大学	183
成人教育	184

写真提供:エル
サレム財団/S.
サベラ



教育

教育はイスラエルの貴重な財産です。伝統的に教育はイスラエル社会の基本的な価値であり、未来の鍵を握るものとされています。イスラエルの教育制度は、子供たちを人種、宗教、文化、政治的信条の異なる人々が共存するイスラエルの民主的複合社会の責任ある社会人に育てることを目的としています。この教育制度では、ユダヤの価値観、祖国愛、自由と寛容の精神に基づいて、高度な知識、特にイスラエルの発展に不可欠な科学技術の知識を伝えることが目指されています。

אין העולם מתקיים אלא בשל הבל פיהן של תינוקות של בית רבן
(שבת קי"ט:ב)

世界はまさに、校舎にいる子供の息吹にかかっている。
(バビロニア・タルムード:シャバット 119b)

課題

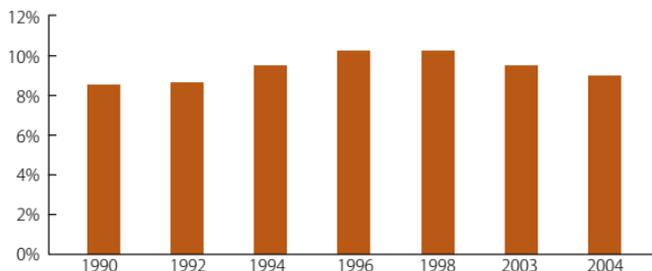
1948年にイスラエルが建国された時点で既に、本格的な教育制度がユダヤ人社会によって整備されており、19世紀末に日常語として復活したヘブライ語を使って教育が行われていました。

しかし、建国後まもなくイスラエルは、70以上の諸国から親と一緒にあるいは単身で移民してくる多くの子供たちをその教育制度に統合するという大きな課題に直面しました。この課題を克服することこそが、ユダヤ人の歴史的祖国としてのイスラエルの存在意義を満たすことでした。1950年代の大量移民は、主に戦後の欧州やアラブ諸国からの移民でしたが、続いて1960年代には北アフリカから多くの移民が流れ込んできました。更に1970年代には相当数のユダヤ人が初めてソ連からも移民し、その後も断続的に小規模な移民が続きました。1990年代になると旧ソ連から100万人を超えるユダヤ人が移民し、その後毎年、数万人単位での移民が続きました。また1984年と1991年にはエチオピアのほぼ全てのユダヤ人がイスラエルに大量に移民しました。更に多年にわたって、アメリカ大陸やその他の西洋諸国からも多数のユダヤ人が移住しています。

様々な文化的背景を持つ子供たちを学校に受け入れる

ために教室や教師の需要を早急に満たさねばならなかったうえに、特別な教材や教育方法の開発も必要でした。新しく移民してきた子供たちのために特別なプログラムも実施されました。例えば、教科の補習授業や、ヘブライ語やユダヤ民族の歴史など出身国では学ばなかった科目を教える短期コースなどです。また移民の子供たちを教える先生向けの特別な研修コースも開始され、移民してきた教師がイスラエルの教育制度で働けるように、再訓練のコースも設けられました。

それと平行して教育省が、男女同権の指示、教師の地位向上、人文科学課程の拡大、科学技術教育の促進など、近代的な教育の実施に向けて教育水準を引き上げる取り組みを行ってきました。同省は、全ての子どもに等しく教育の機会を与え、大学入試資格検定試験に合格する子ども数を増やすことに、その教育政策の重点を置いています。



国の教育費(対GDP比)

幼児教育

写真提供：
エルサレム財団/
H. マゾールMazor



写真提供：
バイブルランド博物館
(エルサレム)

イスラエルでは、能力、特に社会化と語学の能力の早期開発のために、ごく幼少期に教育が始められます。

2歳児の多くが、また3、4歳児の大半が何らかの幼稚園に通っています。大半の幼稚園プログラムは地方自治体の資金援助で行われており、婦人団体が運営するデイケアセンター内で実施されているプログラムもあれば、民間のものもあります。教育省は、条件の不利な地域の幼稚園教育に特別予算を出しています。

5歳児は幼稚園教育が義務付けられ、無料化されています。言葉や数字の概念などの基本を教え、知力と創造力を伸ばし、社会性を育てることが目的とされています。全ての幼児教育施設のカリキュラムが、教育省の指導と監督のもと、将来の学習に備えてしっかりした基礎を築けるように構築されています。

学校制度

6歳から18歳までの義務教育は無料です。正規の教育は小学校(1~6年生)から始まり、中学(7~9年生)、高校(10~12年生)と続きます。13歳から18歳までの就学年齢の子どもの約9%は寄宿学校で学んでいます。

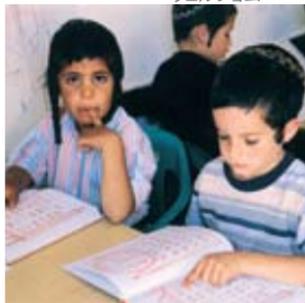
イスラエルの教育制度の枠組みは、その文化的多面性を考慮して構築され学校は以下4つのグループに分けられています。

国立学校には、イスラエルの子どもの大多数が通っています。**国立宗教学校**では、ユダヤ教の教典、伝統、慣習に重点が置かれています。**アラブ・ドルーズ学校**は、アラビア語で授業が行われ、アラブ・ドルーズの歴史や伝統、文化が重視されています。そして**私立学校**は、様々な宗教や国際的な援助のもとで運営されています。

最近では、子供の教育方針に対する親の関心が高まっており、両親や教育者団体の独自の価値観と信念を反映して新しい学校も設立されています。

私立の超正統派学校

・
G.P.O./A. ベン・グ
ウエルシヨム



アラブ人学校

・
写真提供:エル
サレム財団/S.
サベラ

特殊教育

クラスで上位3%に入り、しかも資格試験に合格をした優秀な生徒は、英才教育プログラム(全日制の特別な学校や課外コースなど)に参加しています。英才教育プログラムの生徒のレベルや学習内容は非常に高度であり、ただ知識を学んで理解するだけではなく、習得したことを他の学科に応用することが重視されています。こうしたプログラムの生徒は、新たな題材を自由に研究し扱うことも学びます。

心身障害や学習障害のある子供たちは、最終的に出来るだけ社会の一員としてその社会生活、職業生活を送ることができるよう、各自の障害の性質に応じて適切な教育を受けています。特殊な学校で学

カリキュラム

学校での大半の時間は、必須科目の学習に費やされています。学習科目はどの学校も同じですが、各学校はそのニーズや生徒数に最も適した設備や教材を、教育省が提供する広範囲の種類の中から選ぶことができます。生徒がイスラエルをより良く理解できるように、国の重要事項に関する主題が毎年1つ選ばれ、詳しく教えられています。これまでに、民主的価値観、ヘブライ語、移民、エルサレム、平和、工業などが主題として選ばれました。

管理と機構

学校のカリキュラムや教育水準、教員の監督、校舎の建設は教育省が担当し、学校の維持や設備・消耗品の入手は地方自治体が担当しています。幼稚園と小学校の教員は国家公務員であり、中学校と高校の教員は地方公務員です。なお地方自治体は生徒数に応じて国から補助を受けています。政府と地方自治体が教育費の80%を負担しており、残りは他の財源で賄われています。

ぶ場合や普通の学校で学ぶ場合があり、後者の場合は特殊学級に入るか、または普通学級で補助教員の助けで学ぶことが可能です。

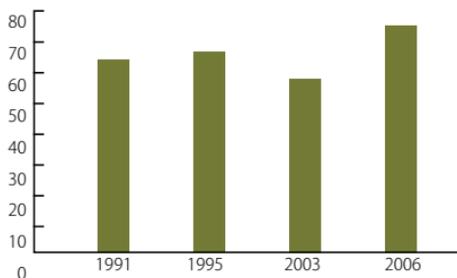
障害児の福祉は、ヘルスケアスタッフ、心理学者、特殊教育の専門家や、家族と地域の支援グループが共同で担っています。法律に基づいて教育省の任命する委員会が、障害児の特殊教育プログラム／施設の利用資格（3歳～21歳まで無料）を認定しています。

高校教育

ほとんどの高校では、大学入学資格の取得や高等教育への進学に向けて、文系、理系両方のカリキュラムが提供されています。

教育テレビ(ETV) は教育省の一部門として、学校の教室で使用する学習番組や一般市民向けの教育番組を制作・放送しています。また新たな教育手法の開発を大学や教員セミナーの教育専門家と協力して行っています。生涯学習の提供を目指し、ETVはあらゆる年齢層の人々を対象に番組を制作していま

一部の高校は専門課程を教え、大学入学資格及び／または職業免許を与えています。工業高校では技術者やエンジニアの養成を3つのレベルで行っています。大学入試に備えるコース、職業資格を取得するためのコース、実質的な技能を磨くためのコースの3つです。農業高校は主に寄宿制で、一般教養に加えて農業科目を教えています。軍予備校は、国防軍



大学入学資格受験者が17歳人口に占める割合

が必要とする分野の専門家や職業軍人を養成しています。イエシバ・ユダヤ教高等学校は男女別の寄宿制が多く、一般教科の他に集中的に宗教科を教え、ユダヤの慣習と生活様式の順守を促しています。

また総合高等学校では、簿記から機械、エレクトロニクス、ホテル業、グラフィックデザインまで、様々な職業関連学科を教えています。

前述の学校に行かない若者は、法律(研修法)に従い、認可された専門学校で職業訓練を受けなければなりません。研修プログラムは、職業ネットワークの様々な提携校において産業貿易労働省が実施しています。プログラムの期間は3~4年で、最初の2年間は教室で学び、残りの1~2年は週に3日勉強し、残りの日は学生自らが選んだ職場で働くという形式です。美容師や調理師、機械工、ワープロなど色々な職種があります。

す。例えば幼児番組、若者向けの娯楽番組、成人用の教育コース、一般向けのニュース番組などです。



中学校の技術の
クラス
G.P.O./A. オハ
イオン

高等教育

高等教育は、国の社会経済的発展に重要な役割を果たしています。イスラエル建国の25年ほど前に、技術者や建築家の養成を目的としてハイファにテクニオン・イスラエル工科大学が設立され(1924年)、またイスラエルの地における若者の高等学問の中核としてエルサレム・ヘブライ大学も創設されて(1925年)、外国からもユダヤ人の学生や学者を引き寄せました。イスラエル独立時(1948年)のこの2つの大学の在籍者数は約1,600人でした。2009~2010年には、国内にある高等教育機関に約28万0,000人が在籍し、そのうちの38%は大学に、41%は単科大学に、21%は公開大学の講座に通っていました。

イスラエルの高等教育機関には学問と運営の自由が与えられており、各機関の学力水準を満たす人は誰でも入学することができます。入学に必要な資格を欠いている移民や学生には特別な準備コースが用意されており、コースを無事修了すれば大学への入学資格が与えられます。

高等教育評議会

高等教育機関は、高等教育評議会の管理のもとで運営されています。この評議会は教育相が長を務め、学者、地域の代表者、及び1名の学生代表で構成されており、合格の

認定、学位授与の認可、高等教育と科学研究の発展や財政の問題に関して政府に助言しています。

この評議会の企画・認可委員会は、専門の異なる4人の学者と経済産業界の2人の公人で構成され、財政問題に関する政府と高等教育機関の仲介者として双方に予算を提案し、承認された予算の配分を行っています。高等教育の財源は70%が公費、20%が学生の支払う授業料、残りは民間資金です。この委員会は様々な機関間の協力も促進しています。

学生

イスラエルの学生は、兵役義務（男子は3年、女子は2年）があるため、大学で勉強を始めるのはほとんどが21歳になってからです。1960年代の初めまでは、学生は主に学識を高める目的で高等教育に進学していましたが、最近ではキャリア志向の者が多く、専門性の高い学部に進む学生数が増えています。

現在、20~24歳の年齢層のイスラエル人の半数以上が高校を卒業後、専門学校や大学に在籍しています。



大学

テクニオン・イスラエル工科大学（ハイファに1924年に創設）は、イスラエルの技術者、建築家、都市プランナーを多数輩出しています。この数10年の間に、医学部と生命科学部も増設されました。この大学は科学技術分野の基礎及び応用研究の中核として、イスラエルの工業の発展に貢献しています。

エルサレム・ヘブライ大学（1925年創設）は、美術史から動物学まで、ほぼあらゆる学問分野の学部を揃えており、またイスラエルの国立図書館もこの大学内に置かれています。設立以降、ヘブライ大学出身の科学者はイスラエルの発展の様々な段階に積極的に関わっており、そのユダヤ研究学部は世界で最も包括的なユダヤ学問の学部の1つとされています。

ヴァイツマン科学研究所（レホボトに1934年に創設）は、元々シーフ研究所として創設されましたが1949年に拡張され、イスラエルの初代大統領であり著名な化学者でもあったハイム・ヴァイツマンの名を取ってヴァイツマン科学研究所となりました。現在は物理学、化学、数学、生命科学分野の大学院の中核的存在とされ



ており、この研究所の研究者は工業の発展や新たな科学事業の設立を加速させるプロジェクトに携わっています。科学教育学部もあり、高校で使用するカリキュラムの作成が行われています。

バル・イラン大学（ラマツト・ガンに1955年に創設）は、ユダヤ遺産の研究プログラムに様々な学問分野（特に社会科学分野）の自由教育を統合的に組み合わせるユニークな教育を行っています。伝統と近代科学を融合させ、物理学、医療化学、数学、経済学、戦略研究、発達心理学、音楽、聖書、タルムードなどに関する研究機関を備えています。



講義

テルアビブ大学（1956年創設）は、イスラエル最大の人口過密地域であるテルアビブ地域の大学の必要性に応じ、3つの既存機関を統合して設立されました。現在ではイスラエル最大の大学として様々な学部があり、基礎研究と応用研究の両方に重点を置いています。この大学には戦略研究、保健制度の管理、技術予測、エネルギー研究の専門研究所があります。

ハイファ大学（1963年創設）は、イスラエル北部の高等教育の中核として学際的な学問の機会を提供してお

り、複数の学際センターと研究所を備え、学際的な学問に適した建築設計とされています。キブツを社会的経済的主体として研究する特別な部門や、イスラエルのユダヤ人とアラブ人の間の理解と協力を進めるためのセンターもあります。

ベングリオン・ネゲブ大学（ベエル・シェバに1967年に創設）は、イスラエル南部の住民のニーズに応えるため、またイスラエルの砂漠地帯の社会的科学的発展を促進するために設立されました。特に乾燥地帯に関する研究で実績があり、また医学部はイスラエルの地域医療において先駆的役割を果たしています。同大学のキブツ・スデ・ボケルのキャンパスには、イスラエルの初代首相であるデビッド・ベングリオンの生涯や時代を歴史的、政治的側面から研究するためのセンターがあります。

公開大学（1974年創設）は英国を模範とし、学位の取得を目指す人を対象に独自の非伝統的な高等教育機会を提供しています。主に自習形式の教科書や指針書が用いられますが、それと同時に体系的な宿題と定期的な個別指導で補足するという柔軟な教育方法が取られ、最後に試験が実施されています。

単科大学

地域の単科大学でも教養課程を受講することができます。多くの単科大学が総合大学の管理下で運営されているため、学生はまず自宅に近い単科大学で学位取得に向けて勉強し、その後に総合大学のメインキャンパスで学位を取得することも可能です。

いくつかの専門機関では芸術、音楽、ダンス、ファッション、看護、リハビリ治療、教育、スポーツなど様々な学科が用意されています。また一部の私立の単科大学では需要の多い学科（経営学、法律、コンピュータ、経済学、その他関連の科目）を学ぶことができます。さらに、技術や農業、マーケティングからホテル業まで、様々な学科の職業証明書や資格を取ることのできるコースを設けている単科大学もあります。

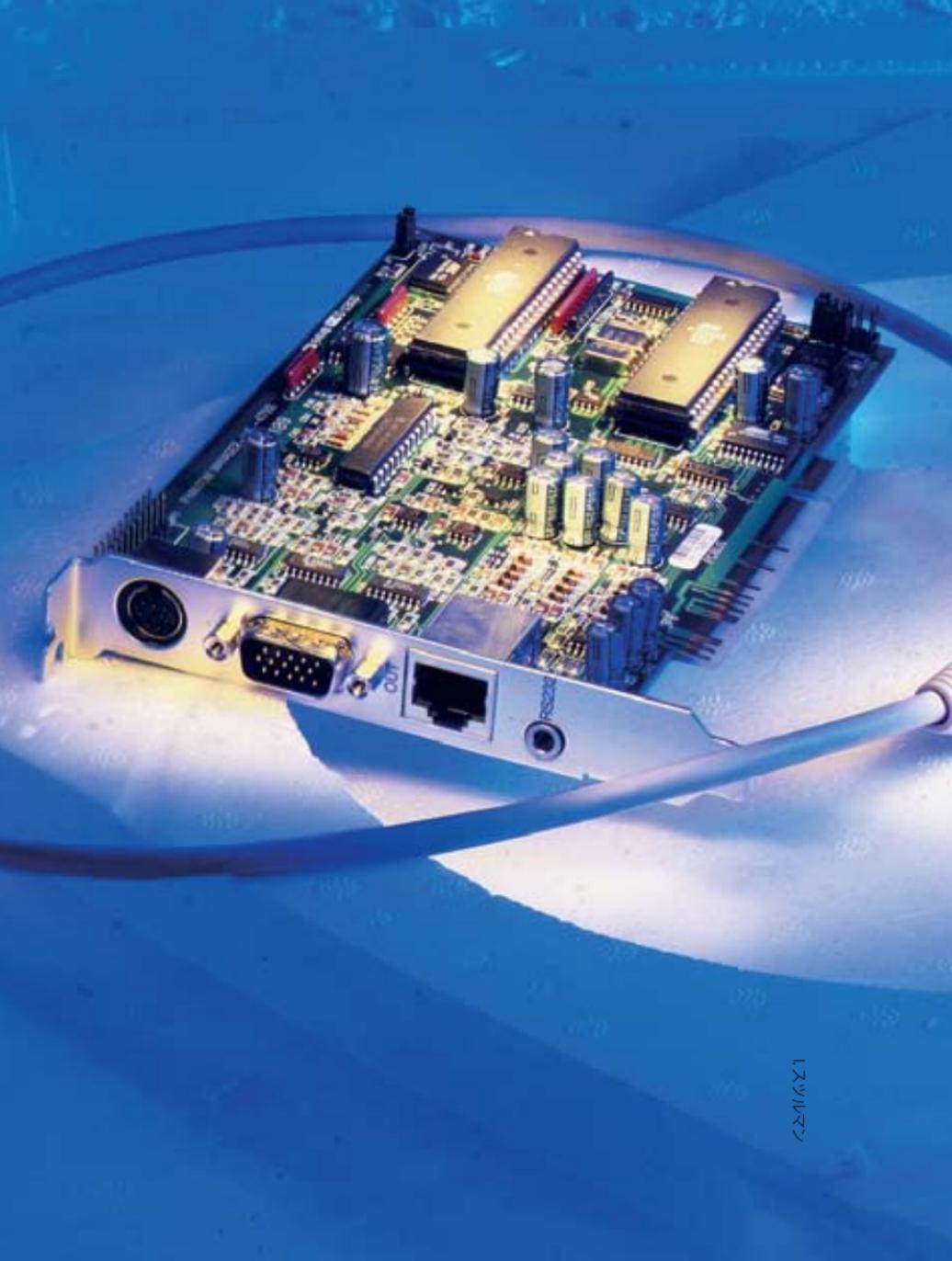
成人教育

教育省や公共、民間の様々な機関によって、多岐にわたる成人教育のニーズが満たされています。ヘブライ語の学習、基本的な教育技能の向上から家族の福祉の促進、一般知識の拡充まで、様々なニーズを満たすコースが多数提供されています。労働省も、大都市や多くの町々で成人向けの職業訓練や再トレーニングコースを多数の分野で提供しています。

ヘブライ語の教育は、特別に開発された「ウルパン」方式を使って様々なレベルで行われており、移民その他の人口層がイスラエルの一般生活に慣れるための助けとなっています。成人間の教育や文化の格差を縮小するために、成人学習には補習教育も設けられています。また職業訓練コースは全日制と夜間のクラスがあり、労働省と企業が共同で運営するセンターや技術・職業訓練機関で行われています。イスラエルの国中にある「市民大学」と呼ばれる施設では、学問や芸術の分野で多数の成人教育クラスやワークショップが行われています。また移民者のために「ラジオ大学」などの特別なラジオ番組も放送されています。

科学技術

黎明期	188
人材	190
研究開発 (R&D)	191



12/1/22

科学技術

他の小国と同様、イスラエルも自国の競争力の強化を重点に、科学技術政策を行っています。科学では、優れた科学者を育成する中核的研究拠点 (COE) の設立が奨励され、また幅広い科学分野にわたって質の維持が図られています。技術では、限定数の領域に重点を絞ることによって成果の向上が目指されています。

科学技術分野に携わるイスラエル人の割合や、研究開発に費やされる資金額を対国内総生産 (GDP) 比で見ると、イスラエルは世界有数のレベルに達しています。

המחקר המדעי והישגיו אינם עוד עניין אינטלקטואלי מופשט
בלבד... אלא גורם מרכזי... בחיי עם תרבותי... (דוד בן גוריון, תשל"ב)

科学的研究とその成果は、もはや単なる抽象的な知的追及にとどまらず、あらゆる文明人の生活の中心をなしている」 (ダビッド・ベングリオン、1962年)

黎明期

イスラエルの科学研究の歴史は、ユダヤ人の祖国帰還の歴史の重要な一部です。政治的シオニズムの創設者であるテオドール・ヘルツル(1860~1904年)は、イスラエルの地に近代ユダヤ国家を建設するという考えを積極的に推進し、ユダヤ民族の物理的な郷土としてだけでなく、その精神的、文化的、科学的中心ともなる国家の建設を目指しました。



フルタロム研究所
(1946年)
G.P.O./H. ピン

当時は疾病に悩まされていた不毛地域を近代国家に変革したいとの思いは、その後の科学的探究や技術的発展の重要な誘因となりました。農業研究の始まりは、19世紀(1870年)のミクベ・イスラエル学校の設立に遡ります。テルアビブに1921年に設立された農業試験場は、最終的に今日のイスラエルの主な農業研究開発機関である農

業研究機関(ARO)へと発展しました。また医学、公衆衛生の研究は、第一次世界大戦以前のヘブライ保健局の設立から始まり、1920年代半ばにエルサレム・ヘブライ大学に微生物学研究所、生化学、細菌学、及び衛生学の各学部が創設されたことにより、更に大きく発展しました。こうした研究は、現在のイスラエルで最も優れた医学研究機関であるハダサー医療センターの基盤となっています。工業研

究の分野では、1930年代に死海研究所(DSL)において先駆的な研究が行われ、ヘブライ大学(1925年創設)、テクニオン・イスラエル工科大学(ハイファに1924年に創設)、ダニエル・シーフ研究センター(レホボットに1934年設立され、1949年にヴァイツマン科学研究所となる)などで基礎的な科学技術研究が進みました。

イスラエルの科学技術の基盤は、1948年の建国時には既に確立されており、その後、まず国家的重要性を持つプロジェクトに研究の重点が置かれ、この土台の上に商業的な事業が徐々に展開されていきました。

人材

イスラエルは、科学技術で成果を挙げることのできる専門資格を持った人材に恵まれています。旧ソ連から多くの熟練の科学者、エンジニア、技術者が大量にイスラエルに移民したことにより労働力が強化され、イスラエルの有資格者の割合は大幅に増加しました。また、将来のイスラエルの科学技術の発展に大きく影響することが期待されています。



イスラエル

研究開発 (R&D)

イスラエルにおける研究開発は、主に7つの大学、多数の政府・公共の研究機関、及び何百もの民生・軍事企業において行われています。また重要な研究は医療センターでも行われており、その他、電気通信、発電、水資源管理の分野では多数の公益企業も研究を行っています。



イスラエル

政府と公共団体は研究開発の主な資金源であり、イスラエルの研究開発活動の半数以上に財政支援を行っています。民生目的の研究開発活動の資金は、工業や農業などの経済開発に主に配分されており、他国と比べて総額のかなりの部分を占めています。配分額の40%以上は、国家／二国間／政府の研究基金や、高等教育評議会の管理する一般大学基金からの各大学への割当資金を通して、知識の進歩のために使われています。残りは、様々な保健、社会福祉の分野の研究に配分されています。



イスラエル

発表するに値するイスラエルの研究の80%以上、並びに全ての基礎研究及び基礎研究の研修は、大学内で行われています。法的に独立した機関であるイスラエル科学

財団 (ISF) が、競争的基礎研究の主な資金源です。約1,000人の研究者が大学から提供される資金と同額の助成金をISFから受けています。またISFは特別なプログラムにも資金を提供しています。例えばイスラエルは、欧州原子核研究機構 (CERN) の大型ハドロン衝突型加速器のATLAS検出器の構築に参加したり、革新的な「医師－研究者」助成金を通して臨床研究の品質向上を目指した活動などに資金を提供しています。

1つの機関で扱うには規模の大きすぎる研究に資金を提供し、調整役を務めているのがTELEMです。TELEMは、産業貿易労働省や科学省の主要科学者、イスラエル・アカデミーの会長、高等教育評議会、国家財政委員会などの代表者で構成される任意参加のフォーラムです。TELEMはイスラエルが欧州連合枠組み計画に参加したり、EUシンクロトン放射光施設に加盟したり、あるいはイスラエル・インターネットIIの取り組みを行ったりする際の調整役を務め、必要に応じてその資金を提供しています。

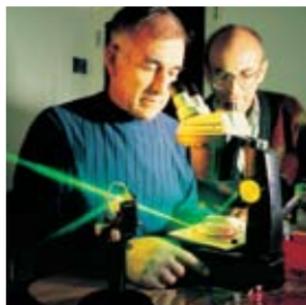
イスラエルの大学が取得した多数の特許は、イスラエルの産学連携の効果を測る1つの目安です。

大学における研究開発

世界中の大学と同様に、イスラエルの大学においても科学的知識の進歩を主な目的として研究が行われています。大学の研究成果はあらゆる科学分野にわたり、イスラエル人研究者の著作物や論文で発表されています。イスラエルは、多くの分野(化学やコンピュータ科学など)において不釣り合いと言える割合(1%)で多くの科学的出版物を発行しています。こうした出版物は世界の科学界に大きな影響を及ぼしています。

その労働力の規模と比して、イスラエルでは自然科学、エンジニアリング、農業、医療の分野で他国よりも遥かに多数の著作が出されており、イスラエル人科学者と他国の科学者の共著の割合が極めて高くなっています。

イスラエルの科学を国際科学界と統合するために、博士課程後の研究の継続や外国での特別研究、外国の科学会議への出席が奨励され、海外の同種組織との多数の交流プログラムや共同プロジェクトが研究機関、大学、政府のレベルで実施されています。またイスラエルは国



写真提供: ウォーレン科学研究所



際科学会議の重要な開催地として、毎年多数の会議を主催しています。

イスラエルの大学は、科学研究活動と同時に技術的進歩の点でも重要かつ革新的な役割を果たしています。ヴァイツマン科学研究所は、世界に先駆けて研究成果の商業利用組織を設立した機関の1つであり(1958年設立)、今日では同様の組織がイスラエルの全ての大学に置かれています。大学のキャンパスに隣接する科学工業団地の設立は商業的に大きな成功を収めており、大学においてもその研究成果に基づく商品の実用化に向けて、多くの場合、地域や海外の提携相手と共同で企業が設立されています。

大学の学際的な研究・試験機関は、国の産業にとって不可欠な様々な科学技術分野での取組みを進めており、建設、輸送、教育などを国家の応用研究開発の重点としています。また、ほとんどの大学教員は、技術、経営、財政、管理の面での企業アドバイザーを務めています。

医療の研究開発

イスラエルは、バイオテクノロジーの革新に理論と実務の両面で大きな貢献をしており、医療及びパラメディカルの基盤やバイオエンジニアリングの能力を進歩させて

います。バイオテクノロジー、生物医学、及び臨床研究関連の出版物は、イスラエルの全科学出版物の半数以上を占めています。同国の産業部門は、広範囲な知識基盤を駆使して医療分野での活動を拡大しています。



CTスキャン

・
写真提供：シャー
レ・ゼデク病院

イスラエルの科学者たちは、人間の成長ホルモンやインターフェロン（ウイルス感染に効果的なたんぱく質のグループ）の生成方法を開発しました。多発性硬化症の治療に有効な薬であるCopaxoneは、基礎研究から工業生産に至るまでイスラエルで開発されたものです。遺伝子工学は、微生物製品とともに単クローン抗体に基づく様々な診断キットの開発につながりました。診断や治療目的の高度な医療設備も開発され、世界中で販売されています。例えばコンピュータ・トモグラフィ（CT）スキャナーや、磁気共鳴映像（MRI）システム、超音波スキャナー、核医療カメラ、手術用レーザーメスなどです。その他にも、歯石の蓄積を防ぐための放出制御液体ポリマー、前立腺の良性/悪性腫瘍の低減装置、斜視治療のためのボツリヌス菌の使用、胃腸の疾病を診断するための飲み込めるカプセル内包ミニチュアカメラなど、様々な革新的開発が行われています。

工業部門の研究開発

工業部門では過去20年間に、民生研究開発費及び工業部門の研究開発に従事する科学者や技術者の数が大幅に増加しました。

イスラエルの工業部門の研究開発は、主に電子分野において少数の大企業が行っています。こうした研究開発集約型の企業は、長年にわたって工業部門の雇用や輸出の主たる担い手となってきました。

イスラエルはその産業戦略において、大小の研究開発集約型企業の成長を重点的に促進しています。政府は法律（研究開発奨励法）の枠組みにおいて研究開発を推進しており、産業貿易労働省のチーフサイエンティスト局（OCS）では2000年に約1,200のプロジェクトに資金を提供しました。研究開発関連の製品は、イスラエルの工業輸出品全体（ダイヤモンド以外）の半分以上を占めています。

エレクトロニクスは、1960年代後半までは主に消費者製品に限られていましたが、その後、軍事と民生の両面でより高度な技術への発展を遂げています。通信分野では、画像・音声・データのデジタル化、処理、伝送、増強の面で研究開発が行われ、高度な電話交換技術から音声メッセージシステム、電話回線のダブラー、様々なインターネット・アプリケーションまで様々な製品が提供されています。

光学、電気光学、及びレーザーの分野も、急速に成長しています。イスラエルは光ファイバー、プリント基板の電気光学監視システム、赤外線暗視装置、電気光学ベースのロボット化生産システムなどで世界をリードしています。

コンピュータベースの設備は、主にソフトウェアとその周辺分野において開発・生産されています。印刷・出版分野ではイスラエル製のコンピュータグラフィックスやコンピュータベースの画像システムが国内外で幅広く利用されています。また学校での活動は様々なコンピュータ支援教育システムによって強化されており、その多くが輸出向けに開発されたものです。イスラエルのソフトウェア製品の一部はメインフレームコンピュータで使用するためのものですが、その多くは小型または中型のシステム(ワークステーションなど)向けに作られています。更にイスラエルでは、3つのタッチパッドを備えたコンピュータマウス(視覚障害者が画面のテキストやグラフィックスを「読める」ように工夫されている)も開発されました。

ロボット工学が最初に研究されたのは1970年代後期ですが、今や様々な仕事(ダイヤモンドの研磨、溶接、包装、建築作業など)を行うロボットが生産されています。現在はロボットへの人工知能の応用に関する研究が進んでいます。

航空学は、国防上のニーズから技術開発が進んだ結果、民生事業も拡大しています。イスラエル初の国産民間航



**イラン・ラモーン空
軍大佐**（右奥）

イスラエル初の宇宙飛行士。スペースシャトル・コロンビア号の事故で他の6人のアメリカ人宇宙飛行士と共に死亡。

NASA写真
MSFC-0300309

空機であるアラバに続いて、ウエストウィンド（ビジネスジェット機）も開発されました。また国内で設計・製造された衛星も、イスラエル・エアロスペース・インダストリーズとイスラエル宇宙局との協力によって既に打ち上げられています。またイスラエルは、多数の関連製品（ディスプレイシステム、航空コンピュータ、計装システム、フライトシミュレータなど）を

開発、製造、輸出しており、無人飛行機の技術と生産では世界をリードしています。

農業部門における研究開発

農業部門は、農業者と研究者が協力して行う研究開発に支えられています。研究結果は農業普及組織を介して速やかに実地試用され、問題点は科学者に直接報告することにより解決が図られています。こうした研究開発は、主に農業省の農業研究機関（ARO）が実施しており、イスラエルの大半の農業研究所は国連の食糧農業機関と密接な関係を保つことによって、世界各国との継続的な情報交換を図っています。

イスラエルの乳牛は、平均で世界トップレベルの乳生産

量を誇っています。1970年の1頭当たりの平均生産量は6,300リットルでしたが、今日ではボルカニ研究所による科学的な繁殖や遺伝子検査によって、1万リットルを超えるまでになりました。血筋の良い牛の精子と卵子を採取することによってイスラエルは自国の乳牛の質を高めると共にこの分野での進歩を他国と共有しています。



ボルカニ農業技術
研究所の科学者
・
G.P.O./A. オハ
イオン

イスラエルの農業専門家は、点滴灌漑技術、農業バイオテクノロジー、土壌の太陽熱消毒法、農業への工業排水の持続的使用などに取り組んできました。こうした分野での進歩は、遺伝子組み換え種子や生物農薬から、軽量の分解性プラスチック、灌漑／施肥のコンピュータシステムに至るまで今後が期待されています。

イスラエルでは、乏しい水資源、荒れた土地、限られた労働力を最適利用することによって農業の方法に革新がもたらされてきました。たとえば様々な節水技術の探求は、世界中の農家にとって有用なコンピュータ制御の灌漑システム（水の流れを直接植物の根の部分に向ける点滴灌漑法など）の開発を促しました。また家畜の健康を増進し、作物収量を増やすための水の電磁処理に関する研究も、今後が期待されています。

イスラエルが設計し製造したコンピュータシステムは、日々の農作業の調整に広く利用されています。たとえば環境面を監視しながら肥料を注入するためのガイダンスシステムや、検証済みの最も費用効果の高い配合率で飼料を家畜に与えるためのシステム、養鶏用の温度・湿度の管理システムなどがあります。加えて、耕作、種まき、植え付け、収穫、回収、選別、包装のための様々な革新的装置も開発、製造、実用化されています。

一般的な科学的調査や研究開発も、植物組織培養の自動化、生物農薬、種子の病害抵抗性の強化、生物肥料などの分野で、農業に役立っています。

エネルギー部門の研究開発

イスラエルには従来のエネルギー源が不足していることから、太陽エネルギー、熱エネルギー、風力エネルギーなどの代替エネルギー源の広範な開発が進みました。その結果、イスラエルは太陽エネルギー分野全般でリーダーとなり、家庭での太陽光温水器の国民1人当たりの使用量が世界第一です。更に、新たな高効率の太陽光パネルが開発されており、太陽エネルギーの工業使用も実現が期待されています。

風力エネルギーの使用も、空気注入式の弾性ロータを備えた風力タービンの生産によって推進されています。

また太陽エネルギーを吸収し保存するために、ある程度の塩分とミネラル分を含む池の水を利用するという技術も開発されました。地熱を抽出し、蒸気に換えてタービンを回すという地熱発電所に関する試験も行われています。テクニオンの科学者チームは、乾燥した空気と水（海水や半塩水も可）を使って1,000メートルの高さの煙突からエネルギーを作り出す取り組みを行っています。



ヴァイツマン科学研究所の「ワールド・オブ・ミラース」

提供：ヴァイツマン科学研究所

経済

課題と達成事項	207
主な改革	210
「経済的奇跡」	214
国家の経済状況	216
経済概況	221
経済部門	228

f. Sztulman



経済

世界最速級のGDP成長率を多年にわたって達成してきたイスラエルは、経済活動全般の明らかな停滞を2年間経験した後、2003年に再び経済回復を始めました。あらゆる経済指標がこの回復傾向は2007年まで続いたことを示しています。2006~2007年にもイスラエルの国内総生産(GDP)は急速な成長を続け、2006年に第二次レバノン戦争によってGNPの0.7%の損失が生じたのにも関わらず、5.1%に達しました。急速な経済回復とその後の急成長の継続は再び産業界によって先導され、その規模は2006年には6.4%拡大し、国民1人当たりのGDPは20,138ドルとなりました。

עובד אדמתו ישבע לחם... (משלי י"ב: א')

おのれの田地を耕すものは食にあく・・・ (箴言 12:11)

2006-2007年にも、イスラエルはその主なマクロ経済目標(極めて低い[場合によってはマイナスの]インフレ率、財政赤字の縮小化、公共支出増加の抑制)を引き続き達成しました。それと同時に外国からの投資を継続的に誘致し、輸出の急速な拡大を達成して、初めて貿易収支を黒字化しました。こうした傾向は2007年前半も続き、年間を通してインフレのない経済成長、財政赤字の抑制、経済的安定をあらゆる面で達成できると予測されています。人口が700万人を超えるイスラエルは長年にわたり、農業や農業技術、灌漑、太陽エネルギー、及びその他多数のハイテク産業や新事業で国際的に高い評価を得てきました。伝統的な産業においても研究開発を集中的に行うことにより、今日のイスラエルは「乳と蜜の地」にとどまらず、ソフトウェア、通信、バイオテクノロジー、医薬、ナノテクノロジーなどの「ハイテクの地」を実現しました。

過去3年間で米国、欧州連合、南米の複数の諸国と自由貿易協定を締結したことから、イスラエルは商品やサービスの輸出を拡大し(2006年には600億ドルに到達)、また国際事業への参加も促進されて、国家の加速的成長が進みました。

課題と達成事項

最近の達成事項

- ・ 2000年は、イスラエルの経済史上初めてインフレ率がゼロに抑えられ、また貿易赤字が大幅に縮小されました。その後、貿易赤字は2005年までに7億ドルに減少し、遂に2006年には9億ドルの黒字に転じました。
- ・ イスラエルは、10年間で約120万人の移民を受け入れ、その結果、国の文民労働力は1990年の165万人から2006年には280万人に増加しました。
- ・ インフレ率は、1984年には年率44%でしたが、1989年には21%に、更に2000年には0%にまで減少しました。その後、2005年にはわずかに2.4%まで上昇しましたが、2006年には再び0.1%に低下しています。
- ・ 対外債務は1985年にはGDPの1.6倍でしたが、1995年のGDPの25%から2001年には3%未満に、そして2003年には0%にまで低下しました。その後イスラエルは債権国となっています（つまり、イスラエルの対外債権は対外債務を上回っています）。
- ・ 外国投資が着実に増加し、GDPと輸出の加速的成長を促しました（1987年の1億7,500万ドルから1997年には58億ドル、2005年には107億ドル、更に2006年には252億ドルに増加）。
- ・ 過去20年間で工業輸出は約6倍に増え、1985年の60億ドルから2005年には356億ドル、2006年には381億ドルとなりました。

歴史的課題

イスラエルは、以下の多額の費用がかかる課題と取り組みつつも、急速な経済成長を達成しています。

- ・ 国家安全保障の維持：現在、イスラエルはGDPの約8%を国防に費やしています（1970年代は25%以上、1980年は23%）。比較的平穏な時期においても、イスラエルは攻撃に対する強力な抑止力を維持する必要があるのです。
- ・ 大量の移民の受け入れ：「離散者の集合」こそが、ユダヤ人国家の存在理由です。建国以来、イスラエルは300万人を超える移民（1948年の建国時の人口の5倍を超える移民）を受け入れています。建国から最初の4年間だけでも、戦後の欧州やアラブ諸国からの難民を含めて70万人の移民を受け入れたために、イスラエルの人口は倍以上に増加しました。
1990年以降も、120万人の移民（旧ソ連から94万人）の波が押し寄せたため、その物理的、社会的統合に莫大な費用がかかりました。しかし、こうした移民は、それまでの移民の波と比べて遥かに早くイスラエルのGDP成長の加速に貢献しました。一方、失業率は1992年に一時的に11.2%の高さまで上昇しましたが、2006年末には7.6%まで低下しています。
- ・ 近代的な経済基盤の確立：道路、輸送設備、港湾施設、水道、電気、通信の基本的なネットワークは1948

年の建国時に既に存在していましたが、その水準は低く、その整備と拡張に多大な経費を要しました。通信や輸送への多大な投資が行われなければ、今日のような急速な経済発展は達成できなかったでしょう。

- 高度な公共サービス（健康、教育、福祉など）の提供：
イスラエルは国民（特に社会の弱者層）の福祉を確保するために、国の資源のより多くの部分を費やしています。最近の緊急経済対策ではこのような出費の縮小が求められましたが、2006年及び2007年の政府予算ではその是正傾向が見られます。

主な改革

外国為替の自由化

新シケル(NIS)は今や、国際金融市場で自由に取引できる「ハードカレンシー」(健全な交換可能通貨)です。イスラエルは、第二次世界大戦後に多くの国がそうであったように、自国の存続と経済成長のために通貨管理を行う必要があり、それを長年にわたって続けていましたが、比較的最近になってこうした管理制度を撤廃しました。

建国後の最初の数年間は、輸出額に比べて輸入額が遥かに大きかったために外貨の深刻な不足が生じ、そのために外貨の「配給」制度が必要となりました。つまり外貨をごく基本的な必需品(食料、燃料、国防設備)にだけ割り当てました。生産用の機械や原料への割当は後年になってからで、更にその後、海外旅行用に1人当たりわずか10ドルの枠が割り当てられました。

1950年代の終わりには多数の贅沢品の輸入が許可され、イスラエル人には1回の海外旅行につき100ドルの枠が割り当てられました。1960年代には更に輸出規制が緩和され、1970年代には完全に自由化されました。その後は、輸入規制に代わって輸入品に高額な関税が課されましたが、こうした関税も、欧州連合や米国と自由貿易協定を締結したことによって大幅に引き下げられま

した。そして1980年代には海外に渡航する個人への外貨割当額が徐々に引き上げられ、500ドルから3,000ドルへと増額されました。更に外国の銀行口座の保有や投資が初めて認められ、1990年代後半になって外貨管理制度は全廃されました。

為替レート

シェケルの為替レートは、現在では全ての外貨規制が撤廃されたため、国際金融市場によって決まります。ただし過去には必ずしもそうではありませんでした。第二次世界大戦後のあらゆる諸国と同様に、イスラエルの通貨の為替レートも以前は固定されており、政府の決定によって随時変更(切り下げ)されていました。

1948年当時、イスラエル・リラは1英ポンド(4米ドル)に相当しましたが、1949年にはポンドの切り下げとともに2.80米ドルに切り下げられました。それ以来イスラエルの通貨は何回も切り下げられましたが(1954年には1ドル=1.80リラ、1962年には3リラ、1971年には4.20リラ、1974年には6リラ)、これはイスラエルの経済政策の一環として輸出入額の格差を縮小するためのものでした。そして実際に切り下げによって、インフレ率の上昇が貿易に及ぼす影響は緩和されました。

1975年にイスラエルはOECDの路線変更に従い、「潜行性

の切り下げ」(1ヶ月につき2%を上限とする切り下げ)を実施しました。これは最初の自由化のステップが完了するまで2年間続きました。それ以降、為替レートは市場の動きに合わせてイスラエル銀行が毎日決定しています。1980年に10リラが1シェケルに変換され、1985年には1,000シェケルが1新シェケル(NIS)となりました。2007年7月現在のNISの為替レートは平均で0.24ドルとなっています。

国家予算の縮小

建国から最初の10~20年間は、主に政府主導で経済成長を促さねばならないという特殊な状況にあったため、イスラエルはGDPの規模と比べて国家予算の大きい諸国の1つとなり、国家予算がGDPを超えるという事態すら生じました。その後国家予算は、1980年にはGDPの95%に、1990年には64%に、2005年には49%に、そして2006年には約40%にまで減少しています。また、建国当初の数年間、財政赤字(税金や地方債で賄えない部分)は「開発」(=投資)目的でしか認められていませんでしたが、後には国防費の負担が増大し、一般財政赤字が常化しました。

1990年代にはこうした財政赤字の縮小が重点とされ、財政赤字の対GDP比を西欧の先進諸国と同率にまで下げることが目指されました。その結果イスラエルは、1990年代初頭と比べて財政赤字を4分の1程度の規模まで削減することに成功しています。対GDP比は2001年にかなり上昇

したものの、その後2003年には6%、2004年には5%、2005年に3.2%、2006年に1.8%にまで低下しています。

更に2003年に政府が開始した経済改革プログラムに基づき、国家予算(及び税金)の縮小と経済の合理化が継続的に実施されています。

民営化

今も政府は経済刺激策をその責任として実施していますが、政府による経済への直接的な介入は1990年代以降、減少しています。必需品の価格を支持するための助成金をほぼ全廃し、外国からの投資や輸出の奨励策の対象を狭めたうえに、政府は多数の公共企業の所有権を売却し民営化するための活動を始めました。

このような政策の実施から10年の間に多数の小規模事業が民営化され、更にここ数年間は、より大規模な企業(銀行、エル・アル・イスラエル航空、ジム[海運会社]、ベゼク[通信会社])の売却によって、30億ドルの利益がもたらされています。そして次の売却対象として石油会社が挙がっています。更に政府は、その業務の一部を民間部門に移行させることも検討しています。

「経済的奇跡」



建国から最初の25年間でイスラエル経済は、平均で年率約10%という高いGDP成長率を達成すると同時に大量の移民を受け入れ、4つの戦争を経て国家安全保障を確保しつつ、近代的なインフラと経済をほぼゼロの状態から築きました。これは「経済的奇跡」と考えられました。多年にわたる資本の導入、特に生産手段への多

額の投資を効果的に行いつつ、急速かつ生産的に移民を受け入れていったからこそこの奇跡でした。

次の6年間(1973~1979年)は経済成長率が低下し(大半の工業国でも、1973~74年、1979~80年のオイルショックで経済成長率は低下)、年平均3.8%となりました。1980年代には更に3.1%まで落ち込みましたが1990年代にはいるとGDPは5%以上の平均年間成長率を示し、2005年には5.2%、2006年にも同様の成長率を記録しています。

1人当たりのGDPも20世紀最後の10年間は60%を越える成長率を示し、2005年には18,700ドル、2006年には20,138ドルとなりました。

2006年のイスラエルの経済成長率は、他の先進国と比べても高いものでした。OECD加盟30カ国のGDPの平均成長率は2006年には3.2%で、イスラエルと比べると1.9%低いものでした。

国家の経済状況

国際収支

最近まで長く続いてきた貿易赤字の問題は、イスラエルが急速な経済成長を奇跡的に達成しつつ様々な国家の課題も克服してきた代償とも言えるものでした。年間の輸入超過の問題は、外国の資源にイスラエルが依存していることを示していました。そのためイスラエルも他国の政府と同様に、「経済的独立」(輸出額が輸入額を上回り、貿易赤字が解消されること)の達成をその第一政策課題として取組みを進め、ついに最近になってこれを達成しました。

イスラエル建国から最初の48年間、貿易赤字は継続的に拡大し、(現行価格で)45倍に膨れ上がりました。1949年には2億2,200万ドルだったのに対し、1996年には101億ドルに達したのです。しかし、相対的に見ると貿易赤字はこの間も着実に減少し、この問題は徐々に解決に向かっていたと言えます。というのも、1950年には輸出額は輸入額の14%に過ぎなかったのに対し、この比率は1960年には51%に、更に1996年には79%にまで増加しているからです。それ以降、実際の赤字額も低下を始め、2001年には47億ドルに、更に2005年にはわずか7億ドルへと減少し、商品とサービスの輸出額が輸入額を上回り、貿易収支は黒字に転じました。

国際収支：* 1949~2009年

(単位：現行価格で100万米ドル)

年	輸入額	輸出額	赤字
1949	263	41	220
1955	443	139	304
1960	694	352	342
1965	1,269	749	520
1970	2,657	1,374	1,283
1975	8,038	4,022	4,016
1980	13,382	10,099	3,733
1985	15,138	11,223	3,915
1990	24,217	18,868	5,349
1996	37,576	29,386	8,190
2000	46,514	45,179	1,335
2005	57,384	56,623	761
2006	61,600	62,600	1,000
2009	63,132	67,774	993

* 商品とサービスの輸出入額を含む経常収支

過去59年間で、イスラエルはその年間貿易赤字を補うのに1,760億米ドル(現行価格)を要しました。このような累積赤字の約3分の2は、移民による資金の持ち込み、外国の年金、外国のユダヤ資金調達組織による保健、教育、社会サービス機関への寄付、外国政府(特に米国)からの助成金などの資金のイスラエルへの移転によって補われまし

純対外債務：1954~2009年 (単位：現行価格で100万米ドル)

年	合計 対外債務
1954	356
1960	543
1970	2,223
1975	6,286
1980	11,344
1985	18,051
1990	15,122
1995	20,788
2000	7,353
2002	0
2005	-23,173
2009	-54,949

た。残りの3分の1は、個人、銀行、外国政府からの融資で賄われており、イスラエルはその返済をずっと続けています。

そのためにイスラエルの対外債務は1985年までは毎年増え続けましたが、この年に初めて返済額が借入額を上回りました。ただし、このような改善傾向は続かず、数年後の1995年に対外債務は過去最高額の208億ドルに達しました。しかし、過去10年間で債務額は大幅に減少してゼロとなりました。2002年以降イスラエルは債権国となり、2006年には対外債権額が対外債務額を310億ドル上回る状態になりました。

対外貿易

イスラエルの経済規模は小さく国内市場には限りがあるため、同国の成長は主に輸出の拡大にかかっています。そのためイスラエルの知的資源の多くは、工業輸出品

の生産に割り当てられています。こうした輸出品の価値は過去56年間で約3,000倍(現行価格で)に成長し、1950年の1,300万ドルから1955年には5,200万ドル、1975年には14億ドル、1985年には56億ドル、2000年には308億ド

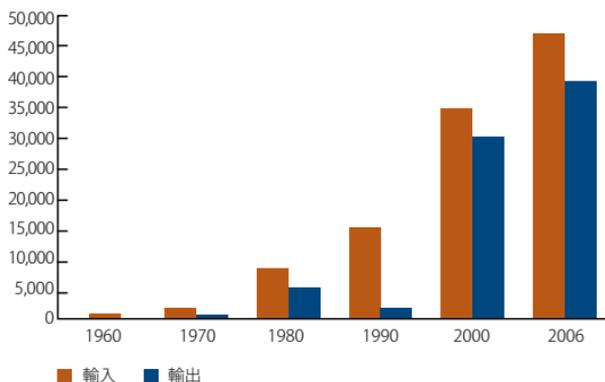
ル、そして2006年には2005年から7.5%増して394億ドルとなっています。

最近では、輸入される全商品（2006年には472億米ドル）の85%以上が生産原料と燃料です。こうした輸入品の54%は欧州から、17%はアメリカ大陸から、16%はアジアから、残りの13%はその他の諸国からのものです。同じく2006年には、イスラエルの輸出品の33%（366億ドル）が欧州へ、40%が米国へ、19%がアジアへ、残りの8%が他の諸国へ送られていました。1990年代の大半、イスラエルの米国への工業品の輸出額は米国からの輸入額を上回り、2000年以降はダイヤモンドの輸出を除いてもその状況が続いています。

関税及び貿易に関する一般協定（GATT）への加入や、欧州連合との自由貿易協定の締結（1975年）、米国との同協定の締結（1985年）によって、イスラエルの輸出品の競争力は高まりました。今やイスラエルの商品はEUにも米国にも非関税で輸出されています。これにより、イスラエルの地元の生産者は国内市場の110倍の規模を持つ市場を対象に事業を行うことができ、関税を支払うことなく自社の製品を欧州に輸出したい投資家から注目されています。イスラエルの投資家はまた、米国やEUに非関税で製品を輸出することのできる特別な産業区域において、ヨルダンやエジプトの企業と合併事業を設立しています。

成功の機会を最大化するために、イスラエルの地元企業は自社に特に有利な国際貿易セグメントの特定に努めています。また外国企業と合併事業を設立し、地域の革新と外国での大規模生産や市場進出を組み合わせることもよくあります。電子、ソフトウェア、医療設備、印刷、コンピュータグラフィックスなどの分野で共同プロジェクトが進んでおり、その多くでは以下6つの二国間研究開発協力財団（政府支援による財団）などによって合併事業の費用が調達されています。これらは、BIRD（米国）、CIIRDF（カナダ）、SIIRD（シンガポール）、BRITECH（英国）、KORIRDF（韓国）及びVISTECH（ビクトリア／オーストラリア）の各財団です。

商品の輸出入（ダイヤモンドを除く）



経済概況

インフレ問題

建国から2000年までの間、イスラエル経済は価格の高騰に苦しみました。各市民は次のような連携の仕組みによって、何とかインフレを生き延びることができました。連携の仕組みとは、あらゆる金融商品、給与、賃貸料、預金口座、生命保険契約、所得税などを、より安定した数値（外貨や消費者物価指数）と連携させることによって、インフレの影響を緩和するというものでした。このようにイスラエルではインフレ率が一桁（1950年代中期から1960年代末まで）であろうと二桁（1970年代）であろうと三桁（1980年代前半）であろうとも、イスラエル国民はその生活水準を何とか向上させてきたのです。ですが、明らかに経済はインフレ（投資性向の低下など）に苦しみ、そしてインフレの多くはこうした連携の仕組みによって更に増幅されていき、1980年代半ばに頂点に達しました。

インフレ率は1983年の191%から1984年には445%となり、更に1985年には四桁に達しそうになりました。そのため1985年の夏に労働党のシモン・ペレス率いる挙国一致内閣は、リクード党のイツハック・モダイを財務大臣に迎え、ヒスタドルルート（イスラエル労働総同盟）や雇業者調整委員会と協力して、大胆な緊急経済安定対策を実施しました。その結果、インフレ率は1985年には185%に

低下し、1989年には21%となりました。その後更に減少して1997年に7%となった後、2000年に初めて0%を記録しました。また2003年には物価が初めて下落し、インフレ率はマイナス1.9%まで低下しました。2005年のインフレ率は2.4%でしたが、2006年に再びマイナス0.1%となりました。

シェケルは、イスラエルの通貨単位（2007年7月現在、1シェケルは0.24ドル）であり、紀元前2000年頃から既に、金銀支払い時の重さの単位として使われていました。聖書には、アブラハムがマクペラ（ヘブロン）の畑と「その中にあるほら穴」を購入するために、次のように言って交渉したとの記述があります。「私はその畑の代価を払います。お受け取りください。わたしの死人をそこに葬りましょう」これに対して畑の所有者であるエフロンは、こう答えました。「あの地は銀400シェケルです」そこでアブラハムは商人の通用銀400シェケルを量ってエフロンに与えたとされています。（創世記23:13, 15-17）

公共部門

多額の公共投資によって大きな財政赤字が生じたためイスラエルのインフレ率は常に高いものでした。政府はあらゆる財源（国内外の財源、公債、直接税、間接税）から資金を調達しましたが、それでも支出を賄うことができず、そのためにインフレ政策を取らざるを得なかったのです。このような大掛かりな公共投資は主に多額の国防費によるものであり、また国内外の債務を返済する必要があつてのものでした。国防費と債務の返済だけで数年前までは国家予算の3分の2を占めていたのですが、ようやくそれが予算の半分未満にまで減少したという状況です。

経済活力の追求には、インフレの抑制、国際収支の赤字の削減、急速な経済成長

の維持が必要であり、そのためには最近の高額な公共支出を縮小する必要がありました。公共支出の対GDP比は25年前には95%の高さでしたが、1980年と2006年(同年の国家予算は約600億ドル)の間に49%まで低下しました。2006年に国際収支は黒字化し、財政赤字もGDPの0.9%にまで減少しました。

政府は現在も民間による経済刺激の取り組みを奨励し続けていますが、既に事業の民営化によって政府の経済関与を減らすという政策で成功を収めており、2005年には民営化で約30億ドルの利益がもたらされています。

税制

イスラエルの多額の公共支出の財源を確保するためには重税が必要となり、国民は長年にわたって世界でも最高レベルの税金に耐えねばなりません。建国から最初の10年間は、税金はGNPの8分の1の金額に相当しました。1960年代には4分の1に増加し、更に1970年代と1980年代は30~40%で推移しました。1990年代に入ると40%未満に減少しましたが、2000年は40.3%でした。2003年までにイスラエルの総税額はGDPの39.3%にまで減り、更に2006年には38%となって、2004年時点のOECD諸国の平均(37.4%)に近づきました。

間接税は、主に15.5%の付加価値税(VAT)です。加えて、

車、燃料、たばこには購入税が課せられています。欧州連合と米国からの輸入品には関税は課せられませんが、他の諸国からの輸入品には課せられます。

所得や資産に課せられる直接税は、1950年代後半までは全税収の4分の1未満でしたが、1970年代初期までに約3分の1にまで増え、更に1980年代には約半分に達しました。1986年は45%でした。それ以降1995年には39%まで下降し、2006年には39%~42%の間で推移しています。

近年はイスラエルのグローバル経済への統合化を更に進めるために、税制に変更が加えられました。その政策の一環として、輸入品の関税や購入税は減税が進み、法人税率は2007年末までに徐々に30%にまで引き下げられ、2010年には25%になりました。所得税の最高税率も徐々に引き下げられて2010年には44%となっています。

個人の消費と貯蓄

個人消費は、1950年以降ほぼ継続的に上昇しています。1960年以降は、国民1人当たりの消費率は1994年の9.6%から2000年には6.6%に、2006年には4.9%にまで落ち込んだものの、平均すると年間成長率6%で推移しています。

しかし、個人貯蓄はずっと高水準を維持しています。1950

年代後半まで、個人貯蓄の対可処分所得比率は29%を下回ることは一度もありませんでした。1960年代初期には21%まで低下したものの、再び1972年に38%まで増加し、1981年にも同じく38%を記録しました。それ以降は減少傾向が続き、2006年は28.8%でした。



イスラエル

投資

高い貯蓄率でさえ、急速に拡大する経済による巨額の投資を支えるには決して十分ではありませんでした（通常は全資源の20~30%を経済に回すことが可能）。その結果、多額の割合を海外からの公共と民間の資金の移転や公共部門（主に政府）による直接投資で賄わねばなりません。過去10年を振り返ると、投資総額は1995年の170億ドルから2000年までに228億ドルに増加し、その後3年連続で低下した後に再び上昇、2005年までに221億ドルに達しました（そのうちの49%に相当する108億ドルは非イスラエル人居住者による外国からの投資。）

2006年になると、イスラエル経済への関心や信頼の高まりによって、これまでイスラエルに投資したことのない者人による海外からの投資が飛躍的に増加しました。その結果、同年の非イスラエル居住者からの投資額は24兆3,860億ドルに達し、2007年には更に増加しました。

国内外からの個人投資も、政府の奨励策が功を奏して促進されました。このことは、資本投資奨励法の度重なる改正に反映されています。この法律によって政府は、（低金利の）助成金付き長期融資、投資総額比での直接の助成金、研究開発の資金援助などによって投資家を確保しました。

ヒスタドルート（イスラエル労働総同盟）は、労働者を代表し、産業を興して組合員に雇用機会を提供するために、労働組合の連合として1920年に設立されました。やがてイスラエル最大の雇用者の1つとなり、イスラエルの発展に重要な役割を果たすようになりました。

現在は新ヒスタドルート（組合員数70万人）が、78の労働組合（地域の労働力を組織して労働協約を結び、その実施を統括）を取りまとめています。イスラエル経済の大半

税控除や税還付も投資を拡大する目的で行われ、経済政策（人口の分散、輸出の促進などの政策）の実施に対する各投資の貢献度に従って実施されました。おそらくこうした措置によって、1980年代は資本ストック（生産能力）がGDPを超える速度で蓄積されたものと思われます。一部の経済部門では、この間の生産能力の余剰が1990年代の急速な発展につながりました。

給与と労働条件

イスラエルでは給与は大抵の場合、次の三者の交渉で決められています。すなわち、政府（今もイスラエル最大の雇用者であり、その給与水準はあらゆる経済部門に大きな影響を及ぼす）、ヒスタドルート（イスラエル労働総同盟）、及び民間部門の雇

用者組織です。三者間の合意内容に基づいて各経済部門の給与水準の枠組みが決められ、随時変更され、またインフレに対する補償費が生活費手当として自動的に支払われています。このため、特に下端に行くほど給与に関する柔軟性は低くなっています。イスラエルでは失業の波が来ても給与額が大幅に減ったことはなく、一方で労働力が不足すると給与水準は労働者需要の高まりとともに柔軟に上昇しています。2006年6月の平均月給額は7,759新シケル(約1,843ドル)でした。

イスラエルの様々な経済部門の労働者の労働条件は、雇用者と被雇用者間で交渉し合意された条件とされています。ただし最低労働条件は法律によって定められており、1週間の労働時間は最長で47時間までとされ(実際の2006年の平均労働時間は1週間につき40時間未満でした)、また最低月給(3,585新シケル:約780ドル)を2008年までに3,785新シケルに増額することが2006年に決まりました。その他、時間外労働、解雇手当、有給休暇、病欠に関する条件も法律で定められています。

の被雇用者部門(食品、繊維、ホテル・観光産業、官公庁職員、事務員、実践的技術者、看護師、年金生活者など)は、新ヒスタドルトによって代表されています。エンジニア、医師、学者、教師、ジャーナリストなど、個別の労働組合を持つ職業もあります。

ヒスタドルトは、以前の強さを失いました。というのも下請け業者との契約や個人契約で雇われる労働者が増えているためです。

経済部門

産業

今日のイスラエルは工業国であり、その製造部門の大半は多数の伝統的な分野も含めて、集約的かつ高度な研究開発、及びハイテクのプロセス、ツール、機械を基盤としています。これは、イスラエルが急速に集中して発展を遂げてきた成果です。

現在の動的で多様性のある産業部門は、19世紀末以降に農業用具を製造し、農産物を加工するために設立された多数の作業所から発展しました。これらの作業所は、2つの事象が原動力となって近代的な工場へと変革を遂げました。まず1つ目は、1930年代にドイツから企業家や熟練技術者が移民してきたことであり、2つ目は第二次世界大戦（1939~1945年）中に、戦争によって欧州から輸入できなくなった駐留連合軍が様々な消費財、特に衣料品や缶詰を必要としたために工業製品への需要が拡大したことです。

1970年代までは、伝統産業（食品加工、繊維と衣服、家具、肥料、農業、医薬、化学品、ゴム、プラスチック、金属製品）がイスラエルの工業生産の大半を占めていました。この間は、農業の開発、食料の生産と加工、インフラの整備、多数の非熟練移民の雇用創出に、大半の資源が使われました。

工業化の次の段階は、国防に必要な武器の開発と製造を重点に進められました。特に、武器の禁輸措置によって新生イスラエルは危険に晒されたために、武器の開発と製造が加速されたのです。航空、武器産業への巨額の投資は、イスラエル独自のハイテク産業（医療機器、電子、コンピュータソフトウェア及びハードウェア、電気通信など）の基盤となる新技術の創出につながりました。1980年代に入ると、シリコンバレーで働いていたイスラエル人がイスラエルに帰還し、インテル、マイクロソフト、IBMなどの多国籍企業の開発センターが開設されました。更に1990年代には旧ソ連から高度な技術を持つ科学者、エンジニア、技術者、医療従事者が移民してきたため、イスラエルの産業は現在のような高度な水準へと向上し、様々な輸出品が作られるようになりました。

イスラエルには天然資源や原材料が乏しいため、その高度な労働力、科学機関、研究開発センターを強みとしており、今日のイスラエルの産業はイスラエル独自の科学的創造性や技術革新によって製品を開発し、主に高付加価値製品の製造に特化しています。

1990年代初期には大半の諸国で産業労働者数が安定または減少していたのに対して、イスラエルではその数は継続的に増加しています。2006年のイスラエルの工業成長率は先進諸国の中で韓国に次いで2位でした。

過去20年間でイスラエルの工業生産は、ダイヤモンドの切削と研磨だけでなく医療電子、農業技術、電気通信、精密化学品、コンピュータのハードウェア及びソフトウェアの各分野においても国際レベルで発展を遂げています。2005年には製造業の被雇用者数が41万3,000人に達しました。(製造業の被雇用者のうち高等教育を受けた人の割合は、米国、オランダに次いで多くなっています)。2004年には約1万3,000の工場で金額にして580億ドル以上を生産し、しかもその半分以上が輸出されました。

経済部門別の主な経済指標(2006年)(%)

経済部門	GNP	労働力	輸出	投資
産業	21.6	18	74	35
農業	2.5	1.7	3	3
建設	7.1	5	1	3
輸送&通信	10.2	6.8	8	32
商業、金融、個人 向けサービス	31.1	35	24	13
公共サービス	25	34	-	14

資料：中央統計局

ハイテク産業

経済部門の中で最速の成長率を示しているのがハイテク部門です(近年は平均で年率8%)。ハイテク部門は技術・資本集約型であり、高度な生産技術、研究開発に多額の投資が必要です。イスラエルのGDPの4.4%がこの部門への投資に使われており、これは世界の中でも極めて高い比率です。この分野でのイスラエルの研究開発の質は、国連の専門家によると世界10位内に入ります。これは、基礎研究開発やベンチャーの資本の大半を提供している学術研究機関の貢献によるものです。

ハイテク産業がいかに大きく成長したかは、1965年にはハイテク製品は工業製品の37%しか占めていなかったのに対し、1985年には58%を、更に2006年には約70%を占めるまでになったことでわかります。

ハイテク製品の約80%は輸出されていますが、伝統的なローテク企業はその製品の約40%しか輸出していません。ハイテク製品の輸出額は1991年の30億ドルから2000年には123億ドルに、更に2006年には290億ドル(ハイテクサービスの輸出額59億ドル)へと4倍に増加しました。2001~2002年の経済の停滞後も、ハイテク産業は他の産業に先駆けて不況を抜け出し、早くも2003年にはプラスの成長率を達成しています。2006年にはICT(ハイテク産業の主要部分である情報通信技術)の製品売上は240億

ドルに達しました。この分野だけで事業部門のGDPの17%を占め、18万5,000人を雇用、民生用の研究開発費は33億ドル、輸出額は160億ドル近くとなっています。

研究開発向けの公共支出(2006年は70億ドル)の90%以上は、多くの場合、合併事業基金を介してハイテク産業に割り当てられています。

近年、政府はこうした基金の政府持分に対して正当な配当を受けており、その額は新規企業に認められた融資の返済額を超えています。前述の6つの二国間基金に加えて、イスラエルは米国、カナダ、イタリア、ベルギー、オーストリア、フランス、スウェーデン、ドイツ、オランダ、アイルランド、ポルトガル、スペイン、香港、インド、トルコ、及び中国と、研究開発プロジェクトの共同出資協定を結んでいます。

現在の情報技術時代(インターネット、電子商取引など)において、イスラエルの経済、特にそのハイテク産業は、この分野で世界の開発の最先端に位置づけられています。国際的に認められたイスラエルの多数の企業が、数10億ドルの価格で世界最大級の複合企業に買収されています。また、イスラエルには極めて革新的な才能を持つ人材が多く熟練の労働力も豊富なために、新興企業数も極めて多くなっています。ウォール街や欧州株式市場においてイスラエル企業がその存在感を高めている

ることも、イスラエルのハイテク企業の評価の高さを物語っています。

イスラエルのダイヤモンド産業

イスラエルは世界有数のダイヤモンドの製造・取引センターです。その主な理由は、イスラエルのダイヤモンド産業はそのダイヤモンド製品と同様に多面性を持っていることにあります。イスラエルのダイヤモンドは信頼と安心の代名詞であり、間違いなく本物であることが保証されています。

加えて、イスラエルのダイヤモンド産業は最先端の技術や職人技でも世界をリードしており、原石からダイヤモンドを研磨し、最高の製品を提供しています。地元で大量に生産されているうえに非関税で原石や研磨製品が輸入されているため、価格競争力が保たれています。イスラエルのダイヤモンド取引所は世界最大のダイヤモンドの取引所であり、あらゆるダイヤモンド購入者の事業ニーズを全て満たしています。

2006年のダイヤモンドの輸出額は130億ドルで、米国が主な購入者(63%)、次いで香港(14%)、スイス(11%)でした。イスラエルは装飾品に用いられる小さな研磨ダイヤモンドの世界最大の生産国であり、またあらゆる大きさや形のダイヤモンドの40%を研磨しています。そのた

めイスラエルは、生産と販売の両面で世界有数のダイヤモンド研磨センターとされているのです。

農業

イスラエルの農業部門は、天然資源不足(特に水と耕地)を克服する必要性から、集約的な生産システムを特徴としています。農業生産の継続的な成長は、研究者、農家、農業関連企業の緊密な協力によって確保され、あらゆる農業部門で新たな手法の開発や適用が共同で進められています。その結果、国土の半分以上を砂漠が占める国でありながら、近代的な農業が実現されているのです。

イスラエルの農業者と科学者は、厳しい自然環境と限られた水資源に対処しなければならなかったことから、開発途上国にとって有用な経験を有しています。農業者や科学者は創意工夫を重ねて農業の発展に専心し、土地の本当の価値はそれをどのように活用するかで決まることを世界に示しました。研究開発部門と産業の緊密な協力によって、市場志向の農業ビジネスが発展し、農業技術ソリューション(特に水問題の解決策)が世界中に輸出されるまでになりました。

イスラエルの農業は、自然の悪条件との長く苦しい戦い、耕地と乏しい水資源の最大限の利用(優れたノウハウとして輸出されるようになった脱塩化工場からの水の利用な

ど)によって成功を収めました。ユダヤ人が19世紀後半にその父祖の地への再定住を始めた頃に、主にイデオロギーの理由から、不毛の地を肥沃な土地に変えようとする最初の試みがなされました。イスラエルの今日の農業の成功の鍵は、農業者と政府支援の研究者との密接な交流にあります。彼らはあらゆる農業分野で高度な手法や技術、新たな灌漑技術、革新的農業機械設備の開発や適用を協力して行ってきたのです。

1948年のイスラエル独立以降、耕地面積は2.6倍に増えて約110万エーカーとなりました。灌漑地の面積も1980年代中期までに8倍に増えて60万エーカーに達しました。しかし、水不足の深刻化と都市化の進展によって、今は50万エーカー未満に減少しています。過去50年間に農村地区の数は400から750に増加しましたが、その居住人口はかつて全人口の12%だったのに対し、今や5%未満にまで低下しています。

現在、イスラエルはほとんどの食料を自給し、主に穀類、オイルシード、肉、コーヒー、ココア、砂糖などを輸入で補っています。食料品では輸入額よりも輸出額の方が遥かに多くなっています。農業生産品の多くは酪農・養鶏製品です。加えて様々な花類、果物、野菜も、特に欧州市場での販売に有利な温暖な地域で生産されています。冬の数ヶ月、イスラエルは「欧州の温室」として、メロン、

トマト、きゅうり、パプリカ、イチゴ、キウイ、マンゴ、アボカド、様々なかんきつ類、茎の長いバラ、スプレイカーネーションを輸出しています。

GNPに占める農産品の割合は1950年から2006年の間に11%から1.5%にまで低下し、農産物が輸出総額に占める割合も60%から2%未満にまで減少しました。ただし輸出額の絶対値は、革新的な農法の広範な導入、近代的な灌漑・水処理技術、輸出志向の農業の推進によって、1950年の2,000万ドルから2006年には10億ドルにまで増加しています。

建設業

建国当初の数年間、住居の建築が建設事業の84%を占めていました。その後、インフラの建設が進み、この比率は1991年まで70~75%で推移し、移民の新たな波による需要を満たすために再び86%にまで上昇しました。その結果、建設部門の生産量も1991年に急激に伸び、同年に集合住宅の着工数は過去最高の83,500件に達しました。それ以降、年間着工数は低下を続け、2004年には29,000件となりました。一方、集合住宅竣工数は1992年に70,100件を記録した後、2005年には31,700件に減少しています。かつては経済の牽引部門であり経済活動のバロメーターと見なされていた建設部門は1950年にはGDPの30%を占めていましたが、2006年にはその比率はわずか5%に過ぎませんでした。

当初、建設事業の大半は政府の取り組みと投資によるものでしたが、1958年から1989年の間にその比率は67%から16%へと徐々に低下しました。しかし1990年代の初めに大量の移民の波が押し寄せ、民間部門ではその急激な需要に対応しきれなかったために、再び一時的に上昇しました。過去数年間は、生活水準の全般的上昇（及び外国からのイスラエル内の不動産需要）によって、新たな現象が見られています。すなわち、高級な集合住宅の価格が上昇する一方で、安価な集合住宅の価格は下落しています。

イスラエルの企業は建造物の金属構造、プレハブ部品（ドア、窓、衛生設備、配管部品、装備品など）の設計と製造で世界をリードしています。こうした製品は世界中で販売されており、あらゆる大陸の建設現場で目にすることができます。

輸送と通信

輸送・通信部門の重要性は、経済統計上で占める割合の規模を大きく超えています。この部門は、他の全ての経済部門や一般家庭を支える基盤産業です。生産部門というよりもサービス部門であり、あらゆる近代諸国と同様に、イスラエルでも生産部門より急速に成長しています。近年は特に航空部門で（観光の伸びと平行して）著しい成長が見られますが、通信部門はそれよりも更に早い速度で成長しています。

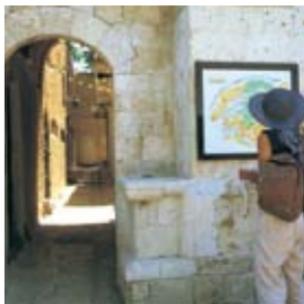
輸送・通信部門は、2006年はGDPの7%、商品とサービスの輸出の約8%を占め、イスラエルの労働力の5%を雇用していました。その製品は36%が陸路輸送、20%が海上及び航空輸送、39%が通信関連で、残りは様々なサービスで構成されていました。

1950年代初期以降に商業輸送の総重量は10倍以上に増加し、特に過去の100倍を超える乗客が空路で輸送されています。また同時に道路の長さは倍増し、バスの数は3倍を超え、更にトラック数は10倍となりました。

観光業

イスラエルはその地理的多様性、考古学的・宗教学的な名所旧跡、地中海沿いのまぶしい太陽と近代的なリゾート施設、キネレット湖(ガリラヤ湖)、紅海、死海などで多くの観光客を魅了しています。2000年には過去最高の241万人の観光客がイスラエルを訪れました(1950年は3万3,000人、1960年は11万8,000人、1970年は44万1,000人、1980年は118万人、1990年は134万人)。政治情勢によって観光客数は2001年には120万人にまで減少しましたが、その後2006年に184万人まで回復し、2007年末までには約230万人に到達すると予測されていました。観光客の約57%は欧州から、32%はアメリカ大陸から、8%はアジアから訪れています。

オールドヤッフォ
(旧市街) :石の
路地と観光客
・
観光省



観光業によって2006年には28億ドルの外貨(全輸出利益の5%、サービス輸出の16.8%に相当)が得られました。

観光業はGNPでは3%未満しか占めていませんが、外貨面での付加価値率が85%あることからイスラエルの輸出産業において有数の付加価値産業となっており、約8万人を雇用しています。観光業にはまだ多くの開拓されていない可能性があり、イスラエルの経済成長プランの主要要素の1つとされています。



エルサレム：ナハラット・シバ地区の通りで演奏するジャズバンド
・
観光省

文化

演劇	244
芸能	250
映画	253
音楽	259
舞踊	267
文学	273
視覚芸術	287
博物館	299
考古学	304
報道機関	309
スポーツ	311
イスラエルの国際文化交流	321



文化

イスラエルは、古さと新しさを併せ持つ国です。小国ながら文化が非常に盛んで、多様な文化的背景を持つ人々が暮らしています。4,000年に及ぶユダヤの遺産、1世紀を超えるシオニズム、そして近代国家としての半世紀の歴史によって、イスラエルは70以上の異なるコミュニティの独自性を保ちつつ、イスラエル国としての文化的アイデンティティを確立してきました。多くの移民からなる国であるがゆえに、イスラエルの独創的な芸術表現には伝統と革新が融合されており、排他主義と普遍主義の中道に舵を取ろうとする作用が働いて、様々な文化と社会の影響が吸収されています。イスラエルでは、文化的アイデンティティの探求を通して様々な形態の芸術的創造性が発揮され、こうした芸術を多くの人々が日々の生活の一部として賞賛し、楽しんでいます。

...כי לא על הלחם לבדו יחיה האדם... (דברים ח':1)

是人はパンのみにて生る者にあらず (申命記 8:3)

演劇

ヘブライ語の演劇は、文学とは違って古代ヘブライ文化には存在しませんでした。また、第二次世界大戦まで東欧のユダヤ人社会において非常に盛んだったイディッシュ語の演劇からヘブライ語演劇が派生するということもありませんでした。ヘブライ語の演劇は1917年に、ロシア人演出家コンスタンチン・スタニスラフスキーと女優のハナ・ロビナ(1892~1980年)の指導により、モスクワにヘブライ劇場ハビマが設立されたことによって始ま

りました。ロビナは後にヘブライ語演劇の「ファーストレディー」と呼ばれるようになります。その後1931年に、ハビマはテルアビブに本拠を移しました。

イスラエルの演劇は、現代劇、古典劇、イスラエル固有のもの、海外のもの、実験的なもの、伝統的なものなど様々な要素で構成されています。劇作家、俳優、演出家、製作者の背景も多種多様であり、イスラエルのものと外国的なものが混ざり合ううちに徐々にイスラエル独自の演劇が出来上がりました。イスラエルの演劇界は非常に活発で、様々なプロ劇団のほかに地域劇団やアマチュア劇団が多数

写真提供:エルサレムのカーン劇場



あり、全国で多数の熱心な観客を前に公演を行っています。近年は、多くのイスラエルの劇団が東欧、西欧、米国で公演し、エジンバラ・フェスティバルやベルリン・フェスティバルなどの国際演劇祭に参加したり、欧州や米国で開催されている重要な演劇の催しに出演したりしています。セミプロやアマチュアの劇団には、英語やロシア語で公演している劇団もあります。

イスラエルを代表する脚本家の中でも、故ハノーフ・レピン、イェホシュア・ソベル、ヒレル・ミッテプント、故エフライム・キションなどは国際的評価を得ています。なお、主なプロの劇団は、イスラエルの四大都市に本拠を置いています。

テルアビブの**ハビマ**（国立劇場）は3つのホール（全1,520席）で構成されており、その満席率は、3万人を超える年間会員に支えられて平均約90%に達しています。上演作品はユダヤをテーマにした伝統的な演劇からヘブライ語の現代劇のほかに、国際的な古典劇、その他の演劇及び喜劇の翻訳作品などで、国際的に有名な演出家が舞台制作に加わることもあります。

カメリ劇場（テルアビブの市立劇場）は、イスラエル人の生活をリアルに描いた作品を初めて上演した劇場であり、1970年来、常に精力的にレパートリーを広げてへ

ブライ語演劇の発展に貢献してきました。オリジナルのイスラエル演劇の大作シリーズに加え、主要な古典劇や現代劇のヒット作品の脚色作品など、様々な作品を上演しています。

カメリ劇場は4つのホールで構成される最新式の複合施設内にあり、テルアビブ・パフォーミングアーツセンターに隣接しています。カメリ劇場の「ハムレット」(イタイ・ティランがハムレットを演じました)は国内外で批評家から絶賛されました。この受賞作品は、ジョンFケネディ舞台芸術センターのシェークスピア・イン・ワシントン・フェスティバルでも上演されています。

ハイファ市立劇場は、イスラエル作品と外国作品の両方の古典劇、現代劇を上演しているレパトリシアターです。

ベエル・シェバ劇場は、外国の古典劇、現代劇の翻訳作品のほかに、オリジナルの現代劇を上演しているレパトリシアターです。

テルアビブの**ベイト・レイシン劇場**は、外国の現代劇の翻訳作品やイスラエルの作品を上演しているレパトリシアターです。

アラブ劇場は、大人のためのプロのアラブ語劇場であり、現代劇の翻訳作品のほかにアラブ諸国のオリジナル作品を上演しています。

ベイト・ハゲフェン劇場は、子どもと若者のためのプロのアラブ語劇場として、オリジナルの現代劇のほかに外国作品も上演しています。

カーン劇場は、エルサレム唯一のレパートリーシアターとして、何世紀も前のトルコの宿屋を復元した建物内のユニークなホールで、現代劇と古典劇の両方を上演しています。

ゲシェル劇場は、旧ソ連からの移民者に芸術の場を提供するために1991年に創設され、当初はロシア語で高品質の作品を上演していました。その成功と批評家からの賞賛によって、今やイスラエルのヘブライ語演劇の主流劇場にまで成長しました。世界中の一流のフェスティバルに、イスラエル代表として参加しています。

クリッパ劇場は、舞踊家であり演出家でもあるイディット・ヘルマンと俳優兼音楽家のドミトリー・チュルパノフ（ロシア人）によって1995年に創設されました。演劇、舞踊、デザイン、音楽を取り入れた作品を上演しています。その作品の大半は台詞がなく、1年に2～4の新作を発表していま

す。多くは特別な場所での期間限定の公演であり、なかには1度しか上演されない作品もあります。



子どもと若者の劇場は、国中の学校や文化センターにおいて3つの年齢層を対象に公演を行ったり、演劇教室を催したり、学校の特別なワークショップにインストラクターを派遣したりしています。

アッコ・フェスティバルは、実験劇場を提供するフェスティバルであり、新作や試作が初演されています。屋内パフォーマンスのコンテスト、屋外／ストリートパフォーマンス、及び国際ゲストによる公演で構成されています。



エルサレムの国際人形劇フェスティバルのポスター

写真提供：ナボン・アート

ハイファで開催される**子どもの劇場フェスティバル**では、子供向けの新作が上演されるほかに、コンテストや国際ゲストによるパフォーマンスが行われています。

トレイン劇場は、人形劇場として1981年にエルサレムに創設されました。長編作品から幼児向けの変化に富んだ物語に至るまで様々な作品を上演し、家族皆のためのストリートフェスティバルも行っています。また国際人形劇フェスティバルを毎年開催しています。

演劇、演出、その他の舞台関連職種の訓練は、テルアビブ大学、エルサレム・ヘブライ大学、 Beit・ツビ芸能学校(ラマツト・ガン)、ニッサン・ナティブ演劇スタジオ(テルアビブとエルサレム)、キブツ演劇セミナーズスクールで受けることができます。

芸能

イスラエルに「大衆芸能」が生まれたのはイスラエル建国前の1940年代で、ヒズバトロン、マタテ、バツアル・ヤロクなどのグループがその始まりでした。このジャンルが注目されたのは1960年代、軍の各部隊に演芸隊が作られてからのことです。軍の演芸隊出身の有名スターには、ハイム・トポル、シ・ハイマン、ミリ・アロニ、ドリット・ルーベニ、ヤルデナ・アラジなどがいます。この時代に有名になったイスラエルのコメディグループのハガシャシュ・ハヒバは、何十年間も活動を続けてイスラエルの古典とも言える寸劇を作り上げ、その生涯にわたる功績を認められてイスラエル賞を受賞しました。

大衆芸能はテレビやラジオで放送されることが多いものの、コメディアンや歌手、音楽家、バンドなどによるライブパフォーマンスも定期的に国内で開催されています。

スターの座をつかんだ歌手には、アリック・エインシュタイン、シュロモ・アルツイ、マッティ・カスピ、リタ、ダナ・インターナショナル、コリン・アラル、ハヴァ・アルベルシュタイン、シャロム・ハノーフ、イエフディット・ラビッツなどがいます。またティーベックス、マシナ、エトニックス、フレンズ・オブ・ナターシャ、ベイト・ハブボットなどのグループもスターになりました。外国でも有名になったアーティスト

リタ

・
政府出版局/A.
ベンゲルシヨム

トには、ドウドウ・フィッシャー、故オフラ・ハザ、ラミ・クラインシュタイン、アビブ・ゲフェン、ダビッド・プロザ、ノア(アヒノアム・ニニ)などがあります。1998年にはイスラエルのダナ・インターナショナルがユーロビジョン・ソング・コンテストで優勝し、世界的スターになりました。ダナが歌う「ディーバ」は、歴代ユーロビジョンソングの中で14位に選ばれています。最近になって、ダナの11枚目のアルバム「ハコル・ゼー・レ・トバ」(全ては神のために)が発売されました。



ヘブライ語訳の大ミュージカル「レ・ミゼラブル」や「サウンド・オブ・ミュージック」も再び喝采を集めています。



フハラ・アンサンブル

・
Y.ロエフ・ゲルシヨム

またイスラエル人の間で人気のあるジャンルとして、地中海音楽があります。このジャンルは、主にアラブやギリシアの影響で生まれたもので、ボアズ・シャラビ、ユダ・ポリケル、サリット・ハダッド、アビフ・メディナ、マルガリット・ツアアナニ、ゼハバ・ベン、オフエル・レビなどの歌手がいます。他に最近では、エヤル・ゴラン、アミール・ベナヨウン、ミリ・ミシカなども歌っています。

エリ・ヤツパンやアディ・アシュケナージなどの新世代のお笑い芸人も、かなりの人気を集め始めています。

映画

イスラエルの映画制作は、1950年代に開始されて以降、大きな発展を遂げています。最初にイスラエルで制作・監督された映画

(Hill 24 Does Not AnswerやThey Were Tenなど)は、当時のイスラエル文学と同様にヒーローものでした。最近の映画にはイスラエルの経験が深く反映されており、ホロコースト生存者やその子供たちを題材にした映画(ギラ・アルゴマールのThe Summer of Aviyaとその続編Under the Domim Tree)や、新移民の苦労を描いた映画(ハンナ・アゾウライとシュムエル・ハスファリ監督のSh'hurやレオニッド・ゴリベット監督のCoffee with Lemon)も制作されています。その他、現在のイスラエルの現実を色濃く反映した映画もあります。

イスラエルとアラブの対立を描いたウリ・バルバツシュのBeyond the Wallsや、いくらか疎外された快楽主義的な普遍主義社会を描いた作品(A Siren's Song、Life According to Agfa、Tel Aviv Stories)などです。

過去わずか5年の間にイスラエルの映画界は大きな飛躍を遂げ、様々な映画が製作されました。例えばヨセフ・シダ



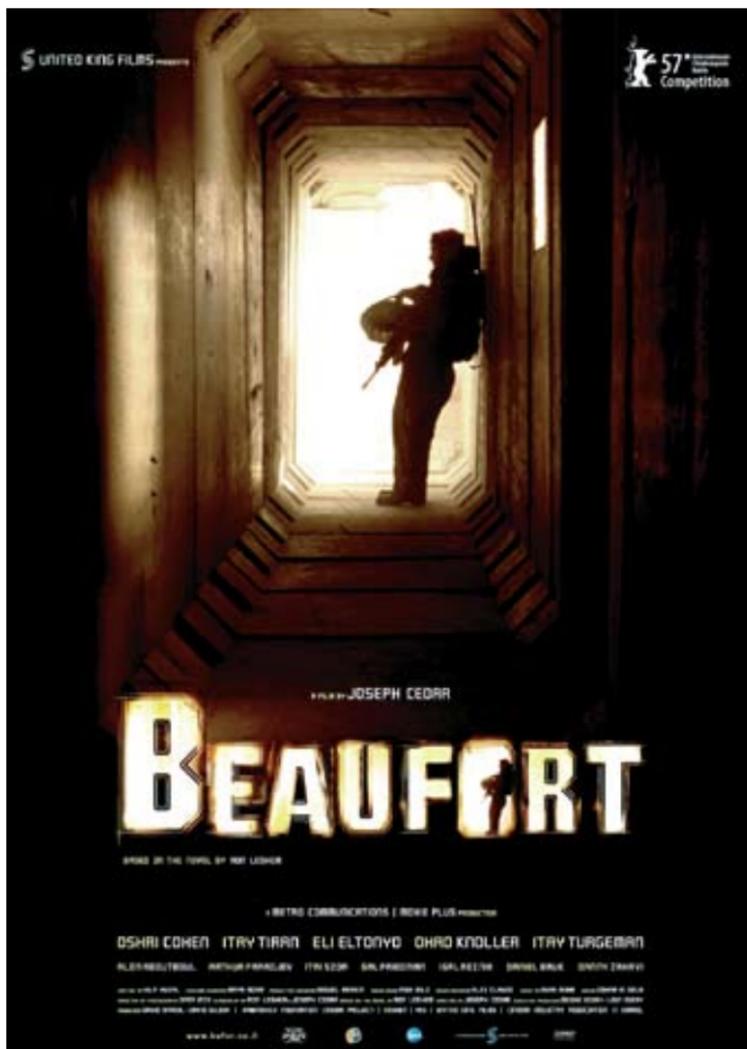
映画制作現場の様子



ー(ヨシ)のCampfire(1980年代のエルサレムの宗教シオニストの一家が、父親の死後に家族を再生していく様を描いた作品)や、ニール・バーグマンの受賞作Broken Wings(同じく家族の喪失と受容の必要性を描いた作品)などがあります。またTurn Left at The End of The Worldは、移民の住む砂漠の町でのありそうもない異文化交流を描き、またAviva, My Loveは、イスラエル、上海、東京で10の賞を受賞しました。

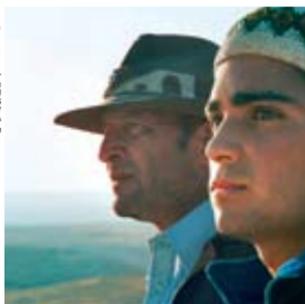
エイタン・フォックスも、著名な人気のある監督です。フォックスの監督作品には、The Bubble(邦題「バブル」、アラブとイスラエルの対立を背景に、テルアビブの現代の都市生活を描いています)、Yossi and Jagger(イスラエル国防軍での同性愛者の恋愛と欲望を描写)、Walk on Waterなどがあります。またフォックスは、古典的なTVシリーズ「フロレンティン」(テルアビブのしゃれた限界で幻滅を抱きながら生きる若いイスラエル人を描いた作品)の監督(1997年)も務めました。

イスラエル映画は2007年に過去最高数の賞を外国で受賞しています。ヨセフ・シダーは、Beaufortでベルリン国際映画祭において監督賞のほか11の賞を獲得しました。またこの映画はアカデミー賞の外国語映画部門にも他の4作品と共にノミネートされています。ドロール・シャウル監督のSweet Mud(邦題「甘い泥」)は、サンダン



アカデミー賞の最優秀外国語映画賞にノミネートされた映画Beaufortのポスター

提供: Beaufort製作者



ス映画祭の「ワールド・シネマ部門」の最高賞を受賞しており、デビッド・ボラックのMy Father, My Lord (超正統派の家族の休日を描いた作品)は、トライベッカ映画祭の国際部門で最高賞に輝きました。更に、エトガー・ケレットとシーラ・ゲフェン監督のJellyfishは、カンヌ国際映画祭で最優秀新人監督賞を受賞しています。また他にも、エラン・コリリンのThe Band's Visit (邦題「迷子の警察音楽隊」、エジプト警察の音楽隊のメンバーが訪問先のイスラエルで迷子になり、イスラエルの思わぬ側面を発見するというストーリー)が、カンヌで3冠(国際批評家連盟賞、ジュネス賞、一目惚れ賞)を達成しました。イスラエルの女優ハンナ・ラズロは、Free Zone (邦

題「フリーゾーン～明日が見える場所～」で、2005年の第58回カンヌ国際映画祭の女優賞に輝いています。近年はその他にも様々なイスラエル映画や映画制作者が国際賞を獲得しています。

イスラエル映画が外国で成功を収めるにつれて映画の輸出が増えるとともに、外国のドル箱映画や共同作品のイスラエル国内での撮影も増えてきました。産業貿易労働省の一部門であるイスラエル・フィルムセンターは、

国内外の製作者によるイスラエルでの映画製作を奨励しており、専門業者の紹介から資金援助まで様々なサービスを提供しています。

エルサレム・シネマテークでのイスラエル映画祭などの大規模な催し、ハイファやステロットでの同様の催しも、外国で行われるイスラエル映画祭とともにイスラエル映画の認知度を高めるのに役立っています。

最近改修されたエルサレム・シネマテークには、数千の映画の保存館、研究図書館、映画観賞用ホール、展示スペースがあります。大使館、文化施設、市民組織、また可能な場合には脚本家や監督、出演者の協力を得て、様々なテーマに沿って定期的に映画を上映しています。1984年からはコンテスト形式でない映画祭を毎年行っており、質の高い映画やビデオ作品が多数出品されています。また大人のための教育コースも人気があり、エルサレムの学校に通う子供たちを交えたプログラムでは、人気媒体としての映画の分析が進められています。テルアビブや北部の町ロシュ・ピナにはシネマテークの支部があります。イスラエルではアートシアター系の映画が今も人気を集めており、レブ・チェーンが国内でこじんまりした映画館を運営しています。

エルサレム・ヘブライ大学内のスピルバーク映画資料館

は、ユダヤやイスラエルの生活、ユダヤ民族関係映画の資料では世界最大の資料館です。ヘブライ大学とセントラルシオニスト資料館が共同で運営しており、主な活動として、ユダヤ映画の収集、保存、目録の作成や、世界中の研究者、映画・テレビの脚本家とプロデューサーへの資料提供を行っています。

音楽

イスラエルの地では、第一次世界大戦後に音楽が文化生活の重要な部分を占めるようになりました。その当時は、熱心なアマチュアが少数の音楽の専門家とともにオーケストラやコーラス、オペラを組織していましたが、やがて1930年代になると、欧州でナチスの脅威に晒されたユダヤ人の音楽の教師や学生、作曲家、演奏家、歌手などが、数多くの音楽愛好家とともにイスラエルに移民してくるようになりました。これ以降は、プロの音楽家による音楽活動が主流となっています。

ポーランド生まれのバイオリニストであるブロニスラフ・フォーベルマンが創設したパレスチナ交響楽団(現イスラエル交響楽団)は、初コンサートをトスカニーニの指揮で1936年にテルアビブで行いました。このオーケストラは僅かの



イスラエル交響楽団

• 写真提供:イスラエル交響楽団

間にイスラエルの音楽文化を代表する存在となり、また世界で最も優れたオーケストラの1つとしての名声も得ました。パレスチナ交響楽団の結成後まもなく、ラジオ・オーケストラ（現エルサレム交響楽団）も創設され、この楽団の演奏の放送に多くの市民が魅了されました。

更にその後、イスラエル室内管弦楽団、ベエル・シェバ・シンフォニエッタや、ハイファ、ネタニヤ、ホロン、ラマツ・ガン、リション・レジオンを本拠とする交響楽団も創設されたほか、国内のキブツメンバーで構成されるイスラエルキブツオーケストラも結成されました。

1980年代の初めには、ニュー・イスラエル・オペラが高水準の公演を行うようになり、その数年前にイスラエル初の常設オペラ楽団が解散されてからは低迷気味だった、オペラ作品に対する市民の情熱が再燃しました。

1990年代初頭に旧ソ連から100万人を超えるユダヤ人が大量に移民してきたことに伴い、イスラエルの音楽文化は大きな変化を遂げました。これらの大量移民の中には多くのプロの音楽家（楽器の演奏家や歌手、音楽の指導者）がいたので、新たな交響楽団や室内管弦楽団、小さなアンサンブルなどの結成が促され、また国内の学校、音楽院、コミュニティーセンターの音楽教育に新たな才能と活力が注ぎこまれたのです。

イスラエルにおける室内楽の伝統は、1930年代に始まりました。元々イスラエルには多数の国際的に著名な室内楽のアンサンブルやコーラスグループがいましたが、更に1990年代の移民の波とともに室内楽の範囲や種類は拡大しています。例えば、レホボット・カメラータ、イスラエル国防軍の教育隊の室内管弦楽団、ラマツト・ハシャロンのカシュタニオット・カメラータなどが有名です。多数の市や町が市立、町立の合唱団を抱えており、エルサレムのリトゥルジカやアブ・ゴーシュの声楽フェスティバル、ジムリヤフェスティバルなどの合唱専門のフェスティバルが開催されています。

カエサリアや Beit Shean の復興されたローマ時代の劇場や、国内の2つの主要なコンサートホール(テルアビブのマン・オーデトリウムとエルサレムの国際コンベンションセンター)でのリサイタルや交響楽団のコンサートでは、様々な古典作品が演奏されています。またエルサレム劇場の複合施設やテルアビブの新しいパフォーマンスアートセンター、エルサレム博物館、町やキブツの文化センターなど、国内の小規模な会場でもコンサートが開かれ、熱狂的な観客を引き寄せています。著名な客演音楽家や、毎年イスラエルで公演を行っている世界的に有名なイスラエルのソリスト(ピンカス・ズッカーマン、シュロモ・ミンツ、ダニエル・バレンボイム、イツハク・パールマン)は、こうした観客の熱心さや率直さを賞賛しています。

イスラエルで行われている世界的な音楽の催しには、国際ハーブコンクールやアルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノコンクールなどがあります。またキブツ・エン・ゲブでの音楽祭、キブツ・クファール・ブルムでの室内楽フェスティバル、エイラットでの紅海ジャズフェスティバルなどの地方フェスティバルも多数の聴衆を魅了し、更に世界の音楽団、演劇団、舞踊団が集まるイスラエルフエスティバルの間は、開催地エルサレムには多くの人々がまるで磁石に吸い寄せられるように集まってきます。

イスラエル独自の音楽は、1940年代中期にプロによる作曲が始まってから、進展を続けています。ロシアやフランスの伝統、ドイツのロマン主義とポストロマン主義、その後の欧州の作曲家たちの音楽的活力の影響の下、伝統的な東方の音楽と古代の祈りの歌声が交じり合い、「地中海スタイル」と呼ばれるイスラエル独自の音楽表現が徐々に形成されました。

イスラエルの作曲家の第一世代は皆欧州生まれであり、イスラエルに移民してから新たな音楽形態での作曲に腐心しました。パウル・ベン・ハイムは、ポスト表現主義のスタイルを作り出すために新旧の音楽、東西の音楽を融合して拡大し、エデン・パルトスは民俗音楽の中に重要な作曲手法を見出しました。またアレクサンダー・ユリア・ボスコビッチは、作曲に大衆的な音楽表現を用いました。ヨセフ・タルは、イスラエルの電子作曲の基礎を築きました。

モルデカイ・セターは、イエメンのメロディーやリズムを自作品に取り入れています。

第二世代の音楽家は、第一世代の直接、間接の生徒であり、音楽とヘブライ語を、その子音と抑揚、ユダヤの典礼や伝統との関連性、東方世界とのつながりを含めて融合させようと試みました。最近の第三世代の作曲家は、国境を超えて国際的な作曲活動に参加したいという思い、音楽を通じてホロコーストに取り組む意欲、音楽で障壁を打ち破りたいという願望(ユダ・ポリケルの音楽など)を表しており、東西の伝統の融合、革新的な大衆音楽ジャンルの取り込みなどを行っています。

若く才能のあるイスラエル人は様々な音楽院に在籍したり、個人的に指導を受けたりして音楽の研鑽を続けています。またイスラエルの若者向けのオーケストラに入って経験を積む人もいます。更に、エルサレムやテルアビブの学位の授与される音楽学校や舞踊学校に進む人もおり、歌手、楽器演奏者、室内管弦楽団のためのマスタークラスでは、音楽院に所属する国際的アーティストへの訪問やエルサレム音楽センターでの学習を頻繁に行っています。

高等教育施設での音楽の教育や研究は、1960年代にエルサレム・ヘブライ大学にアルトゥール・ルービンシュタイン音楽講座が開設されたのを機に始まりました。それ

平和への歌

太陽よ、昇るがよい
朝の光を与えるために、
最も純粋な祈りも
私たちを連れ戻すことは
ない。

その蠟燭を消され
地中に埋められた者は、
悲痛の涙さえ目覚めさせる
ことはなく
連れ戻すこともない。

誰も私たちを
死の淵から連れ戻すことは
なく、
ここでは勝利の叫びも
賞賛の歌も役立ちはない。

リフレイン：
だからこそ、平和への歌だけ
を歌おう、
祈りをささやく代わりに。
平和への歌を
大きな声で歌おう。

以降、テルアビブ大学やバール・イラン大学にも音楽学部が設立されています。主な専攻科目としては、ユダヤ音楽、及びイスラエルの様々な民族グループの音楽(特に東方／セファルディのコミュニティーの音楽を重視)の2科目があります。

音楽の初期の開拓者たちは、歌の原文をヘブライ語に訳したり、新たにヘブライ語の歌詞を伝統的なメロディーに付けたりしました。既に数千もの歌詞が書かれており、アラブやイエメンの伝統からモダンなロックやポップまで、次々と起きる移民の波によってもたらされた様々な要素の入り混じる旋律に、聖書や伝統的な書物、更にはイスラエルの詩人や作詞家の歌詞が合わされています。

「ヘブライ語の代表的な歌とは何か」を定義するのは難しいことですが、イスラエル人の間では、様々なテーマやスタイルで書かれたヘブライ語の歌と、イスラエル人の意見や価値観、感情が移入され、スラブの影響が旋律に色濃く出ているシール・イブリ(「ヘブライソング」)を区別しています。

過去1世紀にわたってユダヤ人の主な歴史的出来事を彩ってきた歌は、イスラエル国の夢、苦痛、希望を表しています。こうした歌は、どの民俗音楽にも共通する普遍的な感情を表す一方で、イスラエル独自の愛国心や風景も力強く描きだしています。このような歌は国民に知られており、国の文化遺産の一部となっています。

イスラエル人は、建国前の歌から最新の歌まで、イスラエルの歌を好んで歌います。人々は公共のホールや個人の家、キブツの食堂やコミュニティーセンターに集って歌い、またハイキングや焚き火のときも歌います。しかも多くの場合はプロの歌手の指導のもとで、ピアノやアコーディオン、ギターの伴奏付きで歌を楽しんでいるのです。このような歌の集まりに参加することで愛国心を養い、昔の開拓の日々と独立への戦い、戦争の勝利、失った友人、繰り返される希望と愛の瞬間への郷愁を覚え、団結心を強めています。

太陽よ、貫くがよい
花々の間を。
後ろを振り向かず
去りし者を後に残して。

希望を持って前を向こう、
ライフルを構えるのではなく。
愛の歌を歌おう、
戦争の歌ではなく。

その日を待つのではなく、
その日をもたらそう、
なぜならそれは夢ではないから、
そしてあらゆる広場で、
平和だけを讃えよう。

歌詞：ヤアコブ・ロットブリット
音楽：ヤイル・ローゼンブルム

現代音楽

イスラエルの現代音楽は多種多様で、かなり大胆なものも多くあります。例えばヒップホップバンドのハダグ・ナハシュは、音楽を使って政治を風刺しています。その最も有名なヒット作の1つ「シラット・ハ・スティッカー」(The Sticker Song)は、イスラエルの小説家ダビッド・グロスマンと共同で作詞されました。イスラエルの車のバンパーのステッカーによく見受けられるような政治スローガンを集めた歌詞であり、反政府スローガンも含めることによって、イスラエルの生活の怒りや皮肉、不条理な側面を描き出しています。

イダン・ライヒェルなどのグループは、エチオピアの音楽の伝統を中東や典礼の音楽と融合させています。ティーベックス、マシナ、クネシヤット・ハ・セヘルなどのバンドやエフード・バナイ、シュロモ・アルツィなどのソロ歌手、またサリット・ハダッドも、イスラエルの音楽の主流として今もその人気を維持しています。

イスラエルのポップ音楽の新人の多くは、米国のアメリカン・アイドルのイスラエル版テレビ番組「コハブ・ノラッド」(スター誕生)から生まれています。ニネット・タイエブ、ハレル・モヤル、ヘフダ・サアドも、この人気のテレビ番組出身です。2007年の勝者はボアズ・マウダで、その音楽にはイスラエルのイエメン系の伝統が息づいています。

舞踊



写真提供：キッツ現代舞踊団

ユダヤ人の社会生活や宗教生活において、舞踊は聖書の時代から喜びや悲しみを表すものとされ、今では宗教、民族、地域社会、家族の祝いに欠かせないものです。現代舞踊は2つの方向に発展しました。祖国再建のためにやってきた初期の開拓者が持ち込んだ民族舞踊を拡大させた踊りと、プロの振付師やダンサーによる舞台公演用の芸術舞踊の2つです。

芸術の1形態としての舞踊は、欧州の文化的中心地から移民してきた教師や専門家によって1920年代にイスラエルにもたらされました。建国後は様々な方向性やスタイルで創設された複数の舞踊団によって、高度な専門レベルの舞踊へと発展しています。今では12を超える主要なプロのダンス集団が、その多くはテルアビブを本拠として、国内そ

して外国でも様々なレパートリーを演じています。

イスラエルバレエ団は、芸術監督のベルタ・ヤンポルスキーとヒレル・マークマンが創設したクラシックダンスのスタジオから発展しました。イスラエル唯一のクラシックバレエ団として、ヤンポルスキーが作ったクラシック、ネオクラシック、現代作品や、バランシンその他の国際的な振付師によるバレエ作品を演じています。

写真提供:キブツ現代舞踊団



キブツ現代舞踊団 (KCDC) は、ガリラヤ（レバノン国境付近）のキブツ・ガアトンのメンバーであるイエフディット・アルノンが1970年に創設しました。アルノンは、アマチュアの若いダンサーの舞踊団をイスラエル随一の現代舞踊団の1つへと成長させ、着々と国際的評価を獲得しています。今日ではKCDCはその芸術監督であり振付師であるラミ・ベエルの存在で知られています。

1964年にマーシャ・グラハムとバットシェバ・ド・ロスチャイルド男爵夫人が設立した**バットシェバ舞踊団**は、グラハムのメソッドを基にしつつも、常にバレエの練習を重視してきました。おそらく40年にわたって世界で最も有名なイスラエル文化の「大使」であり続けているこの舞踊団は、

ダンサーから技術スタッフまで65人のメンバーで構成されています。現在はオハッド・ナハリンが芸術監督を、シャロン・エイアルが振付を担当しています。

イスラエルのその他多くの舞踊団と同様に、バットシェバ舞踊団も教育をその目的の1つとして掲げ、イスラエル社会のあらゆる部門にダンスを広げるためのアウトリーチプログラムを多数行っています。同舞踊団はその作品を、表現性豊かでダイナミックで革新的で感情的で美的であり、その全てがイスラエルのエネルギーを反映していると説明しています。

ベルティゴは、1992年にノア・ヴェルトハイムとアディ・シヤアルという2人のダンサーが創設したモダンダンスのグループとして、大きな成功を収めています。世界中で公演を行い、既に幾つか国際賞を獲得しています。そのレパートリーの多くはヴェルトハイム自身が振付を手がけたものですが、その他の芸術家とともに革新的なダンスプロジェクトも実施しています。エルサレムに1997年に創設されたベルティゴ・ダンススクールでは、クラシックバレエ、モダンダンス、即興ダンスのためのプロ・アマ両方のクラスが行われています。

インバル・ピント・ダンスカンパニーの振付師兼デザイナーのインバル・ピントは、ダンスの国際的スターの1人です。

バットシェバ舞踊団の前団員であるピントは、1990年に振付を始めてから、数々の賞を受賞しています。共同芸術監督のアブシャロム・ポラックとともに、イスラエル国内外で度々公演されている世界的に有名なOysterをはじめ、多数のダンス作品を世に送り出しています。

イスラエルのモダンダンスのジャンルは、多数の小規模なダンスグループや、世界中でダンス愛好家に高く評価されている独立の振付師によって、更に高められています。中でもヤスミン・ゴデールは特に有名で、2001年にニューヨークでベッシー賞を受賞し、またイスラエル国内でも多数の受賞歴があります。ゴデールのダンスは女性的なフォームを基調とし、その作品であるTwo Playful Pinkは世界中で公演されています。その他にエマニュエル・ガットやレナーナ・ラズもスターの座を獲得しています。

1989年の開設以来、テルアビブのネーブ・ツェデク再開発地区にあるサザンヌ・デラル舞踏・演劇センターは、イスラエルのダンス活動の中心となっています。またテルアビブでは、イスラエル・ダンスライブラリーとイスラエル・ダンスアーカイブが研究センターとしての役割を果たしつつ、ダンスに関する書物やイスラエルダンス年鑑を発行しています。ダンスのトレーニングは、エルサレムとテルアビブのルビン音楽舞踊アカデミーや、テルアビブとベエル・シェバのバットドール・スタジオ、ギバタイムのテルマ・イエ

リン・スクール、その他多数の国中のダンス学校やワークショップで受けることができます。

イスラエルは、運動教育の分野でも様々な貢献をしています。例えば、世界中で教えられているモーシェ・フェルデンクライスのメソッドや、エシュコル・ワックマンの身体動作記述システム（舞踊や身体動作を書面で記録するための3大有名システムの1つ）などがあります。

民族舞踊

イスラエルの民族舞踊は、世界の様々な地域のユダヤ、非ユダヤの民族舞踊が融合されています。他の諸国では民族舞踊は地方の古くからの伝統を守るためのものとして奨励されていますが、イスラエルの民族舞踊は1940年代以降、歴史的、近代的な遺産、聖書とのつながり、現代舞踊のスタイルなどに基づいて、芸術形態として常に発展を続けています。

当初は、土着の舞踊を新たな文化環境に適応させるという形で発展しました。例えばルーマニア系のダンス「ホラ」は、イスラエルの地で築かれた新しい生活を表しています。閉じられたサークルは全ての参加者に同等の立場を与えるものであり、単純な動きなので誰もが参加できるようにされており、腕を絡めることで新たなイデオロギーを表していました。

その後、民族舞踊に対する情熱が広がり、イスラエルのポピュラーソングに合わせて民族舞踊の様々なジャンルが発展し、アラブのデブカなどのモチーフや北米のジャズや南米音楽のリズム、地中海諸国に特有のリズムなど、様々なダンスの要素が取り入れられました。

民族舞踊は個人で参加するものもあれば、舞台上で演じられるものもあります。民族舞踊に対する熱狂によってブコの民族舞踊家も生まれ、また余暇として多くの人が民族舞踊の活動に参加しています。1988年からガリラヤ中部のカルミエルで3日間の民族舞踊フェスティバルが毎年催されており、イスラエルだけでなく世界中のグループが参加しています。

イスラエルの民族舞踊とともに、様々な民族社会の伝統的なダンスも、「離散者の集合」とイスラエル社会の多民族性を反映するものとして残されています。イエメン、クルジスタン、インド、グルジア、ブハラ、エチオピアのダンスを専門とする多数の舞踊団や、アラブ、ドルーズ、チェルケス人の踊りを演じるグループがその保存に取り組んでいます。

文学

イスラエルの地における近代ヘブライ文学の最初の作品は、移民によって書かれました。こうした作品の著者のルーツは東欧ユダヤの社会と伝統にあります。彼らはシオニストのモットーである「国を興し、それによって自らを興す」ことを目指して移民してきたイスラエルの地において、創造性溢れる作品を残しました。20世紀に向けてヘブライ文学を牽引したヨセフ・ハイム・ブレンネル(1881~1921年)とシュムエル・ヨセフ・アグノン(1888~1970年)は、多くの人々から「近代ヘブライ文学の父」と言われています。

リアリティを重視するブレンネルは、ラビや中世のヘブライ語の口語形態を好み、これを生きた言葉で表現するために印象的な構文を用いました。ブレンネルの作品の中核をなしていたのは、自らが生まれた欧州諸国とは全く異なる乾燥した厳しい土地に移民してきた開拓者たちの肉体的な苦勞と、イスラエルの地でユダヤ人としてのアイデンティティを確立するまでの精神的な苦勞の両方に対する共感でした。



ヘブライ語のアルファベット

ヘブライ文学の読 書週間

国中の広場や公園
はブックマーケット
となり、多くの人々
で賑わう。

アルノバロス社



アグノン、より近代的な形態のヘブライ語を自作の中で用いました。アグノンにはユダヤの伝統に対する知識があり、また19世紀、20世紀初頭の欧州文学の影響を受けていました。そのため現代の様々な精神的悩みを題材として扱うようになり、伝統的な生活様式からの乖離、忠誠心の喪失、その結果としてのアイデンティティの喪失を描きました。正統派ユダヤ教の信者として、また直感と心理的洞察の作家としてアグノンは、人間の心理の影の部分、不合理な側面に対する共感を表し、信心深いユダヤ人、信仰心のないユダヤ人双方の内面の不確実性を描き出しました。アグノンの描く現実には悲劇であり、時としてグロテスク

な雰囲気さえあり、戦争やホロコーストの影響が色濃く見られ、また敬虔なユダヤ人の世界が情熱や緊張感とともに表現されています。1966年にアグノン、ネリー・ザックとともにノーベル文学賞を受賞しました。

1940年代、1950年代に作品を発表し始めたイスラエル生まれの作家（独立戦争世代とも呼ぶ）は、前の世代の作家とは異なるメンタリティーや文化的背景の中で作品を書き上げました。これは主に、ヘブライ語が彼らの母国語であり、その生活体験はイスラエルの地で培われたためです。S. イツハール、モーシェ・シャミール、ハノーフ・バルトブ、ハイム・グウリ、ベンヤミン・タンムーズなどの作家は、個人主義と社会・国家への献身の間で揺れる心を表現し、社会的リアリズムのモデルを国内外の影響とブレンドして、壮大に描き出しています。

1960年代初頭、ヘブライ散文学の新たな手法を、より若い影響力のある作家のグループ（A. b. イェホシュア、アモス・オズ、ヨラム・カニウク、ヤアコブ・シャブタイなど）が模索し始め、イデオロギーを離れて個人の世界に着目するようになりました。次の20年間、物語形態その他の様々な散文スタイルが、心理的リアリズム、寓話、象徴主義などを含めて試され、またイスラエルの政治的、社会的慣習に関する憶測や懐疑主義の表現も、現代文学の大きな特徴となっていきました。

写真提供: スタン・オ・ラ
ミ & ジャッキー



1980年代と1990年代には文学活動が集中的に行われ、出版される本の数が増えました。それと同時に、複数のイスラエル人作家が国際的評価を受けました。オズ、イエホシュア、カニウク、アハロン・アップルフェルド、ダビッド・シャハール、ダビッド・グロスマン、メイル・シャレブなどの作家です。文学は、読者が自身を個として理解するための方法であり読者環境の一部であるとの信念が、この時代(三世代の現代作家が作品を残しました)の散文学を特徴付けています。こうした作家の多く(特にオズ、グロスマン、シャレブ)は、イスラエルの現代生活の政治的・道徳的ジレンマも扱っています。

欧州のホロコーストの悲劇を扱おうとする新たな試みのなかで、時と場所の枠組みの中でしか描けない根本的問題を、時に遠くから、また時間に関係者の目線から描くという新鮮な表現方法が生まれました(アップルフェルド、グロスマン、イエホシュア・ケナズ、アレクキサンダーとヨナット・セネド、ナバ・セメルなど)。グロスマンのSee Under: Loveは、その最も顕著な例と言えるでしょう。この作品はモミークという移民家族の少年の視点から、ホロコーストの家族への影響が描かれています。

また以前は触れることのなかった題材も取り上げられるようになりました。例えば、アラブの村の様子や(アラブ人キリスト教徒の作家であるアントン・シャマスや、イスラエル・アラブのジャーナリスト兼作家のサイド・カシュア)、近代社会から取って離れようとする超正統派ユダヤ人の世界(ヨッスル・ビルシュタイン)、エルサレムの宗教裁判所の生活模様(ハイム・ベエル)や、世俗的なイデオロギーが崩壊し、宗教的原理主義が力を増している時代における不信心者の存在を扱った作品(イツハク・オルパズ・アウエルバツハ)などです。他にも重要な題材として、セファルディの背景を持つ一部のイスラエル人作家は、アラブ諸国から新たに移民してきた人々の疎外された社会を描いています(サミー・ミハエル、アルベルト・スイサ、ダン・ベナヤ・セリ)。更に、民主主義や正義などの普遍的なテーマを扱った作品もあり、国民生活の多くの領域で常に困難に直面している社会などを描いています(イツハク・ベン・ネール、カノウク、グロスマン、オズ)。

また主流の女性作家も誕生しており、一般的なテーマだけでなくユダヤの伝統とシオニスト組織における女性の役割を女性自身がどう認識しているかなども描いています(アマリア・カハナ・カルモン、ハナ・バット・シャハール、シュラミット・ハレベン、シュラミット・ラピッド、ルス・アルモ

2年に1度開催されるエルサレム・ブックフェア

Y.ロエフ





グ、サビオン・リープレヒト、バティヤ・ゲール)。ラピッドとゲールは探偵小説のジャンルも手がけ、国内外で批評家に賞賛されています。

最近は、イスラエルの経験を中心テーマとすることを嫌い、より普遍的なテーマを好む若い世代の作家が現れており、超

現実的で風変わりな作風がよく見られます。こうした作家の一部(イエフディット・カッチール、エトガー・ケレット、オルリー・カステル・ブルム、ガディ・タウブ、イリット・リノール、ミラ・マゲン)は、ほとんどカルトとも言える題材を扱っており、その新刊本はイスラエルだけでなく時には外国でもベストセラーの上位に挙げられています。近年、ケレットの作品が欧州の読者の間で特に好まれており、その短編集の多く(Missing Kissingerなど)が権威ある文学賞を受賞しています。

数々のヘブライ文学の作品に加えて、アラビア語、英語、フランス語などの言語でも多くの散文や詩の作品が作られています。旧ソ連から100万人を超えるユダヤ人が移民してきてから、イスラエルはロシア国外におけるロシア語文学の最大の中心地となっています。また過去数年間、イスラエルの出版社は電子出版の分野にも本格的に参入しており、様々な題材を扱うイスラエルの電子図書が世界中で販売されています。

児童文学

児童文学は、オリジナル作品や多言語の古典作品の翻訳作品などで構成され、様々な題材、様々な散文スタイルで作品が作られています。こうした作品には、児童文学作品の言葉と内容に関して、より直接的で洗練された手法を好む世界的な傾向が反映されています。

多年にわたって、様々な年齢層の子ども向けの児童文学作品が出版されています。イスラエルの児童文学は、よくデザインされたイラストや感受性豊かな内容、子供たちが本の内容をよく理解できるように言語を絵画的に表現するなどの工夫を特徴としています。



写真提供：スタジオ・ラミ&ジャッキー

現代児童文学では、子供たちに探究心を持ち自分で考えるよう促すことが重要な要素とされています。社会的、国家

的に重要なテーマは今も大切にされていますが、こうしたテーマは以前よりも率直に、オープンに扱われるようになってきました。一部の本は、イスラエルの多様性社会においてステレオタイプを否定することを目的としており、世界各地からのユダヤ人の移民を題材にしたものや、あるいは過去1世紀の間にイスラエル建国に尽くし、イスラエルの地におけるユダヤ人の生活復興に貢献した著名人に関する歴史ものや伝記があります。

1960年代後期以降、児童文学は主に子どもの世界そのものを描くようになり、死、離婚、単親家庭、障害、思春期、家族や社会における自分の場所探しなどを扱っています。

その一方で多数の空想的な児童文学も作られており、子供たちに純粋なファンタジー、エンターテインメント、現実逃避の機会を与えています。またユニークなことに、受賞歴のあるイスラエル人作家の多くは、大人だけでなく子供向けにも作品を書いています。例えばダビッド・ゴスマン(The Zig Zag KidやItamar Walks on Walls)、エトガー・ケレット(Dad Runs

Away With The Circus) などです。こうした作品の多くは、大人向け、子ども向け小説のボーダーラインに属しています。またイスラエルの児童文学は、世界中で様々な言語に翻訳されています。



詩

聖書時代から現代に至るまでの間、ヘブライ語の詩は間断なく作られており、そこには外国の影響と国内の伝統が反映されています。過去の詩には、宗教的国家的テーマを題材にしたものだけでなく、今日の詩によく見られるような個人の経験をモチーフにしたものもあります。伝統的な詩の表現との決別は、欧州におけるユダヤ啓蒙運動の時代(1781~1881年)に生じました。当時はユダヤ人に完全な市民権を与え、その生活を脱宗教化することが支持されていましたが、19世紀後半になるとイスラエルの地でユダヤ人の生活の復興を求めるシオニズムの運動が起こりました。この時代の主な詩人は20世紀初頭にパレスチナに移住してきた人たちで、ハイム・ナフマン・ピアリク(1873~1934年)やシャウル・チェルニコフスキー(1875~1943年)などがいます。

ピアリクの作品には、ユダヤの国家再生に対する自身の思いと、東欧におけるユダヤ人の生活の可能性を否定する気持ちが反映されており、ユダヤの歴史を要約する内容のものと、愛と自然をテーマにした純粋な叙情詩の両方があります。ピアリクは、「国民詩人」や「ヘブライ・ルネッサンスの詩人」と呼ばれることが多く、それまでの詩人が受け継いできた聖書時代からの圧倒的な影響を受けることなく、それでいて古典的な構造や表現の明確さを、豊かで教養がありつつも現代的なフレーズによっ

て維持しています。ピアリクの詩の一部は特別に幼い子ども向けに書かれており、イスラエルの生徒は代々その詩を暗記しています。

叙情詩、劇的な叙事詩、バラード、寓話を書いたチェルニコフスキーは、個人的な誇りや尊厳の精神と自然と美の崇高な認識の両方を注ぎ込むことによって、ユダヤ人の世界を正そうとしました。彼の語感にはラビのヘブライ語に対する思いが込められており、聖書の影響を新たな会話の形式と融合させたピアリクの詩とは異なっていました。ピアリクとチェルニコフスキーの詩は共に、古代ユダヤの詩から現代的な詩への移行を表しています。

アブラハム・シュロンスキー、ナタン・アルテルマン、リア・ゴールドバーグ、ウリ・ツビ・グリーンバーグは次世代を代表する詩人であり、建国の前と直後の数年間に詩を書きました。

シュロンスキーは洪水のように湧き上がるイメージと言葉の工夫をその詩の中に込め、また特にロシアの古典詩を多数翻訳しました。アルテルマンの作品の多くは政治的意味合いで知られ、ユダヤ人社会の全ての発展段階をたどる作品であり、言葉の豊かさと様々な詩の形態、トーン、リズム、イメージ、比喩表現で知られています。ゴールドバーグは、都市、自然、そして人間の愛、ふれあい、思いやり

International Poets' Festival Jerusalem, Mishkenot Sha'ananim



ラフィ・エドガー作
の**ポスター**

・
エドガー氏本人の
許可を得て掲載

を描いて叙情詩の幅を広げ、またグリーンバーグは激しいイメージと文体の力を使って絶望や怒りの詩を描き、国家的なテーマやホロコーストの影響を主に扱っています。こうした詩人たちは、毎日のように話されている言葉のり

ズムをヘブライ語の詩に初めて取り入れ、古い言葉を復活させると同時に新しい言葉を作り出して、古代の言語に新たな柔軟性と豊かさを吹き込みました。

この時代の詩は、ロシアの未来派や象徴主義、ドイツの表現主義の影響を強く受けており、古典的な構造と秩序あるリズムを志向しがちでした。詩人の生まれ故郷のイメージや光景、新たな移民先での新鮮なビジョン、出身地の記憶と移民先に根を下ろしたいとの思いを壮大に描いています。これは、「2つの祖国を持つ苦しみ」の表現だとレア・ゴールドバーグは書いています。また多数の詩には音楽がつけられており、イスラエルの唱歌の一部となっています。

ヘブライ語の詩の最初の主流女性詩人となったのは、ラヘル・ブリューシュタイン(1890~1931年)であり、単に「ラヘル」と呼ばれています。その作品は、女性によるヘブライ詩の基礎を築き、また女性詩人に対する人々の期待もわき起こしました。その叙情的で簡潔で、感情的で、知的で気取らない私的スタイルは、同世代の多くの詩人にも広がり、またダリア・ラビコビッチやマヤ・ベジェラノなどの後世の詩人にも受け継がれています。

1950年代中期に、ヘブライ語を母国語とする若い詩人たちが新たに登壇しました。イエフダ・アミハイ、ナタン・

ザッハ、ダン・パギス、T. カルミ、デビッド・アビダンなどです。このグループは控えめな表現をしがちで、集団的経験を題材にすることは避け、現実と日常スタイルを自由に観察し、プーシキンやシラーではなく、近代のイギリスやアメリカの詩人から大きな影響を受けています。たとえばアミハイの作品（広く翻訳されている）は、日常語の使用、皮肉、形而上学的な比喩表現を特徴としています。こうした作品は、アミハイよりも若い同世代の詩人たちの作品の多くを代表する作品とされており、彼らはイデオロギー的な詩とは決別し、「古典的な構造と秩序あるリズム」というアルテルマン・シュロンスキー路線の伝統を完全に断ち切りました。ザッハの作品は、毎日話されているヘブライ語のほぼ典礼的、音楽的な質を革新的に伝えています。

今日のヘブライ詩の分野は、複数の詩人世代で構成される多層構造にあり、20歳代の詩人も中年の詩人もいます。中年世代を代表するのがメイル・ヴィーゼルティエルであり、その散文的で俗語的で直接的な語調はいかなるロマン主義も

目を開けると

山並みの雪が
高原の上に
エルサレムの上に。
ああエルサレムよ、こちらに
降りてきて
私の子どもを返して。
ああベツレヘムよ、こちら
に来て
私の子どもを返して。
高い山並みよ
風よ、
港の洪水よ、ここに来て
私の子どもを返して。
そしてあなたでさえ、ああ、
折れたパピルスよ、
小川を流れる細い茎よ、
砂漠の固い茂みよ
私の子どもを返して
魂が体に帰るときに
目を開けた、そのときに。

ダリア・ラビコビッチ作

認めず、現実の象徴としてのテルアビブのイメージを高めています。ヤイール・ホロヴィッツは、抑制の効いた散文を使って、自らの死期を悟った者の穏やかな悲しみを表現し、ヨナ・ワラッハは原型的、宗教的なモチーフ、フロイトのシンボリズム、時には残虐な官能性、リズムの繰り返し、そして長い連想の鎖を用いて、口語の皮肉な語調で自らを表現しています。その他にも主要な現代詩人として、アシュエル・ライヒ、アリエ・シバン、ロニー・ソマック、モーシェ・ドールがいます。

最も新しい世代の詩は個人主義と混沌を基調としており、口語で韻を踏まずに好きなリズムを使って短い詩の書かれる傾向があります。このような作品の例として、トランシルバニア出身の詩人、アギ・ミショールがいます。イスラエルの詩には多くの忠実な読者がいるため、もっと人口の多い西欧諸国の詩と同じくらい売れている作品がどの時代にも書かれています。

視覚芸術

20世紀が始まると、イスラエルの視覚芸術は東西融合の影響を受けて、またイスラエル自体の発展やその都市の性格、外国のアートセンターから発信されるスタイルの傾向などに感化されて、創造性を発揮するようになりました。絵画、彫刻、写真、その他の芸術形態においてイスラエルの様々な風景がその主題として描かれています。段丘や山並みは動的な線や形を、ネゲブの丘陵、灰緑色の植物、綺麗な太陽の光は、素晴らしい色の効果をもたらします。海や砂は地表の姿を変えます。イスラエルの芸術は、地域の風景、様々な懸念、そして政治を題材に、その独自性を培ってきました。

イスラエルにおける組織的な芸術活動は、1906年にボリス・シャッツ教授（1867~1932年）がブルガリアからイスラエルに移り、エルサレムにベツアレル・アカデミー・オブ・アーツ・アンド・クラフツ（現ベツアレル美術学校）を創設したことによって始まりました。1905年のシオニスト会議において才能ある若いユダヤ人にイスラエルの地で芸術を勉強させるための計画が承認され、この計画に従って作られたのが、この学校です。1910年までには同校には32の学部ができて500



写真提供：ベツアレル美術学校（エルサレム）

人の学生が在籍するようになり、ユダヤ人社会を通してその作品の市場も確立されていきました。

イスラエルには画家や彫刻家の他に、多数の才能ある工芸家（陶芸家、金銀細工職人、機織職人、書道家、ガラス職人など）がいます。その多くは、伝統的なユダヤの儀式用の品々を現代風に解釈して創作活動を行っています。

芸術への熱意はあらゆる階層の人々が抱いており、イスラエルの国民は国内の多数の博物館や個人ギャラリーで開かれる個展やグループ展などの展示会を訪れたり、ツファットやヤッフオの芸術地区やエイン・ホッドの芸術村を頻繁に訪問したり、地元の芸術家の作品を購入したりして、国内の芸術活動を奨励、支援しています。



写真提供：ベツァレル美術学校（エルサレム）

絵画

当初ベツァレル美術学校は、欧州の技術の中東の影響と融合してユダヤの「オリジナルアート」を作り出すことを目的としていました。その結果として過去を美化し、将来を夢想し、古代ユダヤの東方の社会と地元のベドウィンの伝統から着想を得て、聖書の場面を描いた作品が作られました。この時代の芸術家にはサミュエル・ヒルツェンバーグ（1865～1908年）、エフライム・リリエン（1874～1925年）、アベル・パン（1883～1963年）がいます。



**Towards
Jerusalem**

(エルサレムに向かって)
モルデカイ・アルドン作品

イスラエル博物館
(エルサレム) /
アルドン博士の許可を得て掲載

最初の大規模な芸術展覧会は1921年にエルサレム旧市街のダビデ・シタデルで行われ、その展示作品の多くは、ベツァレル美術学校出身の画家の作品で占められました。その後まもなく、ベツァレルの時代錯誤のナショナル・オリエンタルな物語的作風は、ベザレル美術学校内の若い画家からも、また新たに移民してきた芸術家からも批判されるようになり、「ユダヤ」芸術ではなく「ヘブライ」芸術とも言える絵画の模索が始まりました。こうした新鋭の画家たちは新たな文化的アイデンティティを求め、国民再生の源として国家を捉え、イスラエルの風景の明るい日差しと輝く色彩を重視しつつ、中東の現実的な日常を描き、シンプルなアラブの生活様式などのエキゾチックな主題を、極めて原始的な手法で強調しました。例えばイスラエル・パルディ、チオナ・タゲル、ピンハス・リトビノフスキー、

ナフーム・グットマン、レウベン・ルビンの作品などがそうです。1920年代の中期までに、著名な芸術家の多くは1909年に作られた動的都市テルアビブを本拠とするようになり、今もテルアビブはイスラエルの芸術活動の中心地であり続けています。

1930年代の芸術は、20世紀初頭の西洋の芸術的革新、特にパリのアトリエから生まれた表現主義の影響を色濃く受けていました。モーシェ・カステル、メナヘム・シェミ、アリエ・アロークなどの画家の作品は、地元の景色やイメージを題材としながらも、現実を感情的かつ神秘的に歪曲して描きがちであり、10年前の物語風の要素は徐々になくなり、オリエンタルなムスリムの世界も完全にキャンバスから消え去りました。1930年代の中期には、台頭するナチズムに恐怖を感じた芸術家たちの移民に伴ってドイツの表現主義も紹介され、既に20年前にエルサレムに来ていたドイツ生まれの芸術家、アンナ・ティコやレオポルド・クラクウアーに加えて、ヘルマン・シュトルク、モルデカイ・アルドン、ジャコブ・シュタインハルトなどの画家たちも、エルサレムの風景や周辺の丘陵の主観的な解釈を行いました。こうした芸術家たちは、地元の芸術の発展に大きな貢献をしています。特に、ベツァレル美術学校理事のアルドンやシュタインハルトが同校にリーダーシップを与え、新世代の芸術家の成熟を促したことは有益でした。

第二次世界大戦中にパリと分断されたことや、ホロコーストのトラウマによって、モーシェ・カステル、イツハク・ダンジガー、アハロン・カハナなどの芸術家は、新たにカナンのイデオロギーを取り入れ、かの地の原住民と同化し、古代の神話や異教徒のモチーフを復活させることによって「新しいヘブライ人」を作り出そうとしました。また1948年の独立戦争によって、ナフタリ・ベゼムやアブラハム・オフェクなどの芸術家は、明確な社会的メッセージを持った過激なスタイルを取り入れました。この時期に結成された最重要の芸術家集団は、「ニューホライズン」と呼ばれるグループであり、イスラエルの絵画を地域の特性や文学とのつながりから切り離し、現代欧州芸術の領域に移そうとしていました。このグループからは主に2つのトレンドが生まれました。まず、グループのリーダー的存在だったヨセフ・ザリツキーは、地元の風景の漠然とした断片と寒色系の色調を特徴とする叙情主義に向いました。このスタイルは、アビグドル・ステマツキーやイエヘズケル・シュトライヒマンなどに受け継がれています。2つ目のトレンドは、幾何学主義やシンボルに基づくことの多い形式主義までの広範囲に及ぶ様式化された抽象主義であり、ルーマニア出身のマルセル・ヤンコ（パリで勉強し、ダダイズムの創設者の1人となる）の作品に顕著に現れています。ニューホライズンのグループは、イスラエルの抽象芸術を正当化しただけでなく、1960年代初頭までにこの芸術を主流にまで押し上げました。

**Pomegranates in
Safed**

(ツファットの
石榴)
ナフム・グットマ
ン作品

写真提供: ナフム・
グットマン博物
館、及びメナヘム・
グットマン教授



1960年代の芸術家は、ニューホライズングループの活動と1970年代の個人主義の模索の橋渡し的存在となりました。シュトライヒマンとシュテマツキーは共にテルアビブのアブニ・インスティテュートで教鞭をとり、ラフィ・ラビ、アビバ・ウリ、ウリ・リフシッツ、レア・ニケルなどの第二世代の芸術家に大きな影響を与えました。こうした第二世代の芸術家たちは独自のイメージを求め、叙情的抽象主義の洗練された作品を良しとせず、外国の様々な表現主義、形象主義の抽象的スタイルを組み合わせました。

彼らは1950年代後期に設立された「グループ・オブ・テン」のメンバーでもあり、芸術における普遍主義的な傾向に異議を唱え、イスラエルの風景や個人を題材とする芸術に向かおうとしました。ニューホライズングループ

を取り巻いていた欧州のエリート的な雰囲気はグループ・オブ・テンにはなく、イスラエル生まれのイスラエル人である「サブラ」、パルマツハ世代で構成されていました。1960年代後半には、「リアリスト」の芸術家であるオリ・ライスマンやイツハク・マムブッシュがこのグループに加わりました。

ベザレル美術学校では、アルドンの影響が特にテーマや技術の面でアビグドル・アリカの作品にはっきりと表れています。アリカは、強い精神性を表すフォームで構成される世界を作り出しました。またアルドンの影響によって、ホロコーストや伝統的なユダヤの主題を髣髴とさせる象徴的テーマが復活し、ヨッスル・ベルグナーやサミュエル・バックのシュールレアリズムの作品に描かれました。ヤコブ・アガムのスタイルはこれとは全く異なり、視覚的な動く芸術のパイオニアとして、その作品はイスラエル国内外で頻繁に展示されています。

1970年代のミニマリズム的な芸術には、地元の抽象絵画の名残を感じさせる無形質の透明なフォームがつきものでしたが、ラリー・アブラムソンやモーシェ・ゲルシュニの作品には、美的感覚以外のアイデアが顕著に表されています。1980年代、1990年代の芸術家たちは、個人的実験であるかのように様々な素材や技術を1つに集めることによって、題材やイスラエルの精神の意味を探し求め、またへブ

ライ語のアルファベットや人間のストレス、恐怖の感覚など、地元や世界の多様な要素に基づくイメージを追い求めました。今の傾向としては、ピンハス・コーエン・ガン、ダガニット・ベレシュト、ガビ・クラスマー、チビ・ジェーバ、ツビ・ゴールドシュタイン、ダビッド・レエブなどの作品に見られるように、イスラエル技術の定義を、その伝統的なコンセプトや素材を超えて拡大し、土着の文化の独自の表現として、また現代西洋芸術の一部としていこうとする取り組みが続けられています。



Meskin

(俳優のメスキ
ン)、ゼエブ・ベン
=ツビの彫刻

写真提供: ミシュカ
ン・レオマヌット芸
術博物館 (アイン・
ハロッド)

彫刻

イスラエルの彫刻芸術は、少数の彫刻家による長年の努力によって栄えました。アブラハム・メルニコフ(テル・ハイの巨大なライオンの石像で知られる)とゼエブ・ベンツビはキュービズムをイスラエルにもたらし、一方でモーシェ・ジファー、アロン・プライバー、バティヤ・リシャンスキーなどのより芸術的な一派は、建国前の彫刻界に君臨しました。

1940年代には、カナンのイデオロギーが多くの芸術家、特にイツハク・ダンジガーに影響を及ぼしました。ダンジガーの赤いヌビアの砂岩から彫りだした異教徒の英雄狩

人二ムロッドの彫刻は、中東の彫刻と近代的な人体の概念を合成しようとした試みであり、またその羊の彫刻は、砂漠の岩、運河、ベドゥインのテントの形態にも似ています。1950年代の彫刻がその抽象性を増すにつれて、新たな素材が用いられたり、モニュメント大にまで拡大されたりするようになり、彫刻の媒体として鉄やコールテン鋼が新たに導入され、彫刻界には刺激がもたらされました。

イスラエルの戦没者のために有形の記念物を残したいという思いから、1960年代以降、彫刻が新たに勢いづき、多数の偉大なモニュメント(主に抽象的なもの)がイスラエルの風景に加えられるようになりました。このジャンルを代表する彫刻家には、イエヒエル・シェミ(自然の厳しさと、暴力と破壊に対する人間の許容性を描いたアシュジブの溶接鉄の海軍のモニュメント)や、砂漠の戦いの特徴を喚起させる、ネゲブ旅団に捧げるモニュメント(ベエル・シェバ郊外)を製作したダニ・キャラバンがいます。

The White Square

(白い広場)
ダニ・キャラバン
の彫刻

アルバトロス社

フランスの彫刻家(特に表現主義)の影響を受けた現代の概念主義の彫刻家たちは、様々な素材を用いて社会的政治的現実に対する個人的な思いを描こうと、オブジェや環境彫刻などを製作しています。イスラエルの受賞歴のあるイイガル・トゥマルキンは、形やシンボルを力強く表



す作品を通して、幾何学的、具象的に戦争に対する抗議を表し、また幾何学的ミニマリズムへの傾向が、メナーシェ・カディツシュマンの羊のイメージ（聖書のイサクの生贖の羊のイメージを思い出させ、無力な犠牲者を象徴）の常用に特に顕著に表れています。

写真

今日のイスラエルの芸術写真は、個人的なテーマ（生と死の問題、芸術、幻想の徹底的な追求）と国家／政治的テーマの両方を扱っています。芸術写真は、親密性、抑制、自己への捕われなどを特徴としており、写真の初期の発達段階では主流だったロマン主義的な表現スタイルへの1つの反応であり、そこからの派生でもあります。19世紀半ばには、地元の写真界は主に写真サービスを提供し、聖地（主にキリスト教の聖地）の写真を撮って巡礼者や旅行者に売っていました。

1880年以降、写真家はパレスチナ（イスラエルの地）におけるユダヤ社会の発展を記録し始めました。土を耕し、都市や町を建設する開拓者たちを英雄として撮影し、近代的な世俗的イデオロギーを抱いて、特別な大儀のために写真を利用しようとする顧客（ユダヤ民族基金など）の要件を満たしました。

多数の才能あるフォトジャーナリストがイスラエルの初期

の発展の様子を忠実に記録しています。ティム・ギダル、ダビッド・リュビンガー、ベルナー・ブラウン、ボリス・カルミ、ゼブ・ラドバン、ダビッド・ハリス、ミハ・バルアムなどは今も現役として活動中です。「記録媒体としての写真」と「芸術写真」の目に見えない境界線を超えた写真家もいます。例えば、肖像写真専門のアリザ・アウエルバツハ、ニール・フォルバーグ、ドロム・ホルヴィッツ、自然写真専門のシャイ・ギノット、水中写真家のダビッド・ダロム、航空写真専門のドゥビ・タルとモニー・ハラマティなどです。

写真作品の展示に適した場所がイスラエルには幾つかあります。なかでも、キブツ・アイン・ハロッドのミシュカン・レ・オマヌートで行われる写真のビエンナーレや、北ガリラヤのテル・ハイにある新しい写真博物館が有名です。

最近では、純粋な芸術媒体として写真が認知されるようになったため、多数のクリエイティブな写真家が現れ、国内外のギャラリー、博物館、学芸員、コレクターの積極的な支援を受けています。こうした写真家の中で最も有名なのは、アディ・ネス（1966年生まれ）です。クルディスタンとイランからの移民の一家の一員



アディ・ネス



写真提供：ベザレル美術学校（エルサレム）

としてキリヤット・ガットで生まれたネスは、1990年代に Soldiers という作品で話題をさらいました。このシリーズ作品は、国民性の問題、特に同性愛のイスラエル人男性のアイデンティティを二面的に深く洞察しています。また Bible Stories という作品では、聖書の登場人物が煩雑な現代社会の中でホームレスの貧困者として表現されており、イスラエル社会が社会主義的な価値観から近代の資本主義的生活様式に移行していることを訴えています。サザビーズのユダヤ・イスラエル芸術の年間販売において26万4,000ドルで販売されたネスの作品（「最後の晩餐」をテーマにした作品）は、イスラエル芸術の世界的評価の転換点になったと評価されています。

バリー・フライドレンダーの写真は、何十、時には何百もの写真が継ぎ目なく組み合わせられて、驚くほどの正確さ、明確さ、洞察力でひとつのイメージを表しています。2007年の個展 (Place and Time) では、現代イスラエルの状況を描いた最近の作品が展示されました。東エルサレムのカフェでの男だけの集まりや、毎年恒例の巡礼に出た敬虔な超正統派のユダヤ教徒、ガザ地区からのイスラエル定住者の強制退去などが写し出されています。この展示会は最初にテルアビブ美術館で開催された後に、ニューヨーク近代美術館でも、同美術館におけるイスラエル人芸術家の初の個展として行われました。

博物館

イスラエル国内には約200の博物館があり、年間で数百万人が訪れています。大小様々な博物館が都市や町、キブツにあり、考古学、民族誌学、地元の歴史、古代・近代芸術、原始的・高度な工芸品の様々な価値ある作品を保管しています。

エルサレムの**イスラエル博物館**は、イスラエルの国立博物館として1965年に創設されました。複数の主要展示セクションに分かれており、ベザレル美術ユダヤ民族誌学博物館の展示品を集めたセクション、様々なディアスポラ（離散ユダヤ人）社会の典型を表す物品、アートギャラリー、時代別の展示室、アフリカ、南北アメリカ、オセアニア、極東の芸術品を集めたセクション、先史時代から15世紀までの工芸品を集めた考古学スペース、60を超え



写真提供：イスラエル博物館（エルサレム）

る作品が展示されている彫刻の庭、希少価値のある聖書の文献(死海文書など)を集めた書庫、ギャラリー、教室、ワークショップなどがあり、様々な教育プログラムが実施される若者用のスペースもあります。更に、地域の出土品を集めた東イスラエルのロックフェラー博物館、アラブの子供たち向けのプログラムを実施している東エルサレムのパレイ・アートセンター、そしてエルサレムの中心地にある100年前の豪邸をアートギャラリーとカフェに改造したティコ・ハウスも運営しています。こうした施設では印象的な特別展示会が定期的に行われ、レクチャー、ワークショップ、映画の上映や室内コンサート、アートクラスまで様々な活動が行われています。

次の数年間、イスラエル博物館は8,000万ドルをかけて改修される予定です。この複数年の改修計画によって新たに8万平方フィートのスペースが作り出され、20万平方フィートのギャラリースペースがリニューアルされます。イスラエル博物館は、創設45周年に間に合うように2010年5月の工事完了を目指しています。



テルアビブ美術館 (1932年創設)の現在の建物は1971年に開設されたもので、古典芸術作品と現代芸術作品の両方(特にイスラエルの作品)を集めたセントラルギャラリーと、若者向けのスペース、定期的リサイタル、室内コンサート、芸術映画の上演が行われる講堂、特別

展示会の開催される多数のホールがあります。ヘレナ・ルビンスタイン・パビリオン・オブ・モダンアートも、テルアビブ美術館の傘下です。

キブツ・エイン・ハロッドの北部にある**ミシュカン・レ・オマヌット**（＝「ホーム・オブ・アート」、1934年設立）はイスラエル初の地方博物館であり、またキブツ運動の初の美術館でもあります。ユダヤの絵画、彫刻、民芸品を世界中から幅広く集め、特別展を開催したり、様々な教育プロジェクトや芸術研究を行ったりしています。



ハイファ博物館（1949年創設）には2つの美術館があります。古代美術館には、イスラエルや地中海流域の出土品が展示されており、近代美術館（1951年設立）には世界中の芸術作品（18世紀中期から現代の作品まで）が集められています。また先史博物館、国立海洋博物館、ティコティン日本美術館もハイファ博物館の傘下にあり、それぞれに小さいながらもよく整備されたスペースで特別展、常設展を行っています。



ラマット・アビブの**エレツ・イスラエル博物館**（1953年設立）は、地域の考古学的、人類学的、歴史的な発掘品を包括的に保管しており、ガラス作品、陶磁器、硬貨、銅などの作品のパビリオンや、プラネタリウムで構成されています。「人類とその作品」のセクションには、機織り、宝石や陶



磁器の製作、穀物の粉挽き、パン焼きの古代の方法が実演展示されています。文明を表す12の地層が見つかったテル・カシレもその敷地内にあります。またテルアビブの中心に位置するテルアビブ・ヤッファ歴史博物館やインディペンダンスホール(1948年に独立宣言が出されたホール)も、エレッツ・イスラエル博物館の傘下です。



エルサレムの**L.A.マイエル・イスラミックアート・インスティテュート**(1974年設立)では、スペインからインドまで、千年に及ぶイスラム芸術の陶器、織物、宝石、儀式の道具などを常設展示しています。また特別展も開催しています。



ベイト・ハ・トウツォット(ディアスポラ博物館、1978年設立)は、テルアビブ大学内にあり、世界中の離散ユダヤ人社会の長年の歴史を、近代的な技術や視聴覚表示を用いて展示しています。この非芸術系の博物館では展示品をテーマ別に並べており、各フロアに研究スペースが設けられています。ユダヤに関する特別展、ユダヤの歴史を視聴覚的に紹介するコーナー、本格的な教育文化プログラム、回覧展なども定期的に行われています。また同博物館のウェブサイト(www.bh.org.il)では、ユダヤの生活や遺産全般に関するアドバイスや指導を受けることができます。



ダビデの塔エルサレム歴史博物館(1988年設立)は、第

一神殿時代(紀元前960~586年)の発掘品や、ハスモニア王朝時代(紀元前1世紀)の塔や市壁の一部、ヘロデ王(紀元前37~4年)が建造した巨大な塔の基礎部分が残されている。歴史的考古学的に重要な城壁地区に位置しています。この非芸術系の博物館は、4,000年に及ぶエルサレムの歴史を、カナンの都市としての始まりから近代まで紹介しています。展示品は時代別に並べられ、展示室には各時代の主要な出来事を紹介する年表が掲示されています。また地図、ビデオテープ、ホログラム、図表、模型などを使った展示もあります。更に、彫刻、オブジェ、その他の作品を展示するのに適した美しい環境を利用して、必ずしも歴史とは関係のないテーマで特別展も行われています。

エルサレムの**ヤド・バシムホロコースト記念館**は、ホロコーストで命を落とした600万人のユダヤ人のことを記憶に留めるための記念館です。2005年に改修・増築されたこの記念館には、新ホロコースト歴史博物館(ホロコースト犠牲者の記念館内)、ホロコースト美術館、展示パビリオン、諸国民の中の義人アベニュー、保存館、強制収容所名の書かれた慰霊館、児童祈念パビリオン、「破壊されたコミュニティーの谷」などの施設があります。モーシェ・サフディーによって設計されたこの記念館は、感覚的、感情的、知的経験の全てを訪問者に提供することを目指しています。



考古学

イスラエルの地での考古学的調査は、19世紀の中期に聖書学者が聖書に描かれた場所の遺跡を探して地域の調査を行ったことから始まりました。19世紀末と特に20世紀以降に、古代の居住地の遺跡を含む古墳が多数発掘され、科学的な考古学的調査の基礎が築られました。

英国委任統治時代(1917~1948年)に考古学の活動が活発化し、イスラエル建国後は更に大規模化しています。

発掘の経験を通して層位学的な研究の手法が形成され、地層や遺跡の年代を特定するための陶器その他の工芸品の形態の発展に関する慎重な研究(類型学)が行われるようになりました。最近では考古学的研究の範囲が更に拡大され、古代の物質文化のあまり知られていない側面(栄養、病気、経済、商業)も対象に含められています。こうした近代考古学研究の成果は、毎年発掘が行われている多数の場所で活かされています。

イスラエルの考古学には、国の過去の歴史の全て(先史時代からオスマントルコの支配が終わるまで)の体系的な調査が含まれています。遺跡が多数発掘されていることは、イスラエルの地に多数の文化がその歴史を刻んできたことの証明であり、イスラエルの地に特有の地理

的特徴が古代文化に影響を及ぼしています。何万年も前には、イスラエルの地はアフリカから欧州へと狩人隊が渡る陸地の橋の役割を果たしていました。こうした狩人たちの野営地や居住地区の遺跡が、ヨルダン渓谷やカルメル山脈、ガリラヤ地方で見つかっています。

聖書時代には、イスラエルの地は肥沃な三日月地帯(メソポタミアー現イラク)とエジプトを結ぶ橋の役割を果たしていました。アレキサンダー大王がこの地を征服して以来、東西の地理的、文化的架け橋ともなっています。

イスラエルの考古学研究では、イスラエルが偉大な一神教の宗教の精神的な遺産を受け継ぐ地であるという事実が非常に重視されています。特に、ユダヤの民、聖書、イスラエルの地の歴史的なつながりを明らかにし、父祖の地におけるユダヤ民族の文化的遺産の証を示すことを目



Beit She'an
 発掘現場の航空写真
 ・
 イスラエル考古学庁

指しています。土から掘り出された目に見える遺跡は、イスラエルのユダヤ民族の過去、現在、未来を物理的につないでいます。

この歴史の連綿たるつながりは、イスラエル国中で見ることができます。ハツォール、メギド、ゲゼル、シヨムロン、ベエル・シェバ、ダンなどの聖書の都市や、第二神殿時代の都市（ティベリア、セツポリス、ガマラなど）、ユダヤ人が自由を求めて戦ったマサダやヘロディンの要塞、エッセネ派の精神的中心地の遺跡や聖書の初期の書物を含む死海文書が発掘された死海近くのユダヤ砂漠など、至るところで遺跡が見つかっています。またイエスの生涯と関係のある同時代の遺跡（カペナウム、タブハ）も発掘され、ビザンツ帝国時代の教会も残されています。

テル・ミクネ・エクロンの発掘現場

イスラマン



カエサリア、ペイト・シェアン、パニアスのローマ時代、ビザンツ帝国時代の偉大な都市の遺跡が発掘され、その当時栄えていたアブダット、ハルツァ、マムシットのネゲブの町々も発掘されました。ムスリムの時代の遺跡としては、ラムレの古代都市の遺跡やエリコのヒルバト・アルマフジャーレ（ヒシャム・パレス）があります。また十字軍時代の遺跡には多数の要塞や町（アッコ、カエザリア、ベルボワル、カラット・ニムロッド）が含まれています。

イスラエルの首都エルサレムは広範な考古学活動の中心地であり、5,000年の歴史の遺跡が発掘されています。「ダビデの町」には、カナンの市壁やイスラエルの英国委任統治時代の遺跡（高度な下水道システムなど）があり、また第二神殿時代の遺跡には、テンプルマウントの擁壁沿いの公共建築の遺跡、今日の旧市街のユダヤ地区の山の手の素晴らしい住居遺跡、紀元70年にローマ人がエルサレムを破壊した時のままの状態に残されている遺跡、更に破壊された都市の富を示す、一部に豪華な装飾を施された多数の岩墓、ビザンツ帝国時代の多数の教会と宗教建築（特に聖墳墓教会）、ムスリムの支配時代のテンプルマウントのモスクと政府センター（テンプルマウントの南方で発掘）、十字軍時代の市壁、教会、屋根付きの市場、マルムーク朝やオスマントルコ帝国時代の旧市街の空高くそびえる尖塔があります。旧市街の壁やヤッファ門に隣接する城砦は、オスマントルコ帝国のスレイマン大帝（1520~1566年）の統治時代に建造されたものです。



ディオニソス像
 ・イスラエル考古学庁

イスラエルには、法律で保護されている発掘地区が20,000箇所もあります。毎年、歴史のあらゆる時代の名残を示す

国内の発掘地区で発掘作業が行われています。発掘の許可は、イスラエルの遺跡の保存を任されているイスラエル考古学庁が国内外の発掘隊に発行しています。イスラエルの法律（遺跡保護法）は、全ての建設予定地において遺跡がないかどうかの調査を行い、必要に応じて遺跡保存のための発掘作業を行うことを義務付けています。また国は、公益のある発掘品を保存する権限を有しています。特に重要な発掘品の一部はエルサレムのイスラエル博物館で展示されています。同博物館の書庫には死海文書が保管されており、市民はその一部を見ることができます。

古代の遺跡の保存と復元には多数の労力と資源が費やされており、あらゆる時代の多くの遺跡が公開されています。

報道機関

イスラエル人にとって、イスラエル、中東世界、そして世界で起きている出来事について常に情報を得るとは非常に重要です。そのため大半のイスラエル人は、1時間毎に放送されるラジオニュースを聞いたり、テレビのニュース番組を見たり、最低一紙の新聞を読むことを日課としています。

イスラエルでは、全ての通信メディアに報道の自由が保証されています。ただし国家安全保障上の問題に関しては検閲の行わる場合があります。多数のヘブライ語の日刊新聞が発行されており、そのうえ複数のロシア語とフランス語の新聞が発行されています。英字新聞は2紙あり、長い伝統のあるエルサレムポスト(前パレスチナポスト)と、イスラエルの主要紙の1つであるハアレツの英語版が、インターナショナル・ヘラルド・トリビューンとの協力によって発行されています。加えて専門雑誌など1,000種を超える定期行物が出版されています。大半の主要出版物にはインターネット版もあります。

ラジオとテレビ

コール・イスラエル(「イスラエルの声」)は8つのラジオネットワークを運営しており、演芸、ポピュラー音楽から教養番組、パネルディスカッション、クラシック音楽などを17言語で様々なリスナー(子どもから高齢者、新移民から古参

のイスラエル人まで)を対象に放送しています。ガレイ・ツアハルとガルガラツ(イスラエル国防軍のラジオ局)は、ニュースや音楽、特に兵士の関心を引く番組を24時間放送しています。また外国語の短波放送もあり、イスラエルや中東、ユダヤ問題に関する信頼できる情報を外国のリスナーに提供しています。

イスラエルのテレビ放送は1967年に始まりました。現在は2つの国営チャンネルで、教育、情報、娯楽番組がヘブライ語、アラビア語、英語で放映されています。1994年に開設された民間の地方局は3部門に分かれており、毎日数時間は教育番組を放映しています。月間視聴料で運営されているケーブルテレビを国のほとんどの地域で視聴可能であり、アメリカ、欧州、アジア、中東の多数の番組を受信できます。また独立系のイスラエルのケーブル局は、スポーツ、子ども番組、映画、ドキュメント作品を放映しています。

コール・イスラエルと国営のテレビ局は、法律(1965年イスラエル放送協会法)に従って、イスラエル放送協会(IBA)の傘下に置かれています。この法律は放送を、「様々な視野から表現する責任を課された独立の政府サービス」と定義しています。IBAは、政府によって3年を任期として任命される理事会と、5年を任期とする理事長管理します。IBAの放送は、ラジオのコマーシャル、公示サービス、視聴者からの年会費を財源としています。

スポーツ

イスラエル建国から59年の間に、イスラエルの国内外の発展にスポーツが果たす役割の重要性が高まっています。イスラエルは人口が少ないにもかかわらず、テニスのスター選手のシャハー・ピーアやサッカー選手のヨッシ・ベナヨンなど、常に世界にインパクトを与えるトップアスリートがいます。イスラエルのスポーツチームも外国で成功しています。特にマカビー・テルアビブ・バスケットクラブは、過去10年間、欧州の最強チームの1つとされています。イスラエルのナショナルチームも強化されており、サッカーやバスケットのチームが良い成績を上げています。



写真提供: イスラエルオリンピック委員会

プロの世界以外でも、多くのイスラエル人にとってスポーツは重要な余暇の過ごし方となっています。西側国境付近には数マイルにわたって美しい海岸線が伸びていることを思えば、人口の約半数の人々が定期的に泳ぎに行くのも不思議ではありません。また何ヶ月も続く温暖な気候のため、アウトドアスポーツが盛んです。若者は、幼い頃から様々なスポーツ競技を楽しんでいます。

バスケットボールとサッカー

イスラエルでは、バスケットボールと同様にサッカーが最も人気のあるスポーツです。プロサッカーリーグは最高の一次リーグで12チームが戦っており、メディアに細かく取材され、試合には20,000人に及ぶファンが訪れています。マカビー・ハイファの無敵の時代が5年間続きましたが、その地位は2007年5月に9年ぶりに優勝を飾ったベタル・エルサレムに取って代われようとしています。イスラエルのサッカーチームは、欧州の選手権でも優れた成績を残し続けています。特に長年にわたってマカビー・ハイファとハポエル・テルアビブは目覚ましい活躍を見せており、ハポエルは2002年のUEFAカップではイングランドの名門チェルシーを打ち破って準々決勝まで進みました。またマカビーは、2003年にチャンピオンズリーグのグループステージに到達し、そのシーズンにはマンチェスター・ユナイテッドに勝利しています。

ナショナルサッカーチームは、2007年3月にラマット・ガンで行われたユーロ2008予選でイングランドと0対0で引き分け、また2006年ワールドカップ予選で見事な戦いをしたことから、より多くの尊敬を集めています。イスラエルのサッカー選手は国際的にも存在感を増しており、3人の選手がイングランドのトップクラブでプレーしています。2007年の夏には、イスラエルのキャプテンを務めるヨッシ・ベナヨン選手がリバプールFCに移籍し、

またディフェンダーのタル・ベン・ハイムもチェルシーに入団しました。

バスケットボールでは、マカビー・テルアビブがイスラエルの「キング」の座に就いており、過去37年間で36回も地元のプレミアリーグで優勝しています。その主なライバルチームはハポエル・エルサレムですが、ハポエルは2006年と2007年に、プレイオフ・ファイナルでマカビーに敗れています。欧州では、マカビーは2004年と2005年にユーロリーグで優勝、2006年には決勝に進みましたが、2007年にはベストフォーを4年ぶりに逃しました。ハポエル・エルサレムも欧州で成功を収めており、2005年にはULEBカップで優勝しました。ナショナルバスケットボールチームも信頼を集めています。2007年8月には1993年から参加しているユーロバスケット選手権大会の予選を勝ち上がりました。

イスラエルでは女子バスケットボールも盛んであり、2つのチーム(エリツール・ラムレとアンダ・ラマツ・ハシャロン)がリーグのタイトルをかけて戦っています。またこれらのチームは欧州の試合にも参加しています。シャイ・ドロン選手は、2007年にアメリカのプロバスケットチーム(WNBAのニューヨークリバティ)でプレーする初のイスラエル人となり、イスラエルの全国民に感動を与えました。



テニスプレーヤーのシャハー・ピアールとエルサレムの首相府で会見するエフード・オルメルト首相
G.P.O./A.オハイオン

テニス

近年、イスラエルのテニス選手は世界最大トーナメントに常に登場しています。まだ10代のシャハー・ピアールは、2006年に世界ランキングトップ20に入り、世界中のWTAのランキングトーナメントで良い成績を収めました。ダブルスを組むアンディ・ラムとヨニ・エルリッヒも世界最高

のペアの仲間入りをし、過去2年間は世界のトップ10に名を連ねて、ラストシーズンにはマスターズカップ出場を果たしました。ラムはミックスダブルスの試合でも優れた成績を残しており、グランドスラム大会では、2007年のフレンチオープンをフランス人選手のナタリー・デシーと組んで制し、2006年のウィンブルドンはロシア人のベラ・ズボネラバと組んで勝利しています。

世界ランキングのトップ100に入る男子テニスプレーヤーはいませんが、イスラエルのナショナルデビスカップチームは印象深い戦いを繰り広げています。2007年9月には、ラマット・ハシャロン・テニスセンターで5,000人のファンを前にチリに驚くべき勝利を収め、13年ぶりにワールドグループに到達しました。

ウインゲイト・インスティテュート

イスラエルのスポーツの成功と発展に欠かせないのが、

体育学校(ウインゲイト・インスティテュート)の存在です。ナショナルスポーツセンターとしてイスラエル中部のネタニヤ市の近くに敷地を所有し、才能ある若い体育学生のエリート校や、スポーツ医学部(この分野では世界のリーダー)を備えています。ウインゲイトに本拠を置くスポーティング・エクセレンス協議会が、フルタイムトレーニングの奨学金を受けるにふさわしい才能溢れるアスリートを選別しています。多数のイスラエルのスポーツ選手(ピアールラム、エルリッヒなど)が、ウインゲイトでそのスポーツのキャリアをスタートさせた後に成功を収めています。

科学文化スポーツ省のスポーツ局が、インストラクターやコーチの研修費用を提供し、様々なスポーツの連盟や組織の活動を調整したり、プログラムの開発を支援したりして、イスラエルのあらゆるスポーツ活動を監督しています。

若者のスポーツ

スポーツは無論、特別に才能のある人だけのものではありません。イスラエルでは早期からスポーツ文化が発展し、若者は早い時期からスポーツに参加してフィットネスや健全な競争心を高めるよう奨励されています。毎週、多数のイスラエルの若者がサッカーやバスケットボール、カヤック、セーリング、ロッククライミングなどの試合やプレーをしています。

多数の主要なスポーツ組織が、国内でスポーツクラブのネットワークを運営しており、また主なスポーツチームと連携しています。特に有名なのが、マカビー（1912年創設）、ハポエル（1923年）、ベタール（1924年）、エリツツール（1939年）、及びアカデミック・スポーツ・アソシエーション（ASA、1953年設立）です。学校やコミュニティーセンターもローカルリーグや地元大会を開催しており、バスケットボールやサッカーの全国学校大会はテレビで中継されています。

趣味としてのスポーツ

イスラエルはスポーツ好きの国です。週末には国中の公園の屋外コートでバスケットボールを楽しむ人、通りをジョギングする人、公園でサッカーをする人の姿が見受けられます。また海辺のスポーツも盛んです。イスラエルは世界で最も有資格のスキューバダイバーの比率が高く、5万人が紅海のユニークな海洋生物に魅せられてダイバーの資格を取っています。ウィンドサーフィンや水上スキー、「パドルボール」（地元で開発されたビーチゲームで、ラケットを使って空中でボールをやり取りする）も人気があります。

海辺のスポーツ以外に、マラソンも人気のあるスポーツです。ティベリアからスタートして北部のキネレット湖を1周しティベリアに戻るというマラソンが毎年行われてお

り、このレースには多数の市民が参加しています。またトライアスロンの催しにも多くの参加者がいます。サイクリングも大変人気があり、カエサリアのゴルフコースでは現在再開発が計画されています。冬には北部のヘルモン山が地元スキーヤーで賑わいます。その他にも、卓球、ボクシング、レスリング、ウェイトリフティング、柔道、空手、クラブ・マガと呼ばれる護衛術（イスラエル国防軍が開発）も人気があります。チームスポーツでは、バレーボールやハンドボールが盛んで、プロリーグもあります。

オリンピックとマカビア競技会

イスラエルは、オリンピックでも誇れる成功を収めてきましたが、2004年までは金メダルの獲得数はゼロでした。2004年のアテネ大会のウィンドサーフィン競技でガル・フリッドマンが優勝したことで、歴史は変わりました。またアリック・ゼエビもアテネ大会の柔道競技で銅メダルを獲得しました。それまでのメダリストには、ヤエル・アラドとオレン・スマジャ（1992年バルセロナ大会の柔道競技でそれぞれに銀メダル、銅メダルを獲得）、ミハエル・カルガノ



フ(2000年シドニー大会のカヤック競技で銅メダル)が名を連ねています。棒高飛びのアレックス・アベルブフは、オリンピックではまだメダルを獲得していませんが、1999年と2001年の世界陸上競技選手権大会で銅メダルと銀メダルに輝いています。更に、2002年の欧州陸上選手権では金メダルを手にしました。2007年世界セーリング選手権大会で銅メダルを獲得したウディ・ガルとギディ・クリガーは2008年の北京オリンピックの470クラスに出場し、メダルを取ることを目指しています。

4年に1度、イスラエルではイスラエル版オリンピック(マカビア競技会)を開催しています。1932年の開始以来、世界中からユダヤ人選手が集まって開かれています。これは国際オリンピック委員会が認めた世界に僅か7つしかない世界大会の1つです。参加者はサッカー、バスケットボール、卓球、ネットボールなどの競技で戦い、ラマット・ガンのナショナルスタジアムで行われる印象的な開会式にも出席します。多くのユダヤ人のトップアスリートがマカビーで名声を築きました。1972年のオリンピックで前人未到の7つの金メダルを獲得したアメリカ人スイマーのマーク・スピッツや、2004年のアテネ大会に出場したレニー・クライゼンバークなどです。

新しいスポーツ

イスラエルにもたらされた最も新しいプロスポーツは、野球です。イスラエル野球リーグ (IBL) が2007年6月にスタートし、6つのチームが3つの野球場で試合を行っています。120名の選手 (大半は外国人ですがイスラエル人も含まれています) は2ヶ月のシーズンを戦い、キブツ・ゲゼル、パタハ・ティクバのヤルコン・パーク、テルアビブのスポルテクの試合には多くの観客が詰め掛けました。モディイン・ミラクルとパタハ・ティクバ・パイオニアズの開幕戦は3,000人以上が観戦し、地元のテレビ局で中継されています。また2,000人以上の人々が、元メジャーリーガーのロン・プロムバーグが監督を務めるベイト・シエメッシュ・ブルーソックスがモディインをプレイオフで破ってIBLの初代チャンピオンに輝いた2007年8月の試合を観戦しました。

英語を話す移民たちによって、他にも様々な新しいスポーツがイスラエルにもたらされています。ソフトボール、クリケット、アメリカンフットボールなどです。イスラエルは、インドからの移民に促されて国際クリケット協会 (ICA) に加盟し、また南アフリカからの移民はラグビーとローンボウリングをイスラエルに持ち込みました。イスラエルの男子ローンボウリングチームは、世界のベストチームの1つとなっています。アメリカンフットボールリーグにも多数のチームが加盟し、「ホーリーランドボウル」の獲得を目指して戦っています。

障害者スポーツ

イスラエルは障害者スポーツでも成功を収めており、障害のあるアスリートに研鑽の機会を提供し、パラリンピック大会での複数のメダル獲得を導いています。2004年のパラリンピックアテネ大会には24人のイスラエル人選手

が、自転車、乗馬、水泳、射撃、セーリング、アーチェリー、陸上、卓球、テニスの競技で参加しました。3人のセーリング選手は混合ソナー競技で金メダルを獲得し、イスラエルの水泳選手たちは合計で金メダルを1つ、銀メダルを4つ、銅メダルを3つ手にしました。ケレン・レイボヴィッツはイスラエルで最も有名なパラリンピック選手であり、2000年のシドニー大会の水泳競技で3つの金メダルを、世界選手権でも3つを、欧州選手権では5つを獲得しました。

イスラエル障害者スポーツ協会 (ISAD) は、野球、テニス、バレーボール、バドミントン、卓球、射撃、乗馬、アーチェリー、水泳、セーリングなど多数の分野で広範囲の活動を行っています。障害を持つ陸軍退役軍人のためのスポーツ・ベイト・ハロヘム・クラブや、傷害、疾病による障害者のためのイラン組織も、様々な活動を展開しています。

イスラエル



イスラエルの国際文化交流

イスラエルの国際文化交流は、広範囲の分野（言語、文学、芸術、メディア、スポーツなど）で国際協力を重視して行われています。多数の諸国との文化協力や70を超える諸国との文化協定によって、学生や学者の交換プログラムや、舞踊団、劇団、アート展示会、音楽家、オーケストラによる相互の公演ツアー、ブックフェア、映画祭、スポーツ大会への参加、言語や文化の伝統の紹介などが行われています。

国際関係

北米	326
中南米とカリブ海諸国	331
西欧	333
中欧とユーロアジア	334
アフリカ	336
アジア太平洋地域	338
中東と北アフリカ	340
ローマ法王庁	347
国連	349
世界のユダヤ人	351



ニューヨーク国
連本部にはため
く国旗

・
S.アズラン

国際関係

イスラエル国は1949年以来、国連加盟国として世界の大半の諸国との関係を維持しています。何世紀にもわたる迫害の記憶、ホロコーストの衝撃的な経験、そして何十年にも及ぶアラブ・イスラエル間の対立を教訓に、イスラエルはその外交政策において地域平和の促進を訴え、国家安全保障を確保しつつ、あらゆる諸国との協調を図っています。

...אדיר חפצה של ישראל לקיים יחסים תקינים עם כל המדינות,

עם ממשלותיהן ועם עמיהן... (דוד בן גוריון, תשי"ג)

「イスラエルは、全諸国、その政府、及び国民と良好な関係を維持することを強く希望する」(ダビッド・ベンゲリオン、1952年)



北米

米国

1948年5月14日のイスラエル独立宣言の11分後に、ハリー・S・トルーマン米国大統領が新国家を認める宣言を出しました。これが、共通の価値観に基づき深い友好と相互の尊重を特徴とする二国間関係の始まりとなりました。両国は自由を伝統とする政治や法律の制度を持つ活力ある民主主義国家であり、共に開拓者の国を起源として今も新たな移民を受け入れ続けています。友好国、同盟国として相互の違いを認め合い、時には「合意しないことに合意」しています。

米国は、イスラエルとの外交・政治関係を進展させるのと同時に、その他の西洋諸国と共に中東への武器輸出禁止にも乗り出しました。そうすることで地域の緊張が大幅に緩和されると考えたからです。1952年以降は、アイゼンハワー政権が中東安全保障条約の締結に向けてアラブ支持へと向かったために、トルーマン政権のイスラエル偏重からの大きな転換が始まりました。ワシントンとエルサレムの関係が再び緊密化したのは、ガマル・アブドゥル・ナセルエジプト大統領の政策に米国が幻滅を抱いた後、すなわち1950年代後半になってからでした。ケネディ政権時代には、武器の供給に関する米国のそれまでの政策が撤回され、武器禁輸が解除されました。

1960年代後半のジョンソン政権後期以降の米国は、そのイスラエル外交の基盤として、近隣アラブ諸国との直接交渉によって確保された安全な国境内でのイスラエルの存在権を常に支持しています。

「強いイスラエル」が、地域平和の達成に不可欠であるとの信念から、米国はアラブ軍に対するイスラエルの質的優位性の維持に取り組んできました。ニクソン政権とカーター政権は、イスラエルとエジプト、イスラエルとシリアの間の停戦合意(1973~1974年)、キャンプデービッド合意(1978年)、及びエジプト・イスラエル平和条約(1979年)の締結を支援しています。

レーガン政権時代、イスラエルと米国の関係は栄えただけでなく、より公式かつ具体的な内容で文書化されました。過去の取決めに加えて覚書が締結され(1981年と1988年)、様々な共同計画・協議機関設立の基盤が作られ、それによって民事、軍事の両面において実際的な合意がなされました。こうした相互協力の枠組みは、後により広範な覚書へとまとめられました(1988年)。

第一次ブッシュ政権は、イスラエルの和平への取り組みを支持し(1989年)、マドリード和平会議を共同支援し(1991年)、ワシントンD.C.での和平協議召集へと導きました。

クリントン政権は、中東和平プロセスにおいて重要な役割を果たしました。同政権は、イスラエルとパレスチナ人の合意、イスラエルのヨルダンとの平和条約やシリアとの交渉、地域協力促進の努力を、アラブのボイコット終結などを含めて積極的に支援したのです。またイスラエルの質的優位性を維持するために、イスラエルが和平プロセスで被る恐れのある安全保障上のリスクの最小化に努めることも表明しました。

ジョージW.ブッシュ政権は、イスラエルのテロに対する戦いの再開の鍵を握る重要な政策を幾つか実行し、イスラエルは、イスラエルとパレスチナ人の和平達成に向けたブッシュ大統領の構想を支持しています。

イスラエルと米国の友好が継続し、緊密化していることは、歴代の米国政権が様々な言葉で表明しています。例えば、イスラエルとは「特別な関係」にあることを強調し、イスラエルを米国外交政策の「基本理念」とするとの表明がなされたり、イスラエルに対するアメリカの支持宣言が出されたりしています。1980年代初頭までに、イスラエルは米国から「戦略的資産」と見なされるようになり、1987年には前年に可決された法律に従って、「非NATOの主要同盟国」に指名されました。

米国議会は、イスラエルを超党派的に支持しています。

米国議会による年間の軍事援助、和平プロセスやイスラエルのテロとの戦いへの支援は、エルサレムをイスラエルの統一の首都であり、米国大使館をエルサレムに設立すべきだとする法律の可決(1995年)とともに、両国の友好関係に対する議会の最大の支持表明となっています。「特別な関係」は、経済的、政治的、戦略的、外交的問題の全てを包括しています。イスラエルは現在、安全保障と経済援助を目的として約26億ドルを米国から受け取っており(経済援助は、2008年まで毎年1億2,000万ドルずつ減額され、その後は軍事援助費として総額24億ドルを受け取りまる)、二国間貿易は、自由貿易地域協定(1985年)の締結によって促進されています。



コンドリーザ・ライス米国務長官と**ツィピ・リブニ**外相
・
イスラエル米国大使館/マツティ・スターン

イスラエルと米国の企業の合併事業数が拡大しており、米国の複数の州がイスラエルとの間で、文化から農業に至るまで様々な活動に関する「国家間」協定を結んでいます。

米国は通常、国際舞台でイスラエル寄りの立場を取っており、国連やその他の関連機関における反イスラエル決議採択の動きを阻止しています。両国は、互恵的に諜報・軍事情報を交換し、国際テロや麻薬撲滅運動においても協力を行っています。米国とイスラエルの友好関係は、米国

のユダヤ人社会やより広範なアメリカ人社会からの支持によって推進されています。

カナダ

カナダは1949年にイスラエルを正当な国として認め、その後両国は共通の民主主義の価値観に基づき、また文化的科学的交流によって相互の絆を深めながら、多年にわたって完全な外交関係を維持してきました。

カナダとイスラエルの経済関係は、自由貿易協定(CIFTA)の実施によって緊密化しています。

国際舞台では、カナダは様々な国連会議全般でイスラエル寄りの立場を取ることによって、イスラエルへの支持を表明しています。

中南米とカリブ海諸国



1947年11月29日に国連総会は、パレスチナの英国委任統治領内に2つの国家（ユダヤ国家とアラブ国家）を建国するかどうかの決議を行いました。当時の20カ国のラテンアメリカ諸国のうち13カ国が建国を支持する投票を行いました。1950年代と1960年代には、イスラエルは様々な共同プログラムへの積極的な参加を通じ、農業、医療、協同組合の設立、地方、地域、コミュニティの開発などの分野で中南米諸国にその経験や技術を伝えることによって、同地域との関係を強化しています。そして同地域からは多数の研修者がイスラエルでの研究プログラムに参加しています。1960年代、1970年代における国際情勢の進展により、主に国連やその関連組織における中南米諸国のイスラエルへの支持は低下しています。

今日、イスラエルはキューバを除く全ての中南米諸国及びカリブ海諸国と完全な外交関係を維持しています。こうした関係は、政治的、経済的、文化的領域での生産的な協力や、多数の分野での様々な二国間協定に反映されています。

商業面でも着実な進展が見られます。2000年に締結されたメキシコとイスラエルの自由貿易協定は、両国間

の貿易に新たな次元をもたらしました。化学品、ハイテク・ソフトウェア、農産品、機械、エレクトロニクスの輸出や、肉、穀類、とうもろこし、砂糖、ココア、コーヒー、金属などの輸入がともに拡大し、イスラエルの銀行、建設会社、農業計画開発会社が、中南米及びカリブ海諸国で活躍しています。

多数のイスラエル人が中南米を訪れており、特に若いイスラエル人にとっては、こうした地域を訪問することが、徴兵期間を終えた後の慣わしともなっています。

西欧

西欧は、イスラエルの最も自然な貿易相手地域です。欧州共同体 (EC) との自由貿易地域の設立 (1975年) によってイスラエルから欧州への輸出が大幅に増え、更にそれよりも多く、ECからイスラエルへの輸出が伸びました。このような貿易の拡大は、相互の企業家や投資家の事業関係の緊密化や合併会社の設立、また欧州自由貿易連合 (EFTA) 加盟国との経済的連携の強化の取り組みによって、加速されました。1995年に締結されたイスラエル・EU連合協定は2000年6月に発効し、より高度な政治的対話や経済関係の緊密化が可能になりました。1990年代中期には、イスラエルはEUの研究・技術開発枠組み計画に加わりました。2007年11月には、EU・イスラエルビジネスダイアログが双方の民間部門の理解と協力を進める目的で設立され、更に2004年12月には、イスラエルとEUの間で欧州近隣政策に基づく行動計画が調印されています。

米国と共に、ロシア、国連、EUが、和平プロセスによってアラブとイスラエルの対立を解消しようとする「カルテット」を構成しています。



エフロード・オルメルト首相とアンゲラ・メルケルドイツ首相

G.P.O./アモス・ベン・ゲルシヨム



中欧とユーロアジア

イスラエルと中東欧諸国との関係は、同諸国が民主主義を取り戻した直後に再開され、特に経済事項、文化、観光、国際協力活動の面で緊密化が進んでいます。中東欧諸国の大半はEU加盟国または加盟候補国であることから、こうした諸国との経済協定はイスラエルにとって重要な意味を持っています。

第二次世界大戦前には中東欧諸国はユダヤ人社会の中心地であったため、これら諸国との関係においては、ホロコーストの記憶が重大な要素となっています。そのため、例えば国に没収されたユダヤ人の公共・民間の財産をその所有者や法的後継者に返還するという措置や、ナチス時代に自らの命を危険に晒してユダヤ人を救おうとした「諸国民の中の正義の人」の表彰、反ユダヤ主義に対する政府間協力などが実施されています。

イスラエルのユーラシア諸国(旧ソ連)との関係は、特に政治的、経済的、文化的領域で勢いを増しています。公式訪問や新たな協定によって関係拡大の基礎が作られており、貿易や投資面の関係も目覚しく発展しています。100万人を超える旧ソ連市民が今はイスラエルに暮らしており、イスラエルとその出身国の橋渡し役として、相互の関係に特別な次元をもたらしています。

イスラエルのロシア連邦との関係は、ロシア連邦が中東の外交プロセスに(「カルテット」のメンバーとして)加わっていること、及びイランとの間でその核開発計画に関する交渉を行っていることから、戦略的に重要と見なされています。

イスラエルは、中央アジアのコーカサス諸国との関係を引き続き強化しています。この地域には、公衆衛生、高度な農業、水資源管理、砂漠化との戦いなどの分野でイスラエルのマシャブ教育計画への大きな需要があります。また他にも、ユーラシア諸国のユダヤの遺産の保存、ホロコーストの記憶の永続化、反ユダヤ主義に対する戦いも重視されています。



アフリカ

イスラエルのサハラ以南のアフリカ諸国との関係は、1950年代中期に始まりました。一部の諸国との関係は、当該諸国の独立前から続いています。イスラエルは、まず1956年にガーナと外交関係を樹立し、続いてサハラ以南の大半の諸国とも外交関係を築いて、1970年代初頭までには33の諸国と完全な外交関係を結び終えました。イスラエルは、1948年に独立を達成した若き国としての自国の経験や知識を、新たに独立したアフリカ諸国と分かち合いたいと熱望し、アフリカはこうしたイスラエルに対して友好を表明したのです。アフリカ諸国とは、多数の合併事業を含め様々な互恵的経済関係も発展しています。

1973年のヨム・キプール戦争の後に世界的なオイル危機が生じ、大半のサハラ以南のアフリカ諸国は主に2つの要因からイスラエルとの外交関係を断ちました。1つ目の要因は、アラブ諸国が安価な石油と財政援助を約したことでした。2つ目は、アフリカ統一機構(OAU)のイスラエルとの関係断絶を求める決議(エジプトの支援による決議)に従ったためでした。それでも、マラウイ、レソト、スワジランドだけはイスラエルとの完全な外交関係を維持し、また他にも少数の諸国が大使館の利益代表部を通してイスラエルとの関係を保ちました。

こうした状況下でも、アフリカとの協力関係はある程度継続されました。例えばアフリカの学生がイスラエルで研修を受けたり、またアフリカ大陸全土を対象にイスラエルからの輸出も活発に行われています。



ツイビ・リブニ外相とアフリカ諸国のイスラエル大使たち

フラッシュ90

1980年代以降、サハラ以南のアフリカ諸国との外交関係は徐々に再開され、イスラエルとアラブ近隣諸国との和平交渉が進展するにつれて勢いを増しました。1990年代後半までに、サハラ以南の39カ国との間で公式の関係が再び樹立されています。

今日では、イスラエルとサハラ以南の諸国は、国家元首や大臣の相互訪問によって継続的な政治対話を行っています。更にイスラエルは、こうした諸国との経済的商業的關係や文化学術交流、様々な共同農業プロジェクト、医療支援、専門研修プログラム、また必要に応じて人道支援などを活発化させています。

イスラエルは、アフリカの政治的経済的な統合プロセスとアフリカ連合の創設を興味深く見守ってきました。友好と団結の証として、イスラエルはアフリカの新興の機関や組織への協力を改めて表明し、アフリカ大陸との独自の関係に新たな一面を加えています。



アジア太平洋地域

イスラエルは大半のアジア諸国と外交関係を維持しています。こうした諸国の経済力の拡大と政治的影響は、政治、文化、特に経済の領域での関係の強化につながりました。科学的研究開発、地方開発、農業、及び教育の分野におけるイスラエルの技術協力は、アジアの開発途上国との関係強化に大きな役割を果たしています。

イスラエルと中国は、1992年に外交関係を樹立しました。それから両国の関係は着実に進展し、2000年の中国国家主席のイスラエルへの歴史的訪問、イスラエルの3人の大統領の北京訪問へとつながりました。

1980年代中期以降、イスラエルと日本は二国間関係を拡大しており、複数の協定を調印し、首相の相互訪問が行われています。また日本は、多国間和平プロセスでも重要な役割を果たしています。

インドとの外交関係は1992年に始まり、1990年代後期以降にあらゆる側面で強化されてきました。2003年にはイスラエルの首相が初めてニューデリーを訪問しています。また2000年にイスラエルは、スリランカとの外交関係を再開しました。

韓国との外交関係は1962年に樹立され、この数年間、あらゆる分野で関係の拡大が進んでいます。2007年には両国の外務大臣による相互訪問が行われました。

イスラエルは多数のASEAN諸国とも良好な関係を維持しています。一部のASEAN諸国（ミャンマー、タイ、フィリピンなど）との関係は50年以上も前に始まりました。カンボジアやラオスとの関係はより最近に樹立されています。またベトナムとの関係は1993年以降に特に経済、貿易、農業協力の分野で急速に進展しています。2005年には、ASEANの二カ国の外務省との間で年次の政治的対話が実現しました。

ネパールとイスラエルは1960年代初頭以降、長年にわたって緊密な極めて友好的な関係を続けています。ネパールの外務大臣は2007年にエルサレムを初めて訪問し、テルアビブに大使館を開くことを発表しました。

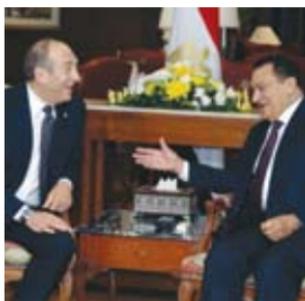
イスラエルは、オーストラリアとニュージーランドとも、長年にわたって完全な外交関係を維持しています。最近は太平洋上の12の独立国とも関係を築き、これらの諸国に多数の分野でイスラエルの経験を伝えています。



中東と北アフリカ

エジプト

イスラエルとエジプトは1979年に平和条約を結び、大きな犠牲をもたらした5つの戦争を含む30年にわたる敵対関係に、終止符を打ちました。この平和条約の調印に先立ち、エジプトのアンワル・サダト大統領がイスラエルのメナヘム・ベギン首相の招きで1977年にエルサレムを訪れ、更に1978年にはキャンプデービッド合意の署名により、イスラエルとエジプト及びその他の諸国間の平和の基盤が築かれました。この合意では、ユダ・サマリア地方（西岸）とガザ地区のパレスチナ・アラブ人居住者の5年間の暫定自治期間終了後のパレスチナ問題の解決についても取り組まれました。サダト大統領とベギン首相は、この功績を認められてノーベル平和省を共同受賞しています。



エフアド・オルメル
ト首相とホスニ・
ムバラク エジプト
大統領

G.P.O./モシエ・ミ
ルナー

イスラエルとエジプトの和平は、複数の主要な要素で構成されています。すなわち、戦争状態や交戦、敵対、暴力的行為や脅威の終結、外交的、経済的、文化的関係の構築、貿易や移動の自由に対する障壁の撤廃、合意された安全保障の取決めと軍事境界線に従ったシナイ半島か

らのイスラエル軍の撤退です。イスラエルは平和条約に基づいてシナイ半島からの撤退を1982年に完了し、平和のためにその戦略的軍事基地その他の資産を放棄しています。

この条約の調印によってエジプトはその他のアラブ諸国から排斥されましたが、その後全てのアラブ諸国がエジプトとの関係を修復し、カイロの大使館を再開しています。チュニスに移転されていたアラブ連盟の本部も、1980年代初頭にカイロに戻されました。

30年に及ぶ不信と敵対の年月を越えて、イスラエルとエジプトは大変な苦勞の末に、ようやく関係を正常化しました。大使館や領事館も相互に開設され、政府閣僚や高官による会合が定期的に行われています。

2000年9月のパレスチナ人によるテロの再発により、イスラエルとエジプトの関係は冷却し、エジプトはその駐イスラエル大使を国に召還しました。(2005年には大使は再びイスラエルに戻されました。)ただし、その間も貿易と協力関係は続き、共同軍事委員会の会議も定期的に行われ、イスラエルのガザ地区からの撤退にエジプトが協力したことから、二国間関係は改善されました。

ヨルダン

ヨルダンとイスラエルの平和条約は、アカバ・エイラット国境で調印されました(1994年10月)。その3ヶ月前に、フセイン国王とイツハク・ラビン首相がワシントンで会談し、両国間の戦争状態を終わらせる宣言を出しています。



エフード・オルメ
ルト首相とヨル
ダンの**アブドル2**
世国王

G.P.O./アモス・ベ
ン・ゲルシヨム

事実上46年にわたって戦争状態にあったイスラエルとヨルダンは、実はその間も非公式に契約を交わし、互恵的協定を締結していました。

1991年のマドリード中東和平会議によって公の場で二国間協議が行われ、遂に1994年に両国は、公式の停戦条約を締結するに至りました。双方ともに暴力的脅威を領土内で起こさないこと、テロ防止を図り、軍事即応態勢を信用醸成手段に置き換えることによって中東の安全保障と協力を共同で達成することを目的とした停戦条約でした。その他にも、既存の水源地の割当てに関する合意や、両国民の通行の自由、難民問題の緩和に向けた努力、ヨルダンリフト渓谷開発における協力などが定められました。1949年の停戦合意ラインに代わるものとして、英国委任統治時代(1922~1948年)の境界線を参照して決定された国際国境線も示されています。

この平和条約の批准によって完全な外交関係が樹立され、それ以降イスラエルとヨルダンの関係は着実に前進しています。

イスラエル・ヨルダン平和条約は、経済的、科学的、文化的領域における12の二国間協定の締結と批准を基盤として調印されました。これらの協定が、イスラエルとヨルダンハシミテ王国の和平関係の基礎を築いたのです。両国間の和平にとって特に重要なのが資格産業区域(QIZ)の設立であり、これによってヨルダンは、イスラエルを介して無枠、無関税で10億ドル以上の商品を米国に輸出できるようになりました。

1999年3月に父親であるフセイン国王の後を継いだアブドル2世国王は、2000年4月にイスラエルを訪問しています。

領土内でのパレスチナ人によるテロの再発(2000年9月)によって、イスラエルとヨルダンの関係は冷却し、ヨルダンは駐イスラエル大使を召還しました。その後、関係は徐々に回復し、ヨルダンは2005年に大使をイスラエルに戻しています。

2003年6月にアブドル2世国王は、ブッシュ大統領、シャロン首相、パレスチナ自治政府のマフムード・アッバ

ス首相を招いてアカバでサミットを主催しました。また2004年4月には、ネゲブの首相官邸にシャロン首相を訪問しています。

湾岸諸国

中東におけるオスロ和平プロセスの成果によって、湾岸諸国は1948年以降初めてイスラエルとの関係に関心を示しました。そして初の折衝が始まり、高官による相互訪問が続きました。1996年5月には、イスラエルはオマーンとカタールに通商代表事務所を開設し、特に水資源の利用、観光、農業、化学品、高度技術を重点に、経済的、科学的、商業的関係の発展を図りました。

2000年にパレスチナ人によるテロが再発したことから湾岸諸国との関係は冷却化し、オマーンのイスラエル通商代表事務所は閉鎖されました。

マグレブ諸国

1994年に、北アフリカの3つのアラブ諸国(モロッコ、モーリタニア、チュニジア)はその他のアラブ諸国に同調し、イスラエルと外交を樹立することによって平和と和解への道を進むことを選択しました。

モロッコとイスラエルの関係は様々なレベルと方法で築かれ、イスラエルは1994年11月にモロッコの首都ラバツ

トに連絡事務所を開設し、その4ヶ月後にはモロッコがイスラエルに事務所を開設したことで、二国間の外交関係が正式に樹立されました。

モーリタニアイスラム共和国とイスラエルは、1995年11月のバルセロナ会議においてスペインの外務大臣の立会いのもと、テルアビブとヌアクショットのスペイン大使館内に利益代表部をそれぞれ開設するとの協定を締結しました。モーリタニアは1996年5月にテルアビブに公館を開設し、イスラエルとの関係を完全に正常化したいとの意向を表明しています。

その後1999年10月に、モーリタニアはエジプト、ヨルダンに続き、イスラエルと完全な外交関係を樹立した3番目のアラブ国家となりました。

イスラエル、チュニジア、米国が1996年1月に作成した日程表に基づいて、イスラエルは1996年4月にチュニジアに利益代表部を開設し、その6週間後の5月にチュニジアも同様に利益代表部を開設しました。

穏健なマグレブ諸国との外交関係は、イスラエルにとって重要です。これらの諸国はアラブ世界において役割を果たしており、またイスラエル在住の多くの北アフリカからの移民は、その家族が何世紀にもわたって暮らしていた

マグレブ諸国に今も愛着を抱いています。こうした愛着心はマグレブ諸国との関係を深め、和平プロセスに役立つものと期待されています。

2000年のパレスチナ人によるテロの再開後、モロッコとチュニジアはイスラエルとの外交関係を断絶しました。ただし、一部の商業的關係や観光、その他の分野での交流は続いています。

ローマ法王庁

イスラエルとローマ法王庁の完全な外交関係の樹立(1993年12月にエルサレムで締結された基本合意の条件に基づくもの)は、教会のユダヤ主義とユダヤ民族に対する態度の歴史的な転換プロセスの重要な一歩と見なされています。こうしたプロセスは、1965年に第二バチカン公会議が「キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度についての宣言」(Nostra Aetate)を出したことで正式に始まりました。



エルサレムの西壁を訪れたローマ教皇ヨハネ・パウロ2世

・ G.P.O./アモス・ベン・ゲルシヨム

イスラエルとローマ法王庁はその基本合意において、「カトリック教会とユダヤ民族の特殊な性質の関係」を指摘し、「あらゆる形態の反ユダヤ主義及びあらゆる種類の人種差別主義や宗教的不寛容との戦い、並びに国家間の相互理解、コミュニティ間の寛容性、人の生命と尊厳の尊重の促進において適切に協力し、「国家間の紛争を平和的に解決し、国際社会から暴力と恐怖を排除する」ことを約束しています。その他に基本合意では、キリスト教の聖地に影響を及ぼしているイスラエルの「現状維持」制度や、宗教の自由に関する問題、聖地への巡礼、その他の事項が扱われています。

1997年11月にエルサレムにおいて、イスラエルのカソリック教会の地位とイスラエル法における立場について定める協定が調印され、イスラエルは聖地に存在する政府として歴史上初めて、カソリック教会を正式に認めました。

2000年3月に、教皇ヨハネ・パウロ2世が個人的な聖地巡礼でイスラエルを訪れ、ヴァイツマン大統領、バラク首相と会談しました。また教皇はラビの長老とも会談し、ヤド・バシェムと西壁を訪問しました。教皇のイスラエル訪問は、ユダヤ主義とカソリック教会の継続的な理解の取り組みを世界に示すものとなりました。

国連

イスラエル国は1949年5月11日に国連への加盟を認められ、59番目の国連加盟国となりました。それ以来様々な国連活動に参加し、保健、労働、食料、農業、教育、及び科学関連の国連組織に十分に貢献をしています。イスラエルは、国連のもとで行われている非政府組織の活動（航空や移民、通信や気象、貿易や女性の地位など様々な事項に関する活動）においても積極的な役割を果たしています。

50年の間、イスラエルは国連の地域グループから除外されていましたが、2000年4月に、アジアグループに加入するまでの暫定措置として西側地域のグループ(WEOG)に加えられました。これによってイスラエルは、主な国連組織の選挙及び被選挙権を獲得し、第60回国連総会の副議長に(WEOGを介して)選ばれました。

国連決議の中にはイスラエルにとって非常に重要なものがあります。例えば、国連安全保障理事会決議第242号(1967年11月22日)と第338号(1973年10月22日)は、アラブ・イスラエル紛争解決に向けた合意の枠組みを定めています。

世界シオニスト組織(WZO)は、ユダヤ民族の父祖の地への帰還を促進し、イスラエルの地でユダヤ人の生活を取り戻すために第一回シオニスト会議(1897年)において設立されました。WZOの主な設立目的は、1948年にユダヤ人国家としてイスラエル国が建国され、法的、国際的に認められたことによって達成されました。その後は、WZOはディアスポラのユダヤ人の連絡機関として機能しユダヤ民族の団結とイスラエルのユダヤ人の中心的な生活地としての確立に向けた運動の推進、移民の促進、世界中のユダヤ人社会における教育の推進、及び世界中のユダヤ人の権利保護を図っています。民主的に選ばれた世界シオニスト会議はWZOの最高機関として、4~5年に1回、エルサレムで会合を行っています。

長年にわたって国連は、イスラエルとアラブ近隣諸国間の敵対関係の終結を図るために、仲介者の任命、停戦と休戦条約に向けた国連の主導権の発揮、及び敵対国間に国連軍を派遣するなどの措置を取ってきました。

その一方で国連は、イスラエルに対する政治戦争の舞台として長年にわたって利用されてきました。21のアラブ諸国が、イスラム諸国やその同盟国、非同盟国とともに「自動的多数派」を構成し、国連総会における反イスラエル決議の採択を図ってきたのです。

国連総会にユダヤの意見を反映させるべく、イスラエルは2005年に欧州のナチス強制収容所解放60周年を記念する特別セッションを召集し、国際ホロコースト記念日に関する総会決議の採択にこぎ着けました。

世界のユダヤ人

バビロン捕囚(紀元前586年)とその後のユダヤ人の世界中への離散のなかで、イスラエルの地に居住するユダヤ人とこの地の外に居住するユダヤ人の間には、独特の力強い関係が生まれました。何世紀にもわたって互いに遠く離れていたにもかかわらず、ユダヤ人はずっと1つの民族であり続け、共通の歴史、宗教、祖国、及びユダヤ民族の肉体的精神的存続への一致した思いによって結ばれてきました。イスラエル建国(1948年)は、父祖の地に帰り、民族の生活と独立を復活させたいと願うユダヤ人の2000年来の夢の実現でした。

最近の算定によると世界のユダヤ人口は1,300万人を超えており、その41%はイスラエルに住んでいます。ユダヤ人は世界中でその多彩な歴史、思想と利益を共有し、様々な問題について対話を継続しています。

今日のイスラエルユダヤ機関(JAFI)は、イスラエル国と世界のユダヤ人との関係の発展に努めています。JAFIは1929年に世界シオニスト組織によって、英国委任統治当局、外国政府、及び国際組織に対してイスラエルの地のユダヤ人社会を代表する組織として設立されました。イスラエルが独立した後は、国家の業務の一部の責任が法律によってJAFIとWZOに移譲されました。具体的には、移民の統合、農村への定住、移民の住宅や教育問題、若者のための活動、都市再生などの業務です。ただし最近はこうした機能の多くを政府が果たしています。

世界のユダヤ人は、イスラエルをユダヤ人の生活の中心地として認め、社会的、政治的、金銭的支援によって、またイスラエルに移住しその技術や文化的背景をイスラエルに組み込むことによって、同国の建国に貢献しています。ユダヤ人の相互扶助の長い伝統は、ユダヤ系イスラエル人の様々な利益を満たすための多面的な組織ネットワークに象徴されています。

イスラエルは困っているユダヤ人を助け、イスラエルのための活動やヘブライ語の研究、経済機会、団体や個人のイスラエル訪問を促進することによってユダヤ人社会を強化し、そのつながりを深めようとしています。

イスラエル国は、世界中のユダヤ人社会の安全保障を重視しています。最近の反ユダヤ主義の台頭を受けて、イスラエルは各ユダヤ組織や欧州の各国政府、米国、その他の諸国と協力して、民族差別主義全般、特に反ユダヤ主義と戦っています。

